

資料目次

資料 1	文学部改組概要	P. 3
資料 2	文学部 3 つのポリシーとの関係性	P. 4
資料 3	カリキュラムツリー	P. 13
資料 4	履修モデル	P. 22
資料 5	熊本大学における GPA 制度について	P. 53
資料 6	熊本大学科目ナンバリング	P. 54
資料 7	カリキュラムマップ	P. 62
資料 8	中学校・高等学校教育実習実施要領	P. 71
資料 9	博物館実習Ⅰシラバス	P. 73
資料 10	博物館実習Ⅱシラバス	P. 75
資料 11	博物館実習Ⅲ受入依頼文・回答様式	P. 77
資料 12	博物館実習Ⅲシラバス	P. 79
資料 13	「社会調査実習Ⅰ」、「社会調査実習Ⅱ」、「社会調査実習 A 1」、「社会調査実習 A 2」、「社会調査実習 B 1」、「社会調査実習 B 2」シラバス	P. 81
資料 14	社会調査法概説シラバス	P. 86
資料 15	実習施設承諾書	P. 87
資料 16	熊本市における保健、福祉及び医療関係実習生受入れ実施要綱	P. 96
資料 17	熊大病院実習に関する誓約書等	P. 112
資料 18	熊本県精神保健福祉センターにおける学生等実習受け入れに関する要項	P. 117
資料 19	熊本地域医療センター誓約書等	P. 122
資料 20	熊本少年鑑別所・ピネル記念病院、ソーシャルスクエア水前寺店誓約書	P. 124
資料 21	心理実習シラバス	P. 127
資料 22	心理演習シラバス	P. 128
資料 23	国立大学法人熊本大学職員就業規則	P. 130
資料 24	国立大学法人熊本大学教育職員選考規則	P. 150
資料 25	国立大学法人熊本大学教員選考基準	P. 153
資料 26	熊本大学大学院人文社会科学研究部教員選考内規	P. 156
資料 27	熊本大学黒髪北地区配置図	P. 157
資料 28	熊本大学文法学部本館等 配置図	P. 158
資料 29	熊本大学教授会規則	P. 167

資料 30	熊本大学文学部教授会規則	P. 170
資料 31	文学部各種委員会	P. 173
資料 32	国立大学法人熊本大学自己点検・評価に関する規則	P. 174
資料 33	国立大学法人熊本大学大学評価会議規則	P. 177
資料 34	キャリア支援シラバス	P. 180
資料 35	KUMA★NAVI（クマナビ）	P. 181

ディプロマ・ポリシー

人文科学科人間科学コースは、人間や人間関係についての知見を持ち、目先の利害にとらわれず、教養ある批判的判断のできる人材の育成を目標とするとともに、それぞれの履修モデルの特性を活かして、論理的判断力（哲学）や実証的判断力（心理学）を養い、問題解決への柔軟で大胆な発想をすることができ、状況に応じた行動がとれる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・人間科学（哲学・心理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

学修成果

豊かな教養

・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

- ・人間科学（哲学・心理学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・人間科学（哲学・心理学）における研究手法を使用することができる。
- ・人間科学（哲学・心理学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

・人間科学（哲学・心理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

社会的な実践力

・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

グローバルな視野

- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。
- ・外国語の文献を読解することができる。

情報通信技術の活用力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

カリキュラム・ポリシー

現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成。1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに文学部で開講する各学問領域の基礎的専門科目を全て履修できるようにし、2年次に全てのコースから配属先を選択できるように配置。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するように編成。

体系性（教養教育科目・コース共通）

多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともにグローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的として編成。

体系性（専門教育科目（専門基礎科目・コース共通））

1年次には、人文・社会科学の基礎的な知識を幅広く学ぶ概論や概説、入門の授業科目に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」を配置。2年次には、将来のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアを設計できることを目的とした「キャリア支援」など、専門分野以外にも視野を広げる科目を配置。

体系性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕））

人間科学（哲学・心理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成。

段階性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕））

基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成。

個別化（進路への対応）

2年次より履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次には人間科学（哲学・心理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成。

アドミッション・ポリシー

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

文学部人文科学科 社会人間学コース：3つのポリシーの関係性

ディプロマ・ポリシー

人文科学科社会人間学コースは、「社会的存在としての人間」という認識から出発し、人間と人間を取り巻く社会的現象にかかわる人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考や学外での調査などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

学修成果

豊かな教養

・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）における研究手法を使用することができる。
- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の最新動向について様々な情報源から自立的に学ぶことができる。

創造的な知性

・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

社会的な実践力

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・社会に参加し、他者との対話や協力をつづけて課題解決に貢献することができる。

グローバルな視野

- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。
- ・外国語の文献を読解することができる。

情報通信技術の活用力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

カリキュラム・ポリシー

現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成。1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに文学部で開講する各学問領域の基礎的専門科目を全て履修できるようにし、2年次に全てのコースから配属先を選択できるように配置。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するように編成。

体系性（教養教育科目・コース共通）

多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともにグローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的として編成。

体系性（専門教育科目（専門基礎科目・コース共通）

1年次には、人文・社会科学の基礎的な知識を幅広く学ぶ概論や概説、入門の授業科目に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」を配置。2年次には、将来のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアを設計できることを目的とした「キャリア支援」など、専門分野以外にも視野を広げる科目を配置。

体系性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕）

社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の学問体系を基盤として教育課程を編成。

段階性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕）

基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成。

個別化（進路への対応）

3・4年次には社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成。

アドミッション・ポリシー

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

文学部人文科学科 地域科学コース：3つのポリシーの関係性

ディプロマ・ポリシー

人文科学科地域科学コースは、「地域社会の生活主体としての人間」という観点から、人間とその地域的環境（社会文化的・自然的環境）について多面的・有機的に理解を深め、現代の地域社会が抱える諸問題の解決に実践的に取り組む人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

学修成果

豊かな教養

・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）における研究手法を使用することができる。
- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）における知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

社会的な実践力

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心を持って行動できる。

グローバルな視野

- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。
- ・外国語の文献を読解することができる。

情報通信技術の活用能力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

- ・相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
- ・常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。

カリキュラム・ポリシー

現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成。1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに文学部で開講する各学問領域の基礎的専門科目を全て履修できるようにし、2年次に全てのコースから配属先を選択できるように配置。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するように編成。

体系性（教養教育科目・コース共通）

多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともにグローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的として編成。

体系性（専門教育科目（専門基礎科目・コース共通）

1年次には、人文・社会科学の基礎的な知識を幅広く学ぶ概論や概説、入門の授業科目に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」を配置。2年次には、将来のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアを設計できることを目的とした「キャリア支援」など、専門分野以外にも視野を広げる科目を配置。

体系性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕）

地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成

段階性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕）

基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成。

個別化（進路への対応）

3・4年次には地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成。

アドミッション・ポリシー

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

文学部人文科学科 歴史資料学コース：3つのポリシーの関係性

ディプロマ・ポリシー

人文科学科歴史資料学コースは、文献史料や考古資料を的確な手法・技術で調査・分析する作業を通じて過去の歴史を読み解き、さらに人間や社会について真摯に考察するとともに、現代を含めた時代の本質を正しく理解したうえで現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・日本史学・考古学に関する専門的な知識や理論、技術を駆使して、主体的に史資料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

学修成果

豊かな教養

・歴史や文化・社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

・歴史学の基本的理論・概念について理解し、説明することができる。
 ・日本史学・考古学の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。
 ・日本史学については古文書・古記録を整理・読解・分析する専門的な能力を持つことができる。
 ・考古学については遺跡・遺構・遺物を調査・整理・分析する専門的な能力を持つことができる。
 ・日本史学・考古学研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集ができる。
 ・日本史学・考古学に関連した専門性の高い学術論文を読解することができる。
 ・日本史学・考古学に関する確かな専門性に基づき、柔軟な発想と論理的思考、説得力のある表現を用いて学術的文章を作成することができる。

創造的な知性

・歴史学全般及び日本史学・考古学の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法を提案することができる。

社会的な実践力

・柔軟かつ論理的な思考力を基盤に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。
 ・文化財の保護・活用及び博物館活動に寄与することができる。

グローバルな視野

・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

情報通信技術の活用能力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で、意見や情報を伝え、他者と議論やコミュニケーションをすることができる。
 ・豊かな表現力と明解な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。
 ・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業、議論によって、問題解決を図ることができる。

カリキュラム・ポリシー

現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成。1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに文学部で開講する各学問領域の基礎的専門科目を全て履修できるようにし、2年次に全てのコースから配属先を選択できるように配置。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保證するように編成。

体系性（教養教育科目・コース共通）

多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともにグローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的として編成。

体系性（専門教育科目（専門基礎科目）・コース共通）

1年次には、人文・社会科学の基礎的な知識を幅広く学ぶ概論や概説、入門の授業科目に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」を配置。2年次には、将来のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアを設計できることを目的とした「キャリア支援」など、専門分野以外にも視野を広げる科目を配置。

体系性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕））

日本史学・考古学の学問体系を基盤として教育課程を編成。

段階性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕））

基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成。

個別化（進路への対応）

2年次より履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保證するよう編成。

アドミッション・ポリシー

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

文学部人文科学科 超域歴史学コース：3つのポリシーの関係性

ディプロマ・ポリシー

人文科学科超域歴史学コースは、史料の総合的分析力に依拠した論理実証力を基礎に、アジアと欧米の歴史展開や社会思想を地域横断的かつ総合的に分析・討論することを通じて、異なる社会や文化に対する理解を深め、広い視野と柔軟な思考力をもって現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学に関する専門的な知識や理論、外国語（欧米諸語、漢文、中国語等）運用能力を駆使して、主体的に史料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

学修成果

豊かな教養

・歴史や文化・社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

- ・歴史学(アジア史・西洋史・近現代社会思想史)の基本的理論・概念について理解し、説明することができる。
- ・歴史学の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。
- ・歴史学における研究方法を使用することができる。
- ・歴史学研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集ができる。
- ・歴史学に関連した抽象度の高い学術論文を読解することができる。
- ・歴史学研究に必要な外国語文献(英語、漢籍、中国語等)を読解できる。

創造的な知性

・歴史学(アジア史・西洋史・近現代社会思想史)の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法を提案することができる。

社会的な実践力

- ・柔軟かつ論理的な思考力を基礎に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。
- ・市民社会の一員として、人権問題や社会的マイノリティにかかる問題に理解と関心を持つことができる。

グローバルな視野

- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。
- ・外国語の文献を読解することができる。

情報通信技術の活用能力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

- ・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で、意見や情報を伝え、相手と議論やコミュニケーションをすることができる。
- ・豊かな表現力と明解な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。
- ・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業(議論)によって、問題解決を図ることができる。

カリキュラム・ポリシー

現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基礎とした教育課程を編成。1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに文学部で開講する各学問領域の基礎的専門科目を全て履修できるようにし、2年次に全てのコースから配属先を選択できるように配置。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保證するように編成。

体系的性(教養教育科目・コース共通)

多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともにグローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的として編成。

体系的性(専門教育科目(専門基礎科目)・コース共通)

1年次には、人文・社会科学の基礎的な知識を幅広く学ぶ概論や概説、入門の授業科目に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」を配置。2年次には、将来のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアを設計できることを目的とした「キャリア支援」など、専門分野以外にも視野を広げる科目を配置。

体系的性(専門教育科目(専門科目[基盤科目][展開科目]))

アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学の学問体系を基礎として教育課程を編成。

段階性(専門教育科目(専門科目[基盤科目][展開科目]))

基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成。

個別化(進路への対応)

2年次より履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保證するよう編成。

アドミッション・ポリシー

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

文学部人文科学科 東アジア言語文化学コース：3つのポリシーの関係性

ディプロマ・ポリシー

人文科学科東アジア言語文化学コースは、東アジアの伝統文化や現代的課題に対して幅広い目配りの出来る豊かな専門的知識と理解力を修得し、東アジアの言語や文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・東アジアの言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日の課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

学修成果

豊かな教養

・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

- ・東アジアの言語や文学、文化の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・東アジアの言語や文学、文化における研究手法を使用することができる。
- ・東アジアの言語や文学、文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

社会的な実践力

・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

グローバルな視野

- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。
- ・外国語の文献を読解することができる。

情報通信技術の活用能力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

カリキュラム・ポリシー

現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成。1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに文学部で開講する各学問領域の基礎的専門科目を全て履修できるようにし、2年次に全てのコースから配属先を選択できるように配置。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するように編成。

体系性（教養教育科目・コース共通）

多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともにグローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的として編成。

体系性（専門教育科目（専門基礎科目）・コース共通）

1年次には、人文・社会科学の基礎的な知識を幅広く学ぶ概論や概説、入門の授業科目に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」を配置。2年次には、将来のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアを設計できることを目的とした「キャリア支援」など、専門分野以外にも視野を広げる科目を配置。

体系性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕））

日本語日本文学及び中国語中国文学の学問体系を基盤として教育課程を編成。

段階性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕））

基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成。

個別化（進路への対応）

3・4年次には日本語日本文学及び中国語中国文学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成。

アドミッション・ポリシー

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

文学部人文科学科 欧米言語文化学コース：3つのポリシーの関係性

ディプロマ・ポリシー

人文科学科欧米言語文化学コースは、英語、独語、仏語の実践的な運用能力を高めるとともに、各言語圏の言語、文学、文化、社会についての知見を幅広く獲得し、自国の文化や制度に対する相対的な視点を持ち、英語、独語、仏語やそれらの言語による文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・欧米の言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・欧米の言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

学修成果

豊かな教養

・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

・欧米の言語や文学、文化の基本的理論・概念について説明することができる。
 ・欧米の言語や文学、文化における研究手法を使用することができる。
 ・欧米の言語や文学、文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

・欧米の言語や文学、文化に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

社会的な実践力

・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

グローバルな視野

・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。
 ・外国語の文献を読解することができる。

情報通信技術の活用力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

カリキュラム・ポリシー

現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成。1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに文学部で開講する各学問領域の基礎的専門科目を全て履修できるようにし、2年次に全てのコースから配属先を選択できるように配置。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保证するように編成。

体系性（教養教育科目・コース共通）

多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともにグローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的として編成。

体系性（専門教育科目（専門基礎科目）・コース共通）

1年次には、人文・社会科学の基礎的な知識を幅広く学ぶ概論や概説、入門の授業科目に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」を配置。2年次には、将来のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアを設計できることを目的とした「キャリア支援」など、専門分野以外にも視野を広げる科目を配置。

体系性（専門教育科目（専門科目【基盤科目】【展開科目】））

欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の学問体系を基盤として教育課程を編成。

段階性（専門教育科目（専門科目【基盤科目】【展開科目】））

基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成。

個別化（進路への対応）

3・4年次には欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保证するよう編成。

アドミッション・ポリシー

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

文学部人文科学科 多言語文化学コース：3つのポリシーの関係性

ディプロマ・ポリシー

人文科学科多言語文化学コースは、異文化接触がもたらす文化変容、もしくは人類の言語文化及びその精華である文学作品の諸相に関して、その相互作用を複眼的・国際的に考察する視野を持ち、比較文学、国際文化学の視座から新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学位（文学）を授与します。

- ・比較文学・比較文化、国際文化学の基本的概念・理論について説明できる。
- ・比較文学・比較文化、国際文化学に関する知見を用いて、今日的課題を発見し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

学修成果

豊かな教養

・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

・比較文学・比較文化、国際文化学の基本的理論・概念について説明することができる。
 ・比較文学・比較文化、国際文化学における研究手法を使用することができる。
 ・文学・文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

・比較文学・比較文化、国際文化学を応用して、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

社会的な実践力

・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
 ・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心をもって行動できる。

グローバルな視野

・異文化理解や国際交流に関心を持ち、広い視野から物事を理解できる。
 ・複数の外国語の文献を読解することができる。
 ・外国語による基本的な対話や簡単なプレゼンテーションを行うことができる。

情報通信技術の活用

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

・相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。
 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
 ・常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。

カリキュラム・ポリシー

現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成。1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに文学部で開講する各学問領域の基礎的専門科目を全て履修できるようにし、2年次に全てのコースから配属先を選択できるように配置。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するように編成。

体系性（教養教育科目・コース共通）

多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともにグローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的として編成。

体系性（専門教育科目（専門基礎科目）・コース共通）

1年次には、人文・社会科学の基礎的な知識を幅広く学ぶ概論や概説、入門の授業科目に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」を配置。2年次には、将来のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアを設計できることを目的とした「キャリア支援」など、専門分野以外にも視野を広げる科目を配置。

体系性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕）

比較文学及び国際文化学の学問体系を基盤として教育課程を編成。

段階性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕）

基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成。

個別化（進路への対応）

3、4年次には比較文学、もしくは国際文化学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成。

アドミッション・ポリシー

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

文学部人文科学科 現代文化資源学コース：3つのポリシーの関係性

ディプロマ・ポリシー

人文科学科現代文化資源学コースは、有形・無形のさまざまな文化資源を収集・整理・分析する能力、外国語運用能力、メディア運用能力を養成することで、文化資源の持つ多面的な価値を理解し、次世代が活用しうる資源として発信できる能力を高め、価値の多様化が進む現代社会において新たな価値を創造できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・地域固有の文化を記録することについて深い関心を持ち、記録のもつ価値についてわかりやすく説明できる。
- ・異文化交流・国際交流に関心を持ち、文化的背景の異なる人に対して、自分の知っている文化について伝えることができる。
- ・情報メディアを通じて、画像・動画や音声を含む文化に関するさまざまな資料を活用しやすい形で発信できる。

豊かな教養

・人や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

・現代文化資源学の基本的理論・概念を説明できる。
 ・現代文化資源学における研究方法を使用することができる。
 ・現代文化資源学の最新動向について自律的に学ぶことができる。
 ・現代文化資源学に関連する身近な問題に関心を持ち、課題を抽出し、具体的な解決法を提案できる。
 ・地域固有の文化について関心を持ち、資料を収集し、適切な方法で整理して記録することができる。
 ・地域固有の文化の特徴をより広い視点から説明することができる。
 ・文化についての資料を収集する目的をわかりやすく説明した上で、協力者を探し、フィールドワーク調査を実施することができる。

創造的な知性

・固有の文化を尊重するだけでなく、次の世代が活用しうる文化資源として捉え直すことができる。

社会的な実践力

・地域固有の文化の現状とその地域の事情を把握した上で、地域固有の文化を将来どのように活用できるかをわかりやすく提案することができる。
 ・多様な価値の存在を認識し、価値観の違いが生み出す問題をどのように回避できるかを提案することができる。

グローバルな視野

・地域固有の文化がどのように資源として活用されているかという観点から、諸外国の事情に関心を持ち、情報を収集することができる。
 ・日本の地域固有の文化について、文化的背景の異なる人々がどのような関心を持っているかに注意を払い、適切に情報を発信することができる。

情報通信技術の活用力

・インターネットを活用して情報の収集や確かな分析及びコミュニケーションを行うことができる。
 ・デジタルアーカイブの概念について理解し、さまざまなデジタルアーカイブを活用できる。
 ・デジタルアーカイブの仕組みについて理解し、目的に応じたデジタルアーカイブを立案できる。

汎用的な知力

・ロジカルシンキング、クリティカルシンキングができる。
 ・向上心を常に持ち、自発的に自らの能力及びキャリアの開発ができる。

カリキュラム・ポリシー

現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成。1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに文学部で開講する各学問領域の基礎的専門科目を全て履修できるようにし、2年次に全てのコースから配属先を選択できるように配置。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するように編成。

体系性（教養教育科目・コース共通）

多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともにグローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的として編成。

体系性（専門教育科目（専門基礎科目）・コース共通）

1年次には、人文・社会科学の基礎的な知識を幅広く学ぶ概論や概説、入門の授業科目に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」を配置。2年次には、将来のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアを設計できることを目的とした「キャリア支援」など、専門分野以外にも視野を広げる科目を配置。

体系性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕））

現代文化資源学の学問体系を基盤として教育課程を編成。

段階性（専門教育科目（専門科目〔基盤科目〕〔展開科目〕））

基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成。

個別化（進路への対応）

3・4年次には現代文化資源学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成。

アドミッション・ポリシー

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

学修成果

文学部 人文学科 人間科学コース カリキュラムツリー

人間科学コース ディプロマポリシー：
 人文学科人間科学コースは、人間や人間関係についての知見を持ち、目先の利害にとらわれず、教養ある批判的判断のできる人材の育成を目標とするとともに、それぞれの履修モデルの特性を活かして、論理的判断力(哲学)や実証的判斷力(心理学)を養い、問題解決への柔軟で大胆な発想をすることができ、状況に応じた行動がとれる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・人間科学(哲学・心理学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

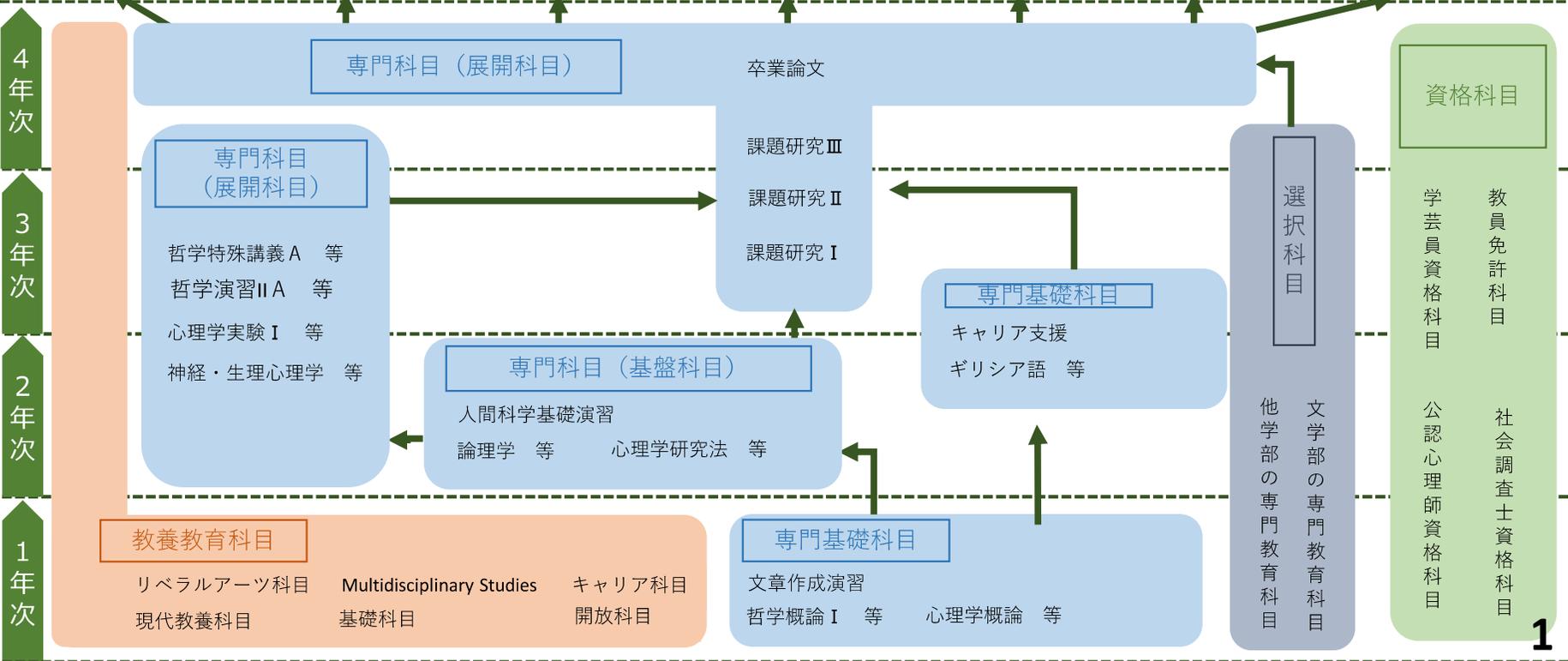
人間科学コース カリキュラムポリシー

①教育課程編成の方針
 体系性：人間科学(哲学・心理学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
 段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
 個別化(進路への対応)：2年次より履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次には人間科学(哲学・心理学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保障するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針
 授業は、知識を伝えることももちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えて(分析・考察)、表現する(まとめる)」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針
 カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。
 学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。

<p>豊かな教養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。 	<p>確かな専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間科学(哲学・心理学)の基本的理論・概念について説明することができる。 ・人間科学(哲学・心理学)における研究方法を使用することができる。 ・人間科学(哲学・心理学)の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。 	<p>創造的な知性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間科学(哲学・心理学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。 	<p>社会的な実践力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。 	<p>グローバルな視野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。 ・外国語の文献を読解することができる。 	<p>情報通信技術の活用力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。 	<p>汎用的な知力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
---	--	---	---	---	--	---



文学部 人文科学科 社会人間学コース カリキュラムツリー

社会人間学コース ディプロマポリシー：

人文科学科社会人間学コースは、「社会的存在としての人間」という認識から出発し、人間と人間を取り巻く社会的現象にかかわる人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考や学外での調査などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

社会人間学コース カリキュラムポリシー：

①教育課程編成の方針

体系性：社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するように編成しています。

個別化(進路への対応)：3・4年次には社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保障するよう編成しています。

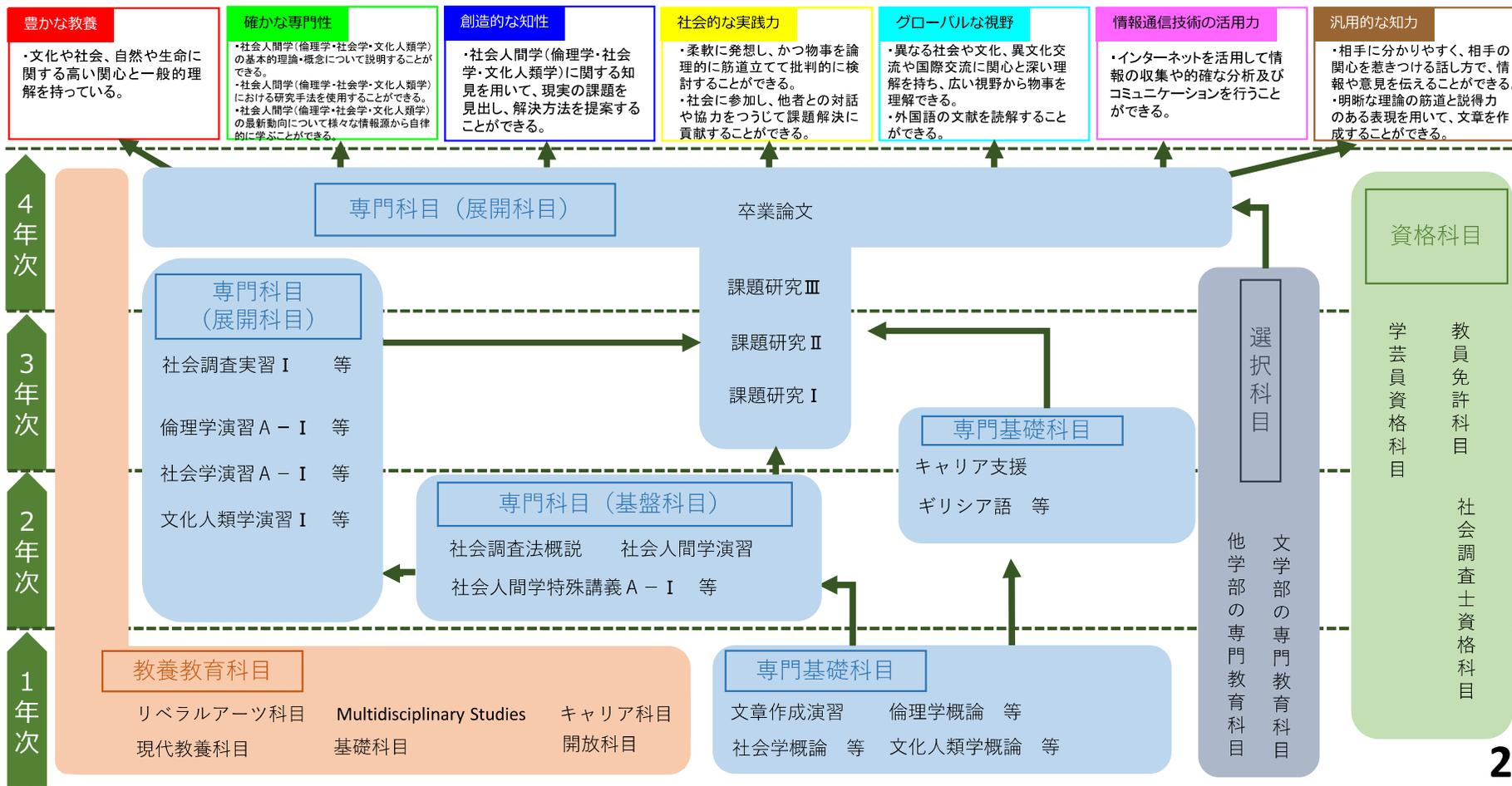
②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることももちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えて(分析・考察)、表現する(まとめる)」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習や実習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。



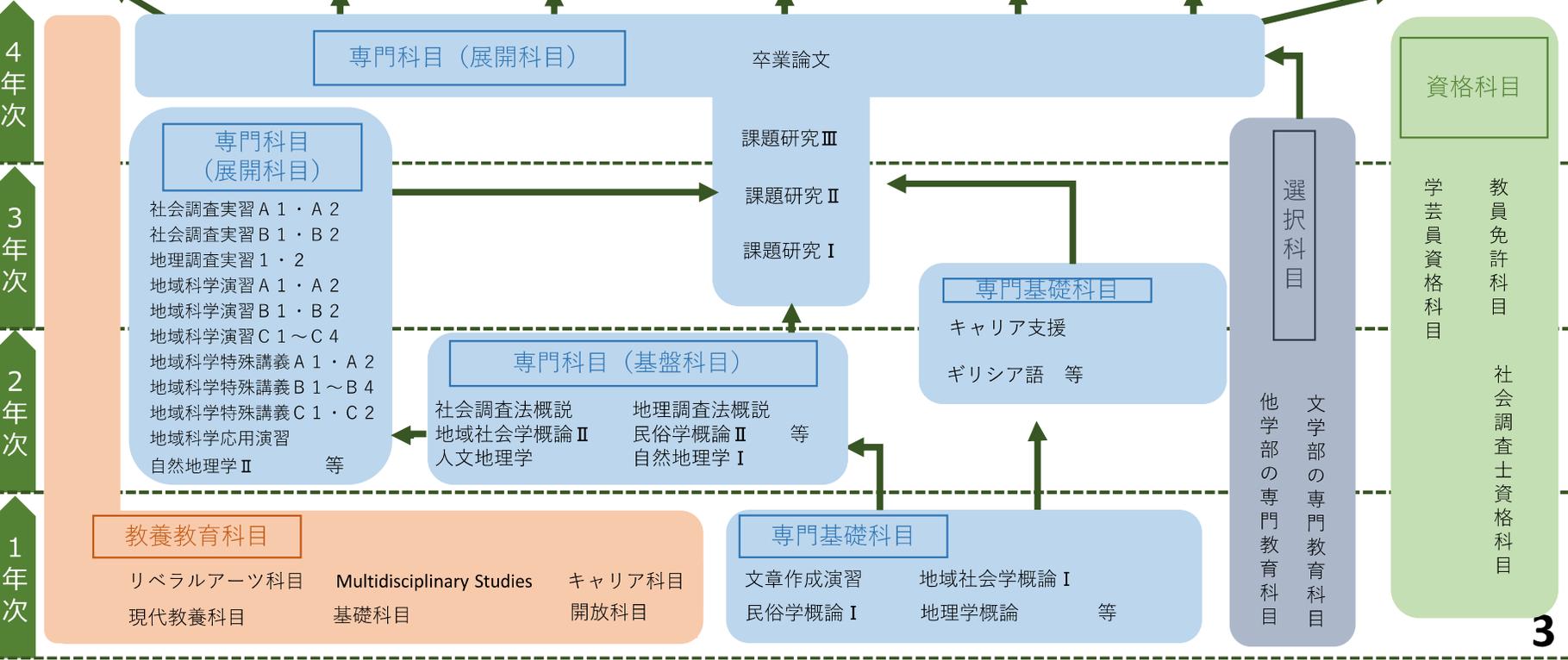
文学部 人文科学科 地域科学コース カリキュラムツリー

地域科学コース ディプロマポリシー：
 人文科学科地域科学コースは、「地域社会の生活主体としての人間」という観点から、人間とその地域的環境(社会文化的・自然的環境)について多面的・有機的に理解を深め、現代の地域社会が抱える諸問題の解決に実践的に取り組む人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

地域科学コース カリキュラムポリシー：
 ①教育課程編成の方針
 体系的・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。段階性・基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。個別化(進路への対応)：3・4年次には地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保證するよう編成しています。
 ②教育課程における教育・学習方法に関する方針
 授業は、知識を伝えることももちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えて(分析・考察)、表現する(まとめる)」、それを教員がサポートします。
 ③学修成果の評価の方針
 カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。

豊かな教養 ・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。	確かな専門性 ・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)の基本的理論・概念について説明することができる。 ・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)における研究方法を使用することができる。 ・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。	創造的な知性 ・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)における知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。	社会的な実践力 ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。 ・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心を持って行動できる。	グローバルな視野 ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。 ・外国語の文献を読解することができる。	情報通信技術の活用能力 ・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。	汎用的な知力 ・相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。 ・常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。
---	---	--	--	---	---	---



文学部 人文科学科 超域歴史学コース カリキュラムツリー

超域歴史学コース ディプロマポリシー：

人文科学科超域歴史学コースは、史料の総合的分析力に依拠した論理的実証力を基礎に、アジアと欧米の歴史展開や社会思想を地域横断的かつ総合的に分析・討論することを通じて、異なる社会や文化に対する理解を深め、広い視野と柔軟な思考力をもって現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学に関する専門的な知識や理論、外国語(欧米諸語、漢文、中国語等)運用能力を駆使して、主体的に史料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

超域歴史学コース カリキュラムポリシー：

①教育課程編成の方針

体系性：アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化(進路への対応)：2年次より履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。

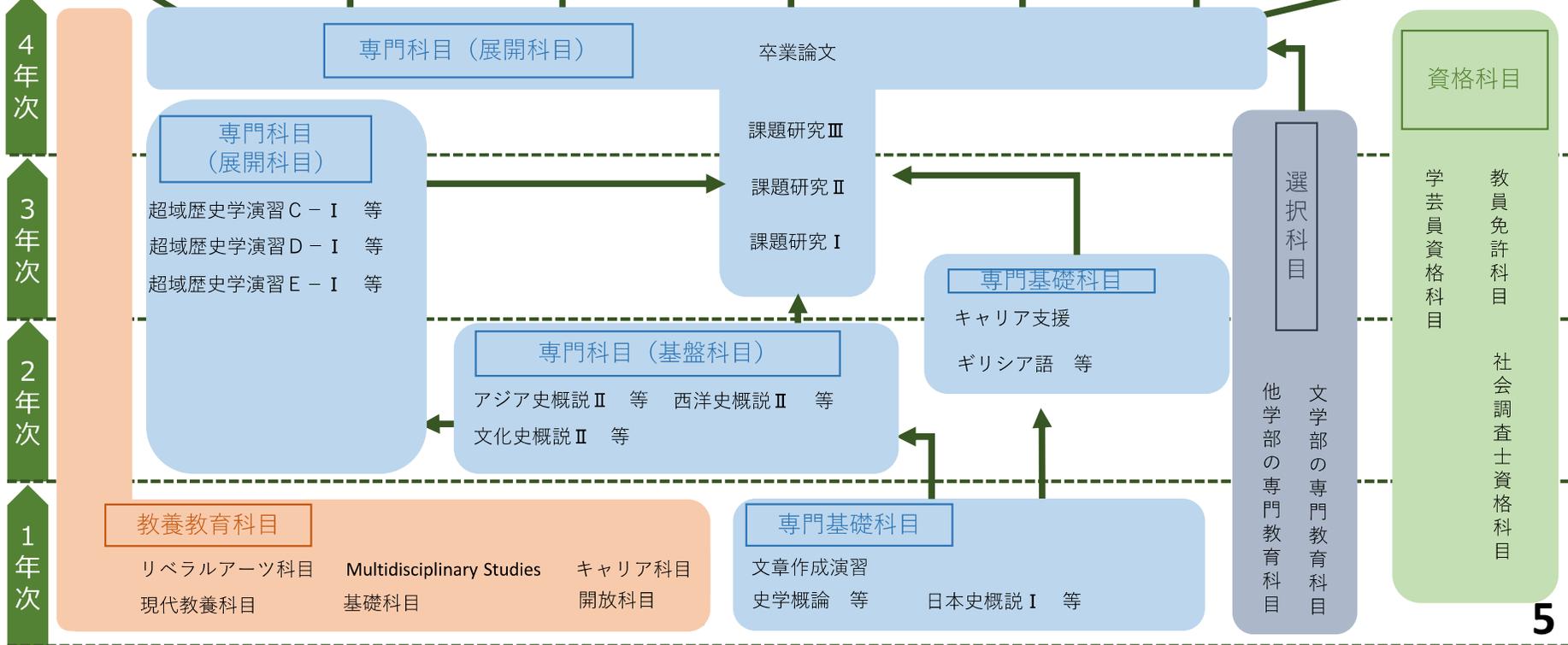
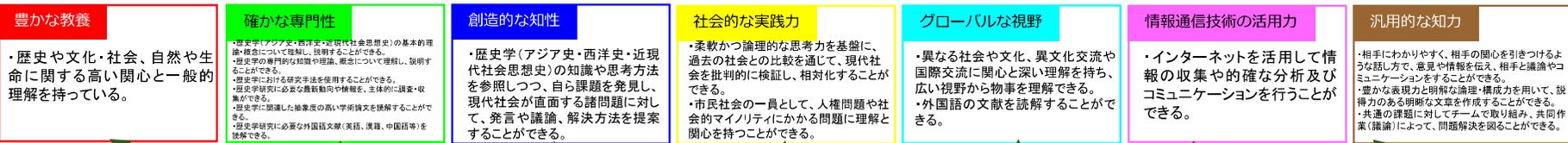
②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えて(分析・考察)、表現する(まとめる)」それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。



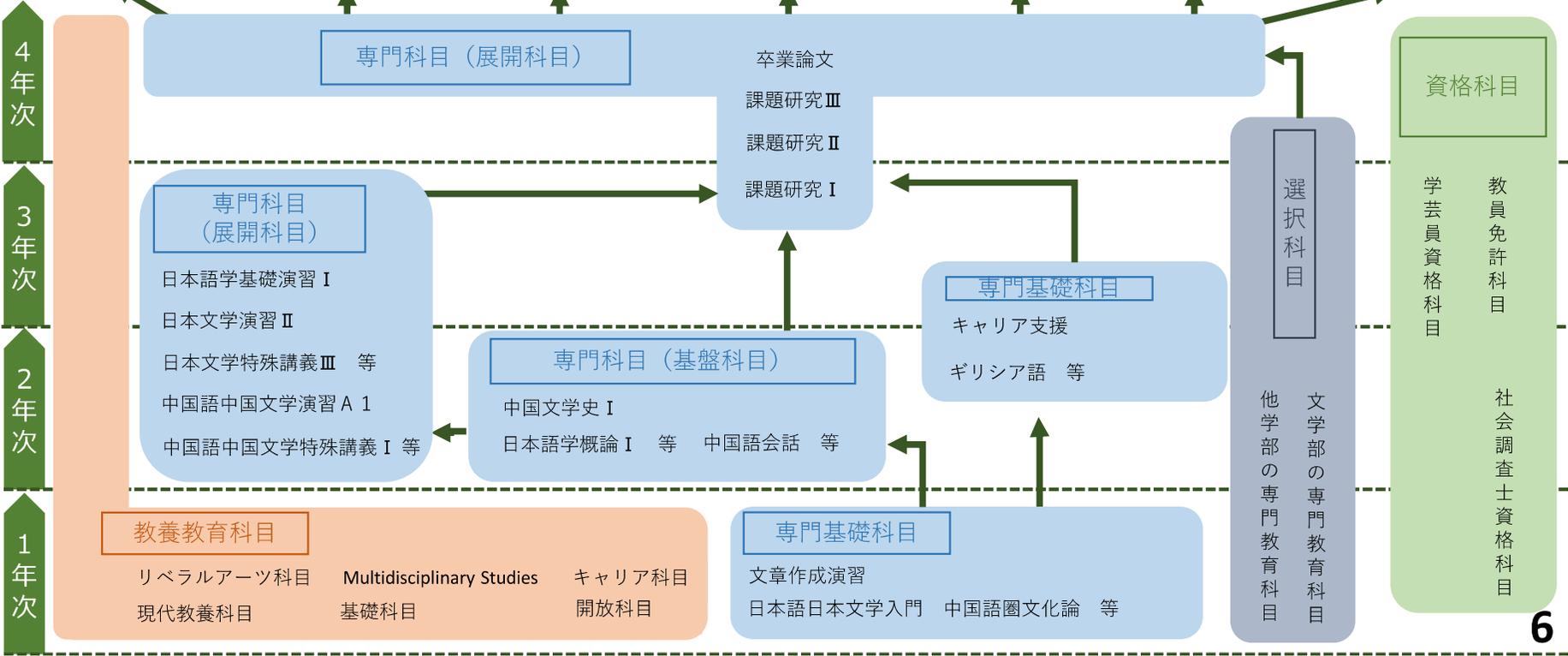
文学部 人文科学科 東アジア言語文化学コース カリキュラムツリー

東アジア言語文化学コース ディプロマポリシー：
 人文科学科東アジア言語文化学コースは、東アジアの伝統文化や現代的課題に対して幅広い目配りの出来る豊かな専門的知識と理解力を修得し、東アジアの言語や文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・東アジアの言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日の課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

東アジア言語文化学コース カリキュラムポリシー：
 ①教育課程編成の方針
 体系性：日本語日本文学及び中国語中国文学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
 段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
 個別化(進路への対応)：3・4年次には日本語日本文学及び中国語中国文学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保證するよう編成しています。
 ②教育課程における教育・学習方法に関する方針
 授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えて(分析・考察)、表現する(まとめる)」、それを教員がサポートします。
 ③学修成果の評価の方針
 カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。
 学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

豊かな教養 ・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。	確かな専門性 ・東アジアの言語や文学、文化の基本的理論・概念について説明することができる。 ・東アジアの言語や文学、文化における研究方法を使用することができる。 ・東アジアの言語や文学、文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。	創造的な知性 ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。	社会的な実践力 ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。	グローバルな視野 ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。 ・外国語の文献を読解することができる。	情報通信技術の活用能力 ・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。	汎用的な知力 ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
---	---	--	---	---	---	---



文学部 人文学科 欧米言語文化学コース カリキュラムツリー

欧米言語文化学コース ディプロマポリシー：

人文学科欧米言語文化学コースは、英語、独語、仏語の実践的な運用能力を高めるとともに、各言語圏の言語、文学、文化、社会についての知見を幅広く獲得し、自国の文化や制度に対する相対的な視点を持ち、英語、独語、仏語やそれらの言語による文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・欧米の言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・欧米の言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

欧米言語文化学コース カリキュラムポリシー：

①教育課程編成の方針

体系性：欧米言語文化学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化(進路への対応)：3・4年次には欧米言語文化学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保障するよう編成しています。

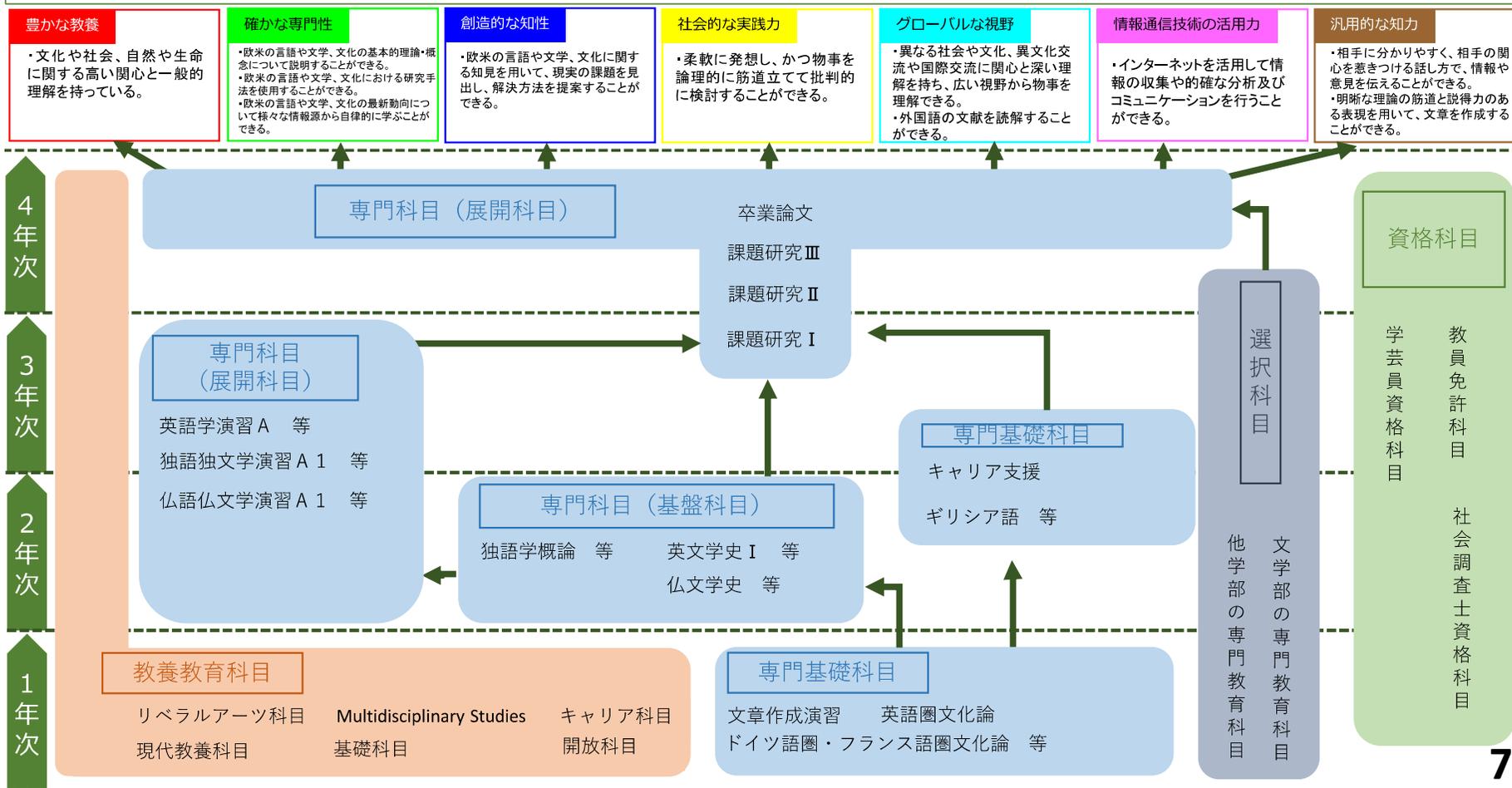
②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えて(分析・考察)、表現する(まとめる)」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。



文学部 人文学科 現代文化資源学コース カリキュラムツリー

現代文化資源学コース ディプロマポリシー：

人文学科現代文化資源学コースは、有形・無形のさまざまな文化資源を収集・整理・分析する能力、外国語運用能力、メディア運用能力を養成することで、文化資源の持つ多面的な価値を理解し、次世代が活用しうる資源として発信できる能力を高め、価値の多様化が進む現代社会において新たな価値を創造できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・地域固有の文化を記録することについて深い関心を持ち、記録のもつ価値についてわかりやすく説明できる。
- ・異文化交流・国際交流に関心を持ち、文化的背景の異なる人に対して、自分の知っている文化について伝えることができる。
- ・情報メディアを通じて、画像・動画や音声を含む文化に関するさまざまな資料を活用しやすい形で発信できる。

現代文化資源学コース カリキュラムポリシー：

①教育課程編成の方針

体系性：現代文化資源学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するように編成しています。

個別化(進路への対応)：3・4年次には現代文化資源学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保證するように編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

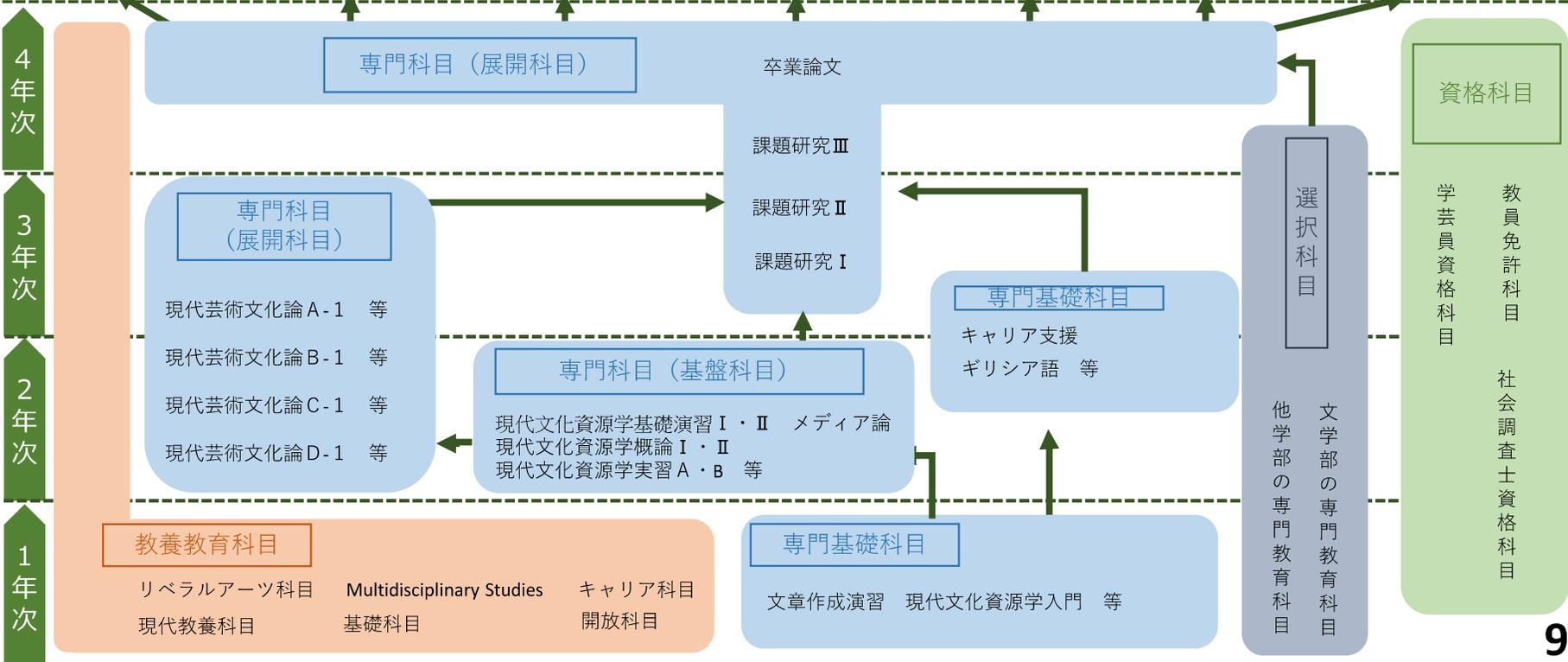
授業は、知識を伝えることももちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えて(分析・考察)、表現する(まとめる)」それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

豊かな教養 ・人や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。	確かな専門性 ・現代文化資源学の基本的理論・概念を説明できる。 ・現代文化資源学における研究方法を使用することができる。 ・現代文化資源学の最新動向について自律的に学ぶことができる。 ・現代文化資源学に関連する必要科目に関心を持ち、選修を抽出し、具体的な解決法を提案できる。 ・地域固有の文化について関心を持ち、資料を収集し、適切な方法で整理して記録することができる。 ・地域固有の文化の特徴をより深い視点から説明することができる。 ・文化についての資料を収集する目的をわかりやすく説明した上で、協力者を探し、フィールドワーク調査を実施することができる。	創造的な知性 ・固有の文化を尊重するだけでなく、次の世代が活用しうる文化資源として捉え直すことができる。	社会的な実践力 ・地域固有の文化の現状とその地域の事情を把握した上で、地域固有の文化を将来どのように活用できるかをわかりやすく提案することができる。 ・多様な価値の存在を認識し、価値観の違いが生み出す問題をどのように回避できるかを提案することができる。	グローバルな視野 ・地域固有の文化がどのように資源として活用されているかという観点から、諸外国の事情に関心を持ち、情報を収集することができる。 ・日本の地域固有の文化について、文化的背景の異なる人々がどのような関心を持っているかに注意を払い、適切に情報を発信することができる。	情報通信技術の活用能力 ・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。 ・デジタルアーカイブの概念について理解し、さまざまなデジタルアーカイブを活用できる。 ・デジタルアーカイブの仕組みについて理解し、目的に応じたデジタルアーカイブを立案できる。	汎用的な知力 ・ロジカルシンキング、クリティカルシンキングができる。 ・向上心を常に持ち、自発的に自らの能力及びキャリアの開発ができる。
--	---	--	---	---	---	---



人間科学コース・哲学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。
		選択科目	○哲学概論Ⅰ (1年)	2	
			心理学概論 (1年)	4	
			倫理学概論 (1年)		
			社会学概論 (1年)		
			文化人類学概論 (1年)		
			地域社会学概論Ⅰ (1年)		
			民俗学概論Ⅰ (1年)		
			地理学概論 (1年)		
			史学概論 (1年)	6	
			日本史概説Ⅰ (1年)		
			考古学概説Ⅰ (1年)		
			アジア史概説Ⅰ (1年)		
			西洋史概説Ⅰ (1年)		
	文化史概説Ⅰ (1年)				
	日本語日本文学入門 (1年)				
	中国語圏文化論 (1年)				
	英語圏文化論 (1年)				
	ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)				
	比較文学・国際文化学入門 (1年)				
現代文化資源学入門 (1年)					
ギリシア語A (2年)					
ギリシア語B (2年)					
キャリア支援 (2年)					
専 門 科 目	基礎科目(10)	必修科目	人間科学基礎演習 (2年)	2	84~91
		選択科目	○哲学概論ⅡA (2年)	2	
			○哲学概論ⅡB (2年)	2	
			○論理学 (2年)	2	
	哲学演習ⅠA1 (2年)		2		
	哲学演習ⅠA2 (2年)				
	哲学演習ⅠA3 (2年)				
	哲学演習ⅠB1 (2年)				
	哲学演習ⅠB2 (2年)				
	哲学演習ⅠB3 (2年)				
	展開科目(30)	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2	
		課題研究Ⅱ (3年)	2		
		課題研究Ⅲ (4年)	2		
		卒業論文 (4年)	8		
		選択科目	哲学特殊講義A (2年/3年)	4	
			哲学特殊講義B (2年/3年)		
哲学特殊講義C (2年/3年)					
哲学特殊講義D (2年/3年)					
哲学特殊講義E (2年/3年)					
哲学特殊講義F (2年/3年)					
哲学特殊講義G (2年/3年)					
哲学演習ⅡA1 (3年)			8		
哲学演習ⅡA2 (3年)					
哲学演習ⅡA3 (3年)					
哲学演習ⅡB1 (3年)					
哲学演習ⅡB2 (3年)					
哲学演習ⅡB3 (3年)					
哲学演習ⅡC1 (3年)					
哲学演習ⅡC2 (3年)					
哲学演習ⅡC3 (3年)					

次頁へ続く

展開科目(30)	選 択 科 目	哲学演習ⅡD1 (3年)	4
		哲学演習ⅡD2 (3年)	
		哲学演習ⅡD3 (3年)	
		神経・生理心理学 (2年)	
		心理学特殊講義A (2年/3年)	
		心理学特殊講義B (2年/3年)	
		心理学特殊講義C (2年/3年)	
		人間科学上級演習A1 (4年)	
		人間科学上級演習A2 (4年)	
		人間科学上級演習B3 (4年)	
		人間科学上級演習B4 (4年)	
自由選択科目 (30～37)	※ 教職科目（一部を除く。）及び学芸員資格科目（一部を除く。）及び公認心理師資格科目（一部を除く。）を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目（教職科目を除く。）		

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

人間科学コース・心理学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	84~91	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。
		選択科目	○心理学概論 (1年)	2		
			哲学概論Ⅰ (1年)	4		
			倫理学概論 (1年)			
			社会学概論 (1年)			
			文化人類学概論 (1年)			
			地域社会学概論Ⅰ (1年)			
			民俗学概論Ⅰ (1年)			
		選択科目	史学概論 (1年)			
			日本史概説Ⅰ (1年)			
			考古学概説Ⅰ (1年)			
			アジア史概説Ⅰ (1年)			
			西洋史概説Ⅰ (1年)			
			文化史概説Ⅰ (1年)			
日本語日本文学入門 (1年)						
専 門 科 目	基礎科目(10)	必修科目	人間科学基礎演習 (2年)	2		
		選択科目	○知覚・認知心理学 (2年)	2		
	○心理学研究法 (2年)		2			
	○心理学統計法 (2年)		2			
	○心理学演習Ⅰ (2年)		2			
	展開科目(30)	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2		
			課題研究Ⅱ (3年)	2		
			課題研究Ⅲ (4年)	2		
			卒業論文 (4年)	8		
		選択科目	○神経・生理心理学 (2年)	2		
			○心理学実験Ⅰ (3年)	2		
			○心理学実験Ⅱ (3年)	2		
			心理学演習ⅡA-1 (3年)	10		
			心理学演習ⅡA-2 (3年)			
心理学演習ⅡA-3 (3年)						
心理学演習ⅡA-4 (3年)						
心理学演習ⅡB-1 (3年)						
心理学演習ⅡB-2 (3年)						
心理学演習ⅡB-3 (3年)						
心理学演習ⅡB-4 (3年)						
心理学演習ⅡC-1 (3年)						
自由選択科目 (30~37)	※ 教職科目 (一部を除く。) 及び学芸員資格科目 (一部を除く。) 及び公認心理師資格科目 (一部を除く。) を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)					

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

社会人間学コース・倫理学履修モデル

科 目 区 分		科目名（開講年次）	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	84~91	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。
		選択科目	○倫理学概論 (1年)	2		
			哲学概論Ⅰ (1年)	4		
			心理学概論 (1年)			
			社会学概論 (1年)			
			文化人類学概論 (1年)			
			地域社会学概論Ⅰ (1年)			
			民俗学概論Ⅰ (1年)			
			地理学概論 (1年)			
			史学概論 (1年)	6		
			日本史概説Ⅰ (1年)			
			考古学概説Ⅰ (1年)			
			アジア史概説Ⅰ (1年)			
			西洋史概説Ⅰ (1年)			
	文化史概説Ⅰ (1年)					
	日本語日本文学入門 (1年)					
	中国語圏文化論 (1年)					
	英語圏文化論 (1年)					
	ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)					
	比較文学・国際文化学入門 (1年)					
	現代文化資源学入門 (1年)					
	ギリシア語A (2年)					
	ギリシア語B (2年)					
	キャリア支援 (2年)					
	専門科目	必修科目	社会調査法概説 (2年)	2		
			社会人間学演習 (2年)	2		
		選択科目	社会人間学特殊講義A-I (2年)	10		
			社会人間学特殊講義A-II (2年)			
社会人間学特殊講義A-III (2年)						
社会人間学特殊講義A-IV (2年)						
社会人間学特殊講義A-V (2年)						
社会人間学特殊講義A-VI (2年)						
社会人間学特殊講義A-VII (2年)						
社会人間学特殊講義A-VIII (2年)						
社会人間学特殊講義A-IX (2年)						
社会人間学特殊講義B-I (2年)						
社会人間学特殊講義B-II (2年)						
社会人間学特殊講義B-III (2年)						
社会人間学特殊講義B-IV (2年)						
社会人間学特殊講義B-V (2年)						
社会人間学特殊講義B-VI (2年)						
展開科目 (28)	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2			
		課題研究Ⅱ (3年)	2			
		課題研究Ⅲ (4年)	2			
		卒業論文 (4年)	8			
	選択科目	倫理学演習A-I (3年)	8			
		倫理学演習A-II (3年)				
		倫理学演習B-I (3年)				
		倫理学演習B-II (3年)				
倫理学応用演習A-I (3年)						
倫理学応用演習A-II (3年)						
倫理学応用演習B-I (3年)						
倫理学応用演習B-II (3年)						

次頁へ続く

	展開科目(28)	選 択 科 目	社会調査実習 I (3年) 社会調査実習 II (3年) 社会学演習 A-I (3年) 社会学演習 A-II (3年) 社会学演習 A-III (3年) 社会学演習 A-IV (3年) 社会学演習 B-I (3年) 社会学演習 B-II (3年) 社会学演習 B-III (3年) 社会学演習 B-IV (3年) 社会学演習 C-I (3年) 社会学演習 C-II (3年) 社会学演習 C-III (3年) 社会学演習 C-IV (3年) 現代社会分析演習 (3年) 文化人類学演習 I (3年) 文化人類学演習 II (3年) 文化人類学演習 III (3年) 文化人類学演習 IV (3年) 文化人類学応用演習 I (3年) 文化人類学応用演習 II (3年) 文化人類学応用演習 III (3年) 文化人類学応用演習 IV (3年) 社会人間学応用演習 A-I (4年) 社会人間学応用演習 A-II (4年) 社会人間学応用演習 B (4年)	6
	自由自由選択科目 (28~35)	※ 教職科目（一部を除く。）及び学芸員資格科目（一部を除く。） 及び公認心理師資格科目（一部を除く。）を除く専門教育の科 目並びに他学部及び他学環の専門科目（教職科目を除く。）		

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

社会人間学コース・社会学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	84~91	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。 社会学履修モデル履修者は、地域社会学概論Ⅰ・Ⅱを履修することが望ましい。
		選択科目	○社会学概論 (1年)	2		
			哲学概論Ⅰ (1年)	4		
			心理学概論 (1年)			
			倫理学概論 (1年)			
			文化人類学概論 (1年)			
			地域社会学概論Ⅰ (1年)			
			民俗学概論Ⅰ (1年)			
			地理学概論 (1年)			
			史学概論 (1年)	6		
			日本史概説Ⅰ (1年)			
			考古学概説Ⅰ (1年)			
			アジア史概説Ⅰ (1年)			
			西洋史概説Ⅰ (1年)			
	文化史概説Ⅰ (1年)					
	日本語日文学入門 (1年)					
	中国語圏文化論 (1年)					
	英語圏文化論 (1年)					
	ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)					
	比較文学・国際文化学入門 (1年)					
現代文化資源学入門 (1年)						
ギリシア語A (2年)						
ギリシア語B (2年)						
キャリア支援 (2年)						
専 門 科 目	必修科目	社会調査法概説 (2年)	2			
		社会人間学演習 (2年)	2			
	選択科目	社会人間学特殊講義A-Ⅰ (2年)	10			
		社会人間学特殊講義A-Ⅱ (2年)				
		社会人間学特殊講義A-Ⅲ (2年)				
		社会人間学特殊講義A-Ⅳ (2年)				
		社会人間学特殊講義A-Ⅴ (2年)				
		社会人間学特殊講義A-Ⅵ (2年)				
		社会人間学特殊講義A-Ⅶ (2年)				
		社会人間学特殊講義A-Ⅷ (2年)				
		社会人間学特殊講義A-Ⅸ (2年)				
		社会人間学特殊講義B-Ⅰ (2年)				
		社会人間学特殊講義B-Ⅱ (2年)				
		社会人間学特殊講義B-Ⅲ (2年)				
		社会人間学特殊講義B-Ⅳ (2年)				
		社会人間学特殊講義B-Ⅴ (2年)				
社会人間学特殊講義B-Ⅵ (2年)						
展開科目 (28)	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2			
		課題研究Ⅱ (3年)	2			
		課題研究Ⅲ (4年)	2			
		卒業論文 (4年)	8			

次頁へ続く

社会人間学コース・文化人類学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	84~91	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。
		選択科目	○文化人類学概論 (1年)	2		
			哲学概論Ⅰ (1年)	4		
			心理学概論 (1年)			
			倫理学概論 (1年)			
			社会学概論 (1年)			
			地域社会学概論Ⅰ (1年)			
			民俗学概論Ⅰ (1年)			
		地理学概論 (1年)				
		選択科目	史学概論 (1年)	6		
			日本史概説Ⅰ (1年)			
			考古学概説Ⅰ (1年)			
			アジア史概説Ⅰ (1年)			
			西洋史概説Ⅰ (1年)			
	文化史概説Ⅰ (1年)					
	日本語日本文学入門 (1年)					
	展開科目 (28)	必修科目	中国語圏文化論 (1年)	2		
			英語圏文化論 (1年)			
		必修科目	ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)			
比較文学・国際文化学入門 (1年)						
現代文化資源学入門 (1年)						
基盤科目 (14)	必修科目	ギリシア語A (2年)	10			
		ギリシア語B (2年)				
	選択科目	キャリア支援 (2年)				
		社会調査法概説 (2年)				
		社会人間学演習 (2年)				
		社会人間学特殊講義A-I (2年)				
		社会人間学特殊講義A-II (2年)				
		社会人間学特殊講義A-III (2年)				
		社会人間学特殊講義A-IV (2年)				
		社会人間学特殊講義A-V (2年)				
		社会人間学特殊講義A-VI (2年)				
		社会人間学特殊講義A-VII (2年)				
		社会人間学特殊講義A-VIII (2年)				
		社会人間学特殊講義A-IX (2年)				
社会人間学特殊講義B-I (2年)						
社会人間学特殊講義B-II (2年)						
社会人間学特殊講義B-III (2年)						
社会人間学特殊講義B-IV (2年)						
社会人間学特殊講義B-V (2年)						
社会人間学特殊講義B-VI (2年)						
展開科目 (28)	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2			
		課題研究Ⅱ (3年)	2			
		課題研究Ⅲ (4年)	2			
		卒業論文 (4年)	8			

次頁へ続く

展開科目(28)	選択科目	文化人類学演習Ⅰ (3年) 文化人類学演習Ⅱ (3年) 文化人類学演習Ⅲ (3年) 文化人類学演習Ⅳ (3年) 文化人類学応用演習Ⅰ (3年) 文化人類学応用演習Ⅱ (3年) 文化人類学応用演習Ⅲ (3年) 文化人類学応用演習Ⅳ (3年)	8
		社会調査実習Ⅰ (3年) 社会調査実習Ⅱ (3年) 倫理学演習A-Ⅰ (3年) 倫理学演習A-Ⅱ (3年) 倫理学演習B-Ⅰ (3年) 倫理学演習B-Ⅱ (3年) 倫理学応用演習A-Ⅰ (3年) 倫理学応用演習A-Ⅱ (3年) 倫理学応用演習B-Ⅰ (3年) 倫理学応用演習B-Ⅱ (3年) 現代社会分析演習 (3年) 社会学演習A-Ⅰ (3年) 社会学演習A-Ⅱ (3年) 社会学演習A-Ⅲ (4年) 社会学演習A-Ⅳ (4年) 社会学演習B-Ⅰ (3年) 社会学演習B-Ⅱ (3年) 社会学演習B-Ⅲ (4年) 社会学演習B-Ⅳ (4年) 社会学演習C-Ⅰ (3年) 社会学演習C-Ⅱ (3年) 社会学演習C-Ⅲ (4年) 社会学演習C-Ⅳ (4年) 現代社会分析演習 (3年) 社会人間学応用演習A-Ⅰ (4年) 社会人間学応用演習A-Ⅱ (4年) 社会人間学応用演習B (4年)	6
自由選択科目 (28~35)	※ 教職科目 (一部を除く。) 及び学芸員資格科目 (一部を除く。) 及び公認心理師資格科目 (一部を除く。) を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)		

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

地域科学コース・地域社会学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専 門 教 育	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	84~91	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。
		専門基礎科目 (14)	○地域社会学概論 I (1年)	2		
			哲学概論 I (1年)	4		
			心理学概論 (1年)			
			倫理学概論 (1年)			
			社会学概論 (1年)			
			文化人類学概論 (1年)			
			民俗学概論 I (1年)			
		地理学概論 (1年)				
		選択科目	史学概論 (1年)	6		
			日本史概説 I (1年)			
			考古学概説 I (1年)			
			アジア史概説 I (1年)			
			西洋史概説 I (1年)			
文化史概説 I (1年)						
日本語日本文学入門 (1年)						
中国語圏文化論 (1年)						
英語圏文化論 (1年)						
ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)						
比較文学・国際文化学入門 (1年)						
現代文化資源学入門 (1年)						
ギリシア語 A (2年)						
ギリシア語 B (2年)						
キャリア支援 (2年)						
専 門 科 目	専 門 科 目	必修科目	○社会調査法概説 (2年)	2		
			○地域社会学概論 II (2年)	2		
			○地域社会分析演習 (2年)	2		
		基盤科目 (12)	選択科目	地理調査法概説 (2年)	6	
				民俗学概論 II (2年)		
				人文地理学 (2年)		
				自然地理学 I (2年)		
				地誌学 (2年)		
				基層文化論演習 (2年)		
				地域文化論演習 (2年)		
		展開科目 (28)	必修科目	社会調査実習 A1 (3年)	2	
				社会調査実習 A2 (3年)	2	
				課題研究 I (3年)	2	
課題研究 II (3年)	2					
課題研究 III (4年)	2					
卒業論文 (4年)	8					
選択科目	○地域科学演習 A1 (3年)			4		
	○地域科学演習 A2 (4年)			4		

次頁へ続く

	展開科目(28)	選 択 科 目	地域科学特殊講義A 1 (2年/3年)	2
			地域科学特殊講義A 2 (2年/3年)	
	自由選択科目 (30～37)	※ 教職科目 (一部を除く。) 及び学芸員資格科目 (一部を除く。) 及び公認心理師資格科目 (一部を除く。) を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)		

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

地域科学コース・民俗学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	84~91	※ 単位互換に より、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。
		選択科目	○民俗学概論Ⅰ (1年)	2		
			哲学概論Ⅰ (1年)	4		
			心理学概論 (1年)			
			倫理学概論 (1年)			
			社会学概論 (1年)			
			文化人類学概論 (1年)			
			地域社会学概論Ⅰ (1年)			
		地理学概論 (1年)				
		選択科目	史学概論 (1年)	6		
			日本史概説Ⅰ (1年)			
			考古学概説Ⅰ (1年)			
			アジア史概説Ⅰ (1年)			
			西洋史概説Ⅰ (1年)			
文化史概説Ⅰ (1年)						
日本語日本文学入門 (1年)						
中国語圏文化論 (1年)						
英語圏文化論 (1年)						
ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)						
比較文学・国際文化学入門 (1年)						
現代文化資源学入門 (1年)						
ギリシア語A (2年)						
ギリシア語B (2年)						
キャリア支援 (2年)						
専 門 科 目	基盤科目 (12)	選択科目	○社会調査法概説 (2年)	2		
			○民俗学概論Ⅱ (2年)	2		
			○基層文化論演習 (2年)	2		
			○地域文化論演習 (2年)	2		
	展開科目 (28)	選択科目	地理調査法概説 (2年)	4		
			地域社会学概論Ⅱ (2年)			
			人文地理学 (2年)			
			自然地理学Ⅰ (2年)			
		必修科目	社会調査実習B1 (3年)	2		
			社会調査実習B2 (3年)	2		
			課題研究Ⅰ (3年)	2		
			課題研究Ⅱ (3年)	2		
			課題研究Ⅲ (4年)	2		
			卒業論文 (4年)	8		
選択科目	○地域科学演習B1 (3年)	4				
	○地域科学演習B2 (4年)	4				
	地域科学特殊講義A1 (2年/3年)	2				
	地域科学特殊講義A2 (2年/3年)					
	地域科学特殊講義B1 (2年/3年)					
	地域科学特殊講義B2 (2年/3年)					
	地域科学特殊講義B3 (2年/3年)					
	地域科学特殊講義B4 (2年/3年)					
地域科学特殊講義C1 (2年/3年)						
地域科学特殊講義C2 (2年/3年)						
地域科学応用演習 (4年)						
自由選択科目 (30~37)	※教職科目 (一部を除く。)及び学芸員資格科目 (一部を除く。)及び公認心理師資格科目 (一部を除く。)を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)					

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。 教養教育の単位数との合計が124単位以上になるように履修すること。

地域科学コース・地理学履修モデル

科目区分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備考
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	※ 単位互換に より、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。
		選択科目	○地理学概論 (1年)	2	
			哲学概論Ⅰ (1年)	4	
			心理学概論 (1年)		
			倫理学概論 (1年)		
			社会学概論 (1年)		
			文化人類学概論 (1年)		
			地域社会学概論Ⅰ (1年)		
			民俗学概論Ⅰ (1年)		
			史学概論 (1年)	6	
			日本史概説Ⅰ (1年)		
			考古学概説Ⅰ (1年)		
			アジア史概説Ⅰ (1年)		
			西洋史概説Ⅰ (1年)		
	文化史概説Ⅰ (1年)				
	日本語日本文学入門 (1年)				
	中国語圏文化論 (1年)				
	英語圏文化論 (1年)				
	ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)				
	比較文学・国際文化学入門 (1年)				
現代文化資源学入門 (1年)					
ギリシア語A (2年)	84~91				
ギリシア語B (2年)					
キャリア支援 (2年)					
専 門 科 目	基盤科目(12)	選択科目	○地理調査法概説 (2年)	2	
			○人文地理学 (2年)	2	
			○自然地理学Ⅰ (2年)	2	
			社会調査法概説 (2年)	6	
			民俗学概論Ⅱ (2年)		
			地域社会学概論Ⅱ (2年)		
			地誌学 (2年)		
			地域社会分析演習 (2年)		
	基層文化論演習 (2年)				
	地域文化論演習 (2年)				
	展開科目(36)	必修科目	地理調査実習Ⅰ (3年)	2	
			地理調査実習Ⅱ (3年)	2	
			課題研究Ⅰ (3年)	2	
			課題研究Ⅱ (3年)	2	
			課題研究Ⅲ (4年)	2	
			卒業論文 (4年)	8	
選択科目		○地域科学演習C1 (3年)	4		
		○地域科学演習C2 (3年)	4		
選択科目	○地域科学演習C3 (4年)	4			
	○地域科学演習C4 (4年)	4			
	地域科学特殊講義A1 (2年/3年)	2			
	地域科学特殊講義A2 (2年/3年)				
	地域科学特殊講義B1 (2年/3年)				
	地域科学特殊講義B2 (2年/3年)				
	地域科学特殊講義B3 (2年/3年)				
	地域科学特殊講義B4 (2年/3年)				
地域科学特殊講義C1 (2年/3年)					
地域科学特殊講義C2 (2年/3年)					
地域分析論演習 (3年)					
自然地理学Ⅱ (3年)					

次頁へ続く

自由選択科目 (22～29)	※ 教職科目（一部を除く。）及び学芸員資格科目（一部を除く。）及び公認心理師資格科目（一部を除く。）を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目（教職科目を除く。）	
----------------	--	--

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

歴史資料学コース・日本史学履修モデル

科目区分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備考	
専門教育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年) 2 史学概論 (1年) 2 日本史概説 I (1年) 2 考古学概説 I (1年) 2	6	84~91	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。
		選択科目	アジア史概説 I (1年) 西洋史概説 I (1年) 文化史概説 I (1年) 哲学概論 I (1年) 心理学概論 (1年) 倫理学概論 (1年) 社会学概論 (1年) 文化人類学概論 (1年) 地域社会学概論 I (1年) 民俗学概論 I (1年) 地理学概論 (1年) 日本語日本文学入門 (1年) 中国語圏文化論 (1年) 英語圏文化論 (1年) ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年) 比較文学・国際文化学入門 (1年) 現代文化資源学入門 (1年) ギリシア語 A (2年) ギリシア語 B (2年) キャリア支援 (2年)			
専門科目	基盤科目 (12)	必修科目	博物館概論 (1年) 2 博物館資料論 (2年) 2	2		
		選択科目	日本史概説 II (2年) 2 歴史資料学実習 A-I (2年) 2 歴史資料学実習 A-II (2年) 2 歴史資料学実習 B-I (2年) 2			

次頁へ続く

歴史資料学コース・日本史学履修モデル

科 目 区 分			科目名（開講年次）	単位数	合計	備 考
専 門 教 育	専 門 科 目	展開科目(38)	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2	
				課題研究Ⅱ (3年)	2	
			課題研究Ⅲ (4年)	2		
			卒業論文 (4年)	8		
		選 択 科 目	○歴史資料学演習 A-I (2年)	2		
			○歴史資料学演習 A-II (2年)	2		
			○歴史資料学演習 A-III (3年)	2		
			○歴史資料学演習 A-IV (3年)	2		
			歴史資料学特殊講義 A-I (2年/3年)	8		
			歴史資料学特殊講義 A-II (3年)			
			歴史資料学特殊講義 A-III (3年)			
			歴史資料学特殊講義 A-IV (3年)			
			歴史資料学特殊講義 A-V (3年)			
			歴史資料学特殊講義 A-VI (3年)			
			○歴史資料学野外実習 A (3年)	4		
			歴史資料学演習 B-I (3年)	4		
			歴史資料学演習 B-II (3年)			
			歴史資料学演習 B-III (2年)			
		歴史資料学演習 B-IV (2年)				
		歴史資料学特殊講義 B-I (2年/3年)				
		歴史資料学特殊講義 B-II (2年/3年)				
		歴史資料学特殊講義 B-III (2年/3年)				
		歴史資料学特殊講義 B-IV (3年)				
		歴史資料学特殊講義 B-V (3年)				
		歴史資料学特殊講義 B-VI (3年)				
		歴史資料学特殊講義 B-VII (3年)				
		歴史資料学野外実習 B-I (2年)				
		歴史資料学野外実習 B-II (3年)				
	自由選択科目 (20～27)	※ 教職科目（一部を除く。）及び学芸員資格科目（一部を除く。） を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 （教職科目を除く。）				

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

歴史資料学コース・考古学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年) 2 史学概論 (1年) 2 日本史概説 I (1年) 2 考古学概説 I (1年) 2	6	84~91	※ 単位互換に より、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。
		選択科目	アジア史概説 I (1年) 西洋史概説 I (1年) 文化史概説 I (1年) 哲学概論 I (1年) 心理学概論 (1年) 倫理学概論 (1年) 社会学概論 (1年) 文化人類学概論 (1年) 地域社会学概論 I (1年) 民俗学概論 I (1年) 地理学概論 (1年) 日本語日本文学入門 (1年) 中国語圏文化論 (1年) 英語圏文化論 (1年) ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年) 比較文学・国際文化学入門 (1年) 現代文化資源学入門 (1年) ギリシア語 A (2年) ギリシア語 B (2年) キャリア支援 (2年)			
専 門 科 目	基盤科目 (12)	必修科目	博物館概論 (1年) 2 博物館資料論 (2年) 2	2		
		選択科目	考古学概説 II (2年) 2 歴史資料学実習 A-I (2年) 2 歴史資料学実習 B-I (2年) 2 歴史資料学実習 B-II (2年) 2			

次頁へ続く

歴史資料学コース・考古学履修モデル

科目区分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備考
専門教育	専門科目	必修科目	課題研究Ⅰ (3年) 2 課題研究Ⅱ (3年) 2 課題研究Ⅲ (4年) 2 卒業論文 (4年) 8	84~91	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。
		展開科目 (38)	○歴史資料学演習 B-I (3年) 2 ○歴史資料学演習 B-II (3年) 2 ○歴史資料学演習 B-III (2年) 2 ○歴史資料学演習 B-IV (2年) 2		
		選択科目	歴史資料学特殊講義 B-I (2年/3年) 歴史資料学特殊講義 B-II (2年/3年) 歴史資料学特殊講義 B-III (2年/3年) 歴史資料学特殊講義 B-IV (3年) 歴史資料学特殊講義 B-V (3年) 歴史資料学特殊講義 B-VI (3年) 歴史資料学特殊講義 B-VII (3年) ○歴史資料学野外実習 B-I (2年) 4 ○歴史資料学野外実習 B-II (3年) 4		
		自由選択科目 (20~27)	歴史資料学演習 A-I (2年) 歴史資料学演習 A-II (2年) 歴史資料学演習 A-III (3年) 歴史資料学演習 A-IV (3年) 歴史資料学特殊講義 A-I (2年/3年) 歴史資料学特殊講義 A-II (3年) 歴史資料学特殊講義 A-III (3年) 歴史資料学特殊講義 A-IV (3年) 歴史資料学特殊講義 A-V (3年) 歴史資料学特殊講義 A-VI (3年) 歴史資料学野外実習 A (3年)	4	
		※ 教職科目 (一部を除く。) 及び学芸員資格科目 (一部を除く。) を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)			

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

超域歴史学コース・アジア史学履修モデル

科目区分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備考			
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年) 2 史学概論 (1年) 2 アジア史概説 I (1年) 2 西洋史概説 I (1年) 2 文化史概説 I (1年) 2	4	84~91	※ 単位互換に より、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。		
		選択科目	日本史概説 I (1年) 考古学概説 I (1年) 哲学概論 I (1年) 心理学概論 (1年) 倫理学概論 (1年) 社会学概論 (1年) 文化人類学概論 (1年) 地域社会学概論 I (1年) 民俗学概論 I (1年) 地理学概論 (1年) 日本語日本文学入門 (1年) 中国語圏文化論 (1年) 英語圏文化論 (1年) ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年) 比較文学・国際文化学入門 (1年) 現代文化資源学入門 (1年) ギリシア語 A (2年) ギリシア語 B (2年) キャリア支援 (2年)					
		基盤科目 (10)	選択科目				○アジア史概説 II (2年) 2 ○超域歴史学基礎演習 C (2年) 2 ○超域歴史学講読 C (2年) 2	2 2 2
							上記を除く超域歴史学コース 開講の基盤科目 (2年) 4	4
							必修科目	課題研究 I (3年) 2 課題研究 II (3年) 2 課題研究 III (4年) 2 卒業論文 (4年) 8
			展開科目 (30)				選択科目	超域歴史学演習 C-I (3年) 超域歴史学演習 C-II (3年) 超域歴史学演習 C-III (3年) 超域歴史学演習 C-IV (3年)
		超域歴史学特殊講義 C-I (3年) 超域歴史学特殊講義 C-II (3年) 超域歴史学特殊講義 C-III (2年/3年)						4
		上記を含む超域歴史学コース 開講の展開科目 (2年/3年) 8						8
		自由選択科目 (30~37)						※ 教職科目 (一部を除く。) 及び学芸員資格科目 (一部を除く。) を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

超越歴史学コース・西洋史学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考			
専 門 教 育	専 門 科 目	必 修 科 目	文章作成演習 (1年)	2	84~91	※ 単位互換に より、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。		
			史学概論 (1年)	2				
		アジア史概説Ⅰ (1年)	2					
		西洋史概説Ⅰ (1年)	2					
		文化史概説Ⅰ (1年)	2					
		選 択 科 目	日本史概説Ⅰ (1年)	4			考古学概説Ⅰ (1年)	4
			哲学概論Ⅰ (1年)					
			心理学概論 (1年)					
			倫理学概論 (1年)					
			社会学概論 (1年)					
			文化人類学概論 (1年)					
			地域社会学概論Ⅰ (1年)					
			民俗学概論Ⅰ (1年)					
			地理学概論 (1年)					
日本語日本文学入門 (1年)								
中国語圏文化論 (1年)								
英語圏文化論 (1年)								
ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)								
比較文学・国際文化学入門 (1年)								
現代文化資源学入門 (1年)								
ギリシア語A (2年)								
ギリシア語B (2年)								
キャリア支援 (2年)								
専 門 科 目	基 盤 科 目 (10)	選 択 科 目	○西洋史概説Ⅱ (2年)	2				
			超越歴史学基礎演習D-I (2年)	2				
			超越歴史学基礎演習D-II (2年)	2				
			超越歴史学講読D-I (2年)	2				
			超越歴史学講読D-II (2年)	2				
			上記を含む超越歴史学コース 開講の基盤科目 (2年)	4				
			必 修 科 目	課題研究Ⅰ (3年)	2	課題研究Ⅱ (3年)	2	
				課題研究Ⅲ (4年)				
				卒業論文 (4年)				
				卒業論文 (4年)		8		
展 開 科 目 (30)	選 択 科 目	超越歴史学演習D-I (3年)	4	超越歴史学演習D-II (3年)	4			
		超越歴史学演習D-III (3年)						
		超越歴史学演習D-IV (3年)						
		超越歴史学演習D-V (3年)						
		超越歴史学演習D-VI (3年)						
		超越歴史学演習D-VII (3年)						
		超越歴史学特殊講義D-I (2年/3年)		2		超越歴史学特殊講義D-II (2年/3年)	2	
		超越歴史学特殊講義D-III (2年/3年)						
超越歴史学特殊講義D-IV (2年/3年)								
超越歴史学特殊講義D-IV (2年/3年)								
上記を含む超越歴史学コース 開講の展開科目 (2年/3年)	10							
自由選択科目 (30 ~37)	※教職科目 (一部を除く。)及び学芸員資格科目 (一部を除く。)を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)							

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

超域歴史学コース・文化史学履修モデル

科目区分		科目名（開講年次）	単位数	合計	備考		
専 門 教 育	専 門 科 目	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	84～91	※ 単位互換に より、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。	
			史学概論 (1年)	2			
			アジア史概説Ⅰ (1年)	2			
			西洋史概説Ⅰ (1年)	2			
			文化史概説Ⅰ (1年)	2			
		専門基礎科目(14)	選択科目	日本史概説Ⅰ (1年)			4
				考古学概説Ⅰ (1年)			
				哲学概論Ⅰ (1年)			
				心理学概論 (1年)			
				倫理学概論 (1年)			
				社会学概論 (1年)			
				文化人類学概論 (1年)			
				地域社会学概論Ⅰ (1年)			
				民俗学概論Ⅰ (1年)			
基盤科目(10)	選択科目	○文化史概説Ⅱ (2年)	2				
		超域歴史学基礎演習E-I (2年)	2				
		超域歴史学基礎演習E-II (2年)					
		超域歴史学講読E-I (2年)	2				
		超域歴史学講読E-II (2年)					
展開科目(30)	必修科目	上記を含む超域歴史学コース 開講の基盤科目 (2年)	4				
		課題研究Ⅰ (3年)	2				
		課題研究Ⅱ (3年)	2				
		課題研究Ⅲ (4年)	2				
	選択科目	卒業論文 (4年)	8				
		超域歴史学演習E-I (3年)	4				
		超域歴史学演習E-II (3年)					
		超域歴史学演習E-III (3年)					
超域歴史学演習E-IV (3年)							
選択科目	超域歴史学特殊講義E-I (3年)	4					
	超域歴史学特殊講義E-II (2年)						
	超域歴史学特殊講義E-III (3年)						
	超域歴史学特殊講義E-IV (2年)						
自由選択科目(30～37)	上記を含む超域歴史学コース 開講の展開科目 (2年/3年)		8				
	※教職科目（一部を除く。）及び学芸員資格科目（一部を除く。） を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目（教 職科目を除く。）						

(注) ○の科目は履修を推奨する科目。

教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

東アジア言語文化学コース・日本語日本文学履修モデル

科 目 区 分		科目名（開講年次）	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	84～91	※ 単位互換に より、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。
		選択科目	日本語日本文学入門 (1年)	12		
			中国語圏文化論 (1年)			
			英語圏文化論 (1年)			
			ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)			
			比較文学・国際文化学入門 (1年)			
			哲学概論Ⅰ (1年)			
			心理学概論 (1年)			
			倫理学概論 (1年)			
			社会学概論 (1年)			
			文化人類学概論 (1年)			
			地域社会学概論Ⅰ (1年)			
			民俗学概論Ⅰ (1年)			
			地理学概論 (1年)			
	史学概論 (1年)					
	日本史概説Ⅰ (1年)					
	考古学概説Ⅰ (1年)					
	アジア史概説Ⅰ (1年)					
	西洋史概説Ⅰ (1年)					
	文化史概説Ⅰ (1年)					
現代文化資源学入門 (1年)						
ギリシア語A (2年)						
ギリシア語B (2年)						
キャリア支援 (2年)						
基盤科目(10)	必修科目	中国文学史Ⅰ (2年)	2			
	選択科目	日本語学概論Ⅰ (2年)	2			
		日本語学概論Ⅱ (2年)	2			
		日本文学概論Ⅰ (2年)	2			
		日本文学概論Ⅱ (2年)	2			
	展開科目(34)	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2		
			課題研究Ⅱ (4年)	2		
			課題研究Ⅲ (4年)	2		
			卒業論文 (4年)	8		
		選択科目	日本語学基礎演習Ⅰ (2年)	20		
日本語学基礎演習Ⅱ (2年)						
日本語学演習Ⅰ (3年)						
日本語学演習Ⅱ (3年)						
日本語学特殊講義Ⅰ (2年/3年)						
日本語学特殊講義Ⅱ (2年/3年)						
日本語学特殊講義Ⅲ (2年/3年)						
日本文学基礎演習Ⅰ (2年)						
日本文学基礎演習Ⅱ (2年)						
日本文学演習Ⅰ (3年)						
日本文学演習Ⅱ (3年)						
日本文学演習Ⅲ (3年)						
日本文学特殊講義Ⅰ (2年/3年)						
日本文学特殊講義Ⅱ (2年/3年)						
日本文学特殊講義Ⅲ (2年/3年)						
自由選択科目 (26～33)	※教職科目（一部を除く。）及び学芸員資格科目（一部を除く。）を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目（教職科目を除く。）					

(注) 教養教育の単位数との合計が124単位以上になるように履修すること

東アジア言語文化学コース・中国語中国文学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	※ 単位互換に より、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。	
		選択科目	日本語日本文学入門 (1年)	12		
			中国語圏文化論 (1年)			
			英語圏文化論 (1年)			
			ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)			
			比較文学・国際文化学入門 (1年)			
			哲学概論Ⅰ (1年)			
			心理学概論 (1年)			
			倫理学概論 (1年)			
			社会学概論 (1年)			
			文化人類学概論 (1年)			
			地域社会学概論Ⅰ (1年)			
			民俗学概論Ⅰ (1年)			
			地理学概論 (1年)			
	史学概論 (1年)					
	日本史概説Ⅰ (1年)					
	考古学概説Ⅰ (1年)					
	アジア史概説Ⅰ (1年)					
	西洋史概説Ⅰ (1年)					
	文化史概説Ⅰ (1年)					
	現代文化資源学入門 (1年)					
	ギリシア語A (2年)					
	ギリシア語B (2年)					
	キャリア支援 (2年)					
	専 門 教 育	基盤科目(10)	必修科目	中国文学史Ⅰ (2年)		2
			選択科目	中国文学史Ⅱ (2年)		2
中国語学概論 (2年)				2		
中国語会話 (2年)				2		
中国語作文 (2年)		2				
展 開 科 目		必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2		
			課題研究Ⅱ (4年)	2		
			課題研究Ⅲ (4年)	2		
			卒業論文 (4年)	8		
		選択科目	中国語中国文学演習A 1 (2年/3年)	20		
	中国語中国文学演習A 2 (2年/3年)					
	中国語中国文学演習A 3 (2年/3年)					
	中国語中国文学演習A 4 (2年/3年)					
	中国語中国文学演習B 1 (2年/3年)					
	中国語中国文学演習B 2 (2年/3年)					
	中国語中国文学演習B 3 (2年/3年)					
	中国語中国文学演習B 4 (2年/3年)					
	中国語中国文学演習C 1 (2年/3年)					
	中国語中国文学演習C 2 (2年/3年)					
	中国語中国文学演習C 3 (2年/3年)					
	中国語中国文学演習C 4 (2年/3年)					
中国語中国文学特殊講義Ⅰ (2年/3年)						
中国語中国文学特殊講義Ⅱ (2年/3年)						
中国語中国文学特殊講義Ⅲ (2年/3年)						
自由選択科目 (26～33)	※教職科目 (一部を除く。) 及び学芸員資格科目 (一部を除く。) を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)			84～91		

(注) 教養教育の単位数との合計が124単位以上になるように履修すること。

欧米言語文化学コース・英語英米文学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	※ 単位互換に より、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。	
		選択科目	日本語日本文学入門 (1年)	12		
			中国語圏文化論 (1年)			
			英語圏文化論 (1年)			
			ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)			
			比較文学・国際文化学入門 (1年)			
			哲学概論Ⅰ (1年)			
			心理学概論 (1年)			
			倫理学概論 (1年)			
			社会学概論 (1年)			
			文化人類学概論 (1年)			
			地域社会学概論Ⅰ (1年)			
			民俗学概論Ⅰ (1年)			
			地理学概論 (1年)			
	史学概論 (1年)					
	日本史概説Ⅰ (1年)					
	考古学概説Ⅰ (1年)					
	アジア史概説Ⅰ (1年)					
	西洋史概説Ⅰ (1年)					
	文化史概説Ⅰ (1年)					
現代文化資源学入門 (1年)						
ギリシア語A (2年)						
ギリシア語B (2年)						
キャリア支援 (2年)						
専 門 教 育	基盤科目 (10)	選択科目	英語学概論 (2年)	8		
			英文学史Ⅰ (2年)			
			英文学史Ⅱ (3年)			
			英会話 (2年)			
			英作文 (3年)			
	展開科目 (30)	選択科目	独文学史 (2年)	2		
			仏文学史 (2年)			
			課題研究Ⅰ (3年)		2	
			課題研究Ⅱ (4年)			2
			課題研究Ⅲ (4年)			
卒業論文 (4年)	8					
英語学演習A (2年)		16				
英語学演習B (3年)						
英文学演習A (2年)						
英文学演習B (3年)						
米文学演習A (3年)						
米文学演習B (3年)						
英文学特殊講義 (3年)						
米文学特殊講義A (3年)						
米文学特殊講義B (3年)						
自由選択科目 (30~37)	※教職科目 (一部を除く。) 及び学芸員資格科目 (一部を除く。) を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)					

(注) 教養教育の単位数との合計が124単位以上になるように履修すること。

欧米言語文化学コース・独語独文学履修モデル

科 目 区 分		科目名（開講年次）	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目（14）	必修科目	文章作成演習（1年）	2	84～91	※ 単位互換に より、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。
		選択科目	日本語日本文学入門（1年）	12		
			中国語圏文化論（1年）			
			英語圏文化論（1年）			
			ドイツ語圏・フランス語圏文化論（1年）			
			比較文学・国際文化学入門（1年）			
			哲学概論Ⅰ（1年）			
			心理学概論（1年）			
			倫理学概論（1年）			
			社会学概論（1年）			
			文化人類学概論（1年）			
			地域社会学概論Ⅰ（1年）			
			民俗学概論Ⅰ（1年）			
			地理学概論（1年）			
史学概論（1年）						
日本史概説Ⅰ（1年）						
考古学概説Ⅰ（1年）						
アジア史概説Ⅰ（1年）						
西洋史概説Ⅰ（1年）						
文化史概説Ⅰ（1年）						
現代文化資源学入門（1年）						
ギリシア語A（2年）						
ギリシア語B（2年）						
キャリア支援（2年）						
専 門 教 育	基盤科目（10）	選択科目	独語学概論（2年）	2		
			独文学史（2年）	2		
			独語独文学基礎演習A 1（2年）	2		
			独語独文学基礎演習A 2（2年）	2		
		必修科目	英文学史Ⅰ（2年）	2		
			英文学史Ⅱ（3年）			
			仏文学史（2年）			
			課題研究Ⅰ（3年）		2	
			課題研究Ⅱ（4年）		2	
			課題研究Ⅲ（4年）		2	
卒業論文（4年）	8					
展開科目（30）	選択科目	独語独文学演習A 1（2年）	16			
		独語独文学演習A 2（3年）				
		独語独文学演習B 1（3年）				
		独語独文学演習B 2（3年）				
		独語独文学特殊講義A（2年）				
		独語独文学特殊講義B（3年）				
		独語独文学特殊講義C（2年/3年）				
		ドイツ語圏文化論演習（2年/3年）				
自由選択科目（30～37）	※教職科目（一部を除く。）及び学芸員資格科目（一部を除く。）を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目（教職科目を除く。）					

（注）教養教育の単位数との合計が124単位以上になるように履修すること。

欧米言語文学コース・仏語仏文学履修モデル

科 目 区 分		科目名（開講年次）	単位数	合計	備 考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。	
		選択科目	日本語日本文学入門 (1年)	12		84~91
			中国語圏文化論 (1年)			
			英語圏文化論 (1年)			
			ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)			
			比較文学・国際文化学入門 (1年)			
			哲学概論Ⅰ (1年)			
			心理学概論 (1年)			
			倫理学概論 (1年)			
			社会学概論 (1年)			
			文化人類学概論 (1年)			
			地域社会学概論Ⅰ (1年)			
			民俗学概論Ⅰ (1年)			
			地理学概論 (1年)			
	史学概論 (1年)					
	日本史概説Ⅰ (1年)					
	考古学概説Ⅰ (1年)					
	アジア史概説Ⅰ (1年)					
	西洋史概説Ⅰ (1年)					
	文化史概説Ⅰ (1年)					
現代文化資源学入門 (1年)						
ギリシア語A (2年)						
ギリシア語B (2年)						
キャリア支援 (2年)						
専 門 教 育	基盤科目 (10)	選択科目	仏文学史 (2年)	2		
			仏語仏文学基礎演習A 1 (2年)	2		
			仏語仏文学基礎演習A 2 (2年)	2		
		必修科目	英文学史Ⅰ (2年)	2		
			英文学史Ⅱ (3年)			
			独文学史Ⅰ (2年)			
上記を含む欧米言語文化学コース開講の基盤科目 (2年)		2				
専 門 教 育	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2			
		課題研究Ⅱ (4年)	2			
		課題研究Ⅲ (4年)	2			
		卒業論文 (4年)	8			
	展開科目 (30)	選択科目	仏語仏文学演習A 1 (3年)	16		
			仏語仏文学演習A 2 (3年)			
			仏語仏文学演習B 1 (2年/3年)			
			仏語仏文学演習B 2 (2年/3年)			
			仏語仏文学演習B 3 (2年/3年)			
			仏語仏文学演習B 4 (2年/3年)			
			仏語仏文学演習C 1 (3年)			
			仏語仏文学演習C 2 (3年)			
			仏語仏文学特殊講義A (2年/3年)			
			仏語仏文学特殊講義B (2年/3年)			
フランス語圏文化論演習 (2年)						
自由選択科目 (30~37)	※ 教職科目（一部を除く。）及び学芸員資格科目（一部を除く。）を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目（教職科目を除く。）					

(注) 教養教育の単位数との合計が124単位以上になるように履修すること。

多言語文化学コース・比較文学履修モデル

科目区分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備考	
専 門 教 育	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	※ 単位互換により、他の大 学又は短期大 学において修 得した単位を 含むことがで きる。	
		選択科目	日本語日本文学入門 (1年)	12		84~91
			中国語圏文化論 (1年)			
			英語圏文化論 (1年)			
			ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)			
			比較文学・国際文化学入門 (1年)			
			哲学概論Ⅰ (1年)			
			心理学概論 (1年)			
			倫理学概論 (1年)			
			社会学概論 (1年)			
			文化人類学概論 (1年)			
			地域社会学概論Ⅰ (1年)			
			民俗学概論Ⅰ (1年)			
			地理学概論 (1年)			
	史学概論 (1年)					
	日本史概説Ⅰ (1年)					
	考古学概説Ⅰ (1年)					
	アジア史概説Ⅰ (1年)					
	西洋史概説Ⅰ (1年)					
	文化史概説Ⅰ (1年)					
現代文化資源学入門 (1年)						
ギリシア語A (2年)						
ギリシア語B (2年)						
キャリア支援 (2年)						
基盤科目 (10)	必修科目	比較文学概論Ⅰ (2年)	2			
	選択科目	国際文化学概論 (2年)	2			
		比較文学概論Ⅱ (2年)	6			
		比較文学基礎演習Ⅰ (2年)				
		比較文学基礎演習Ⅱ (2年)				
	比較文学基礎演習Ⅲ (2年)					
展開科目 (30)	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2			
		課題研究Ⅱ (3年)	2			
		課題研究Ⅲ (4年)	2			
		卒業論文 (4年)	8			

次頁へ続く

	展開科目(30)	選択科目 世界文学論 (2年) 比較文学演習Ⅰ (2年/3年) 比較文学演習Ⅱ (2年/3年) 比較文学特殊講義Ⅰ (2年) 比較文学特殊講義Ⅱ (2年) 国際文化学演習Ⅰ (2年/3年) 国際文化学演習Ⅱ (2年/3年) 国際文化学特殊講義Ⅰ (2年/3年) 日本文学特殊講義Ⅰ (2年/3年) 日本文学特殊講義Ⅱ (2年/3年) 日本文学特殊講義Ⅲ (2年/3年) 英文学特殊講義 (2年/3年) 米文学特殊講義A (2年) 米文学特殊講義B (3年) 独語独文学演習B 1 (2年) 独語独文学演習B 2 (3年) 独語独文学特殊講義A (2年) 独語独文学特殊講義B (3年) 独語独文学特殊講義C (2年/3年) 仏語仏文学演習B 1 (2年/3年) 仏語仏文学演習B 2 (2年/3年) 仏語仏文学演習B 3 (2年/3年) 仏語仏文学演習B 4 (2年/3年) 仏語仏文学特殊講義A (2年/3年) 仏語仏文学特殊講義B (2年/3年)	16	
	自由選択科目 (30~37)	※ 教職科目 (一部を除く。) 及び学芸員資格科目 (一部を除く。) を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)		

(注) 教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

多言語文化学コース・国際文化学履修モデル

科 目 区 分		科目名 (開講年次)	単位数	合計	備 考
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目 (14)	必修科目	文章作成演習 (1年)	2	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。
		選択科目	日本語日本文学入門 (1年)	12	
			中国語圏文化論 (1年)		
			英語圏文化論 (1年)		
			ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年)		
			比較文学・国際文化学入門 (1年)		
			哲学概論Ⅰ (1年)		
			心理学概論 (1年)		
			倫理学概論 (1年)		
			社会学概論 (1年)		
			文化人類学概論 (1年)		
			地域社会学概論Ⅰ (1年)		
			民俗学概論Ⅰ (1年)		
			地理学概論 (1年)		
	史学概論 (1年)				
	日本史概説Ⅰ (1年)				
	考古学概説Ⅰ (1年)				
	アジア史概説Ⅰ (1年)				
	西洋史概説Ⅰ (1年)				
	文化史概説Ⅰ (1年)				
現代文化資源学入門 (1年)					
ギリシア語A (2年)	84~91				
ギリシア語B (2年)					
		キャリア支援 (2年)			
	基盤科目(10)	必修科目	比較文学概論Ⅰ (2年)	2	
			国際文化学概論 (2年)	2	
		選択科目	国際文化学基礎演習Ⅰ (2年)	2	
				国際文化学基礎演習Ⅱ (2年)	2
		比較文学基礎演習Ⅰ (2年)	2		
		比較文学概論Ⅱ (2年)	2		
	展開科目(30)	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2	
				課題研究Ⅱ (3年)	2
				課題研究Ⅲ (4年)	2
				卒業論文 (4年)	8
		選択科目	世界文学論 (2年)	16	
					国際文化学演習Ⅰ (2年/3年)
					国際文化学演習Ⅱ (2年/3年)
					国際文化学演習Ⅲ (2年/3年)
					外国語演習A 1 (2年)
					外国語演習A 2 (2年)
					外国語演習B 1 (2年)
					外国語演習B 2 (2年)
					外国語演習C 1 (2年)
					外国語演習C 2 (2年)
					国際文化学特殊講義Ⅰ (2年/3年)
					国際文化学特殊講義Ⅱ (2年/3年)
		国際文化学特殊講義Ⅲ (2年/3年)			
		比較文学演習Ⅰ (2年/3年)			
		比較文学特殊講義Ⅰ (2年)			
		中国語中国文学演習C 2 (2年/3年)			
		英語学演習A (2年)			
		独語独文学演習B 1 (3年)			
		独語独文学特殊講義C (2年/3年)			
		仏語仏文学演習B 1 (2年/3年)			
		仏語仏文学演習B 2 (2年/3年)			
		仏語仏文学演習B 3 (2年/3年)			
		仏語仏文学演習B 4 (2年/3年)			
	自由選択科目 (30~37)	※ 教職科目 (一部を除く。) 及び学芸員資格科目 (一部を除く。) を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を)			

(注) 教養教育の単位数との合計が 124 単位以上になるように履修すること。

現代文化資源学コース・現代文化資源学履修モデル

科目区分		科目名（開講年次）	単位数	合計	備考		
専 門 教 育	専門基礎科目(14)	必修科目	文章作成演習 (1年) 現代文化資源学入門 (1年)	2 2	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。		
		選択科目	哲学概論Ⅰ (1年) 心理学概論 (1年) 倫理学概論 (1年) 社会学概論 (1年) 文化人類学概論 (1年) 地域社会学概論Ⅰ (1年) 民俗学概論Ⅰ (1年) 地理学概論 (1年) 史学概論 (1年) 日本史概説Ⅰ (1年) 考古学概説Ⅰ (1年) アジア史概説Ⅰ (1年) 西洋史概説Ⅰ (1年) 文化史概説Ⅰ (1年) 日本語日本文学入門 (1年) 中国語圏文化論 (1年) 英語圏文化論 (1年) ドイツ語圏・フランス語圏文化論 (1年) 比較文学・国際文化学入門 (1年) ギリシア語A (2年) ギリシア語B (2年) キャリア支援 (2年)	10		84～91	
		専門科目	基盤科目(12)	必修科目		現代文化資源学基礎演習Ⅰ (2年) 現代文化資源学基礎演習Ⅱ (2年) 現代文化資源学概論Ⅰ (2年) 現代文化資源学概論Ⅱ (2年)	2 2 2 2
				選択科目		現代文化資源学実習A (2年) 現代文化資源学実習B (2年) メディア論 (2年)	4

次頁へ続く

現代文化資源学コース・現代文化資源学履修モデル

科目区分			科目名 (開講年次)	単位数	合計	備考
専 門 教 育	展開科目(30)	必修科目	課題研究Ⅰ (3年)	2	16	
			課題研究Ⅱ (3年)	2		
			課題研究Ⅲ (4年)	2		
			卒業論文 (4年)	8		
		選択科目	キャリアデザイン実習 (3年)			
			現代芸術文化論 A-1 (3年)			
			現代芸術文化論 A-2 (3年)			
			現代芸術文化論 B-1 (3年)			
			現代芸術文化論 B-2 (3年)			
			現代芸術文化論 C-1 (3年)			
			現代芸術文化論 C-2 (3年)			
			現代芸術文化論 D-1 (3年)			
			現代芸術文化論 D-2 (3年)			
			日本語学特殊講義Ⅰ (2年/3年)			
			日本語学特殊講義Ⅱ (2年/3年)			
			日本語学特殊講義Ⅲ (2年/3年)			
			日本文学特殊講義Ⅰ (2年/3年)			
			日本文学特殊講義Ⅱ (2年/3年)			
			日本文学特殊講義Ⅲ (2年/3年)			
			中国語中国文学特殊講義Ⅰ (2年/3年)			
			中国語中国文学特殊講義Ⅱ (2年/3年)			
			中国語中国文学特殊講義Ⅲ (2年/3年)			
			英文学特殊講義 (3年)			
			米文学特殊講義A (2年)			
			米文学特殊講義B (3年)			
			独語独文学特殊講義A (2年)			
			独語独文学特殊講義B (3年)			
			独語独文学特殊講義C (2年/3年)			
			仏語仏文学特殊講義A (2年/3年)			
			仏語仏文学特殊講義B (2年/3年)			
			世界文学論 (2年)			
			比較文学特殊講義Ⅰ (2年)			
			比較文学特殊講義Ⅱ (2年)			
			国際文化学特殊講義Ⅰ (2年/3年)			
			国際文化学特殊講義Ⅱ (2年/3年)			
			国際文化学特殊講義Ⅲ (2年/3年)			
	自由選択科目 (28~35)	※ 教職科目 (一部を除く。) 及び学芸員資格科目 (一部を除く。) を除く専門教育の科目並びに他学部及び他学環の専門科目 (教職科目を除く。)				

(注) 教養教育との合計が 124 単位以上になるように履修すること

令和6年10月21日

教務委員会

熊本大学における GPA 制度について

◎GPA 制度

本学では、成績評価に係る指標として、GPA 制度を導入しています。

GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価の評語にそれぞれ4から0の Grade Point を付し、その Grade Point に各科目の単位数を乗じた合計を、履修登録した科目の総単位数で除した平均値となります。

この GPA は、学業成績優秀者の表彰、奨学金支給及び授業料免除の審査、進級時のコース分けの選定、高得点者における CAP 制の解除、早期卒業の判定、大学院入試の選考等に活用されています。

評語	Grade Point
秀 (100～90 点)	4
優 (89～80 点)	3
良 (79～70 点)	2
可 (69～60 点)	1
不可 (59 点以下)	0
合格	2.5
認定	2.5
不合格	0
S※1	0
X※2	0

※1：不合格であるが次年度の再履修で試験のみを課し成績評価を行う場合

※2：履修を放棄したと判断された場合

◎GPA 算出方法

各科目の単位数×Grade Point の合計（修得した単位に限る。）／履修登録した科目の単位数の合計（未修得単位を含む。）

【算出例】

科目名	単位数	評語	単位数×Grade Point
英語 A-1	1	良	1×2=2
中国語 A	2	優	2×3=6
現代人間学の課題 A	2	可	2×1=2
社会調査実習Ⅰ	2	不可	2×0=0
芸術学概論Ⅰ	2	X	2×0=0
地域科学演習 IB	4	秀	4×4=16
英語e	1	合格	1×2.5=2.5
(他大学で修得した科目等)	1	認定	1×2.5=2.5
科目名	15②	—	31①

$$\text{GPA} = \text{①} / \text{②} = 2.07$$

○各学部、学環、各大学院教育部・研究科及び各種制度等によっては、GPA の計算から除外する科目や成績評価の評語（「認定」や「合格」）を設定している場合があります。

○在学生については、学務情報システム（SOSEKI）や学修成果可視化システム（ASO）で自身の GPA を確認することができます。

熊本大学科目ナンバリング

令和6年12月16日

1 科目ナンバリングの導入について

科目ナンバリングとは、授業科目を水準等に応じた特定の番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を示し、各教育プログラムにおけるカリキュラムの体系性を明示する仕組みです。

本制度の導入については、中央教育審議会の各種答申（「学士課程教育の構築に向けて」、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」）等により、教育改革への対応策として導入の必要性が求められているところです。

また、本学の第二期中期目標・中期計画においても、教育課程の体系化を進める取り組みとして、本制度の導入について検討することとしており、今後の大学のグローバル化を推進する上でも海外で一般的に普及している本制度の導入に取り組むことは喫緊の課題となっています。

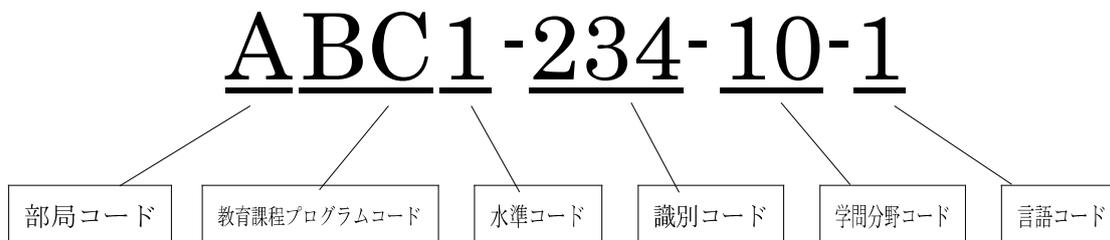
2 科目ナンバリングの導入の目的及び期待される効果について

- (1) 教育プログラム、難易度、学問分野を明示することで、学修の順次性を確認でき、計画的な学習が可能となります。（シラバス等に科目ナンバリングコードを設定することで、履修すべき科目等の選別が容易になります。）
- (2) 他学部（他学科）、他大学との授業科目レベルの比較の参考となり、海外からの留学生にとっても履修する科目の判断が容易になります。
- (3) カリキュラム点検のツールとして活用でき、体系的な教育プログラムの実現に向けた改善を実施するきっかけとなります。
- (4) ナンバリングを学務系システムへ反映することで、管理部門（教務事務担当）においても各種統計や資料作成時にナンバリングの各項目をキーとしてデータを抽出することが容易となります。

3 本学における科目ナンバリングの形式について

本学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学部・学科等、関連する学問分野、難易度、授業で使用される言語を示すコードにより構成します。

<熊本大学科目ナンバリングの形式>



4 各コードの定義について

(1) 部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学環、研究科、教育部等の単位で区分するための項目です。原則、各部局名を表記することになります。

コードの表記は、英字1文字として、学生番号に使用している英字表記を準用して各部局を示します。

<部局コード分類表>

コード	部局名	コード	部局名
L	文学部	A	大学院教育学研究科
E	教育学部	G	大学院社会文化科学教育部
J	法学部	D	大学院自然科学教育部
S	理学部	R	大学院医学教育部
M	医学部	W	大学院保健学教育部
P	薬学部	Y	大学院薬学教育部
T	工学部	Z	養護教諭特別別科
X	情報融合学環	V	特別支援教育特別専攻科
K	教養教育		

(2) 教育課程プログラムコード

教育課程プログラムコードは、当該授業科目を提供している学科・修士及び博士課程・専攻等の単位で区分するための項目です。

<教育課程プログラムコード分類表>

部局名	学科等名		部局コード	教育課程コード	
文学部	総合人間学科		L	IN	
	歴史学科		L	HI	
	文学科		L	LI	
	コミュニケーション情報学科		L	CO	
	共通科目		L	LX	
教育学部	小学校教員養成課程 教育学（～2021年度）		E	ED	
	小学校教員養成課程 心理学（～2021年度）		E	EP	
	小学校教員養成課程 共通科目（～2021年度）		E	EX	
	中学校教員養成課程 国語（～2021年度）		E	JJ	
	中学校教員養成課程 社会（～2021年度）		E	JC	
	中学校教員養成課程 数学（～2021年度）		E	JM	
	中学校教員養成課程 理科（～2021年度）		E	JR	
	中学校教員養成課程 音楽（～2021年度）		E	JO	
	中学校教員養成課程 美術（～2021年度）		E	JA	
	中学校教員養成課程 保健体育（～2021年度）		E	JH	
	中学校教員養成課程 技術（～2021年度）		E	JT	
	中学校教員養成課程 家庭（～2021年度）		E	JK	
	中学校教員養成課程 英語（～2021年度）		E	JE	
	中学校教員養成課程 共通科目（～2021年度）		E	JX	
	特別支援教育教員養成課程（～2021年度）		E	SP	
	養護教諭養成課程（～2021年度）		E	YO	
	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース	小学校専攻	教育	E	PD
			心理	E	PP
			共通科目	E	PX
		国語専攻		E	PJ
		社会専攻		E	PC
		数学専攻		E	PM
		理科専攻		E	PR
		英語専攻		E	PE
		実技系専攻	音楽	E	PO
			美術	E	PA
			保健体育	E	PH
			技術	E	PT
			家庭	E	PK
学校教育教員養成課程 特別支援教育コース		E	SS		
学校教育教員養成課程 養護教育コース		E	SY		
共通科目		E	EZ		
法学部	法学科		J	LA	
	理学科 数学コース		S	SM	

理学部	理学科 物理学コース	S	S P
	理学科 化学コース	S	S C
	理学科 地球環境科学コース	S	S Q
	理学科 生物学コース	S	S B
	共通科目	S	S S
医学部	医学科	M	M E
	保健学科 看護学専攻	M	H N
	保健学科 放射線技術科学専攻	M	H R
	保健学科 検査技術科学専攻	M	H L
薬学部	薬学科	P	P H
	創薬・生命薬科学科	P	P L
	共通科目	P	P X
工学部	土木建築学科 土木工学教育プログラム	T	D C
	土木建築学科 地域デザイン教育プログラム	T	D U
	土木建築学科 建築学教育プログラム	T	D A
	土木建築学科 共通	T	D X
	機械数理工学科 機械工学教育プログラム	T	M E
	機械数理工学科 機械システム教育プログラム	T	M S
	機械数理工学科 数理工学教育プログラム	T	M A
	機械数理工学科 共通	T	M X
	情報電気工学科 電気工学教育プログラム	T	J K
	情報電気工学科 電子工学教育プログラム	T	J S
	情報電気工学科 情報工学教育プログラム	T	J J
	情報電気工学科 共通	T	J X
	材料・応用化学科 応用生命化学教育プログラム	T	Z S
	材料・応用化学科 応用物質化学教育プログラム	T	Z B
	材料・応用化学科 物質材料工学教育プログラム	T	Z Z
	材料・応用化学科 共通	T	Z X
	半導体デバイス工学課程	T	H D
	共通科目	T	T X
	情報融合 学環	D S総合コース	X
D S半導体コース		X	X S
共通科目		X	X X
教養教育	肥後熊本学	K	H I
	情報科目	K	C O
	理系基礎科目	K	S C
	必修外国語科目	K	R F
	自由選択外国語科目	K	S F
	体育・スポーツ科学科目	K	P H
	リベラルアーツ科目	K	L I
	現代教養科目	K	C I
	キャリア科目	K	C A
	Multidisciplinary Studies	K	M U
	日本国憲法科目	K	J A
	開放科目	K	O P
	大学院教養科目	K	G G

教育学研究科	教職大学院の課程 教職実践開発専攻	A	P S
社会文化 科学教育部	博士前期課程 法政・紛争解決学専攻	G	MA
	博士前期課程 現代社会人間学専攻	G	MM
	博士前期課程 文化学専攻	G	MC
	博士前期課程 教授システム学専攻	G	M I
	博士前期課程 共通科目	G	MX
	博士後期課程 人間・社会科学専攻	G	DH
	博士後期課程 文化学専攻	G	D C
	博士後期課程 教授システム学専攻	G	D I
	博士後期課程 共通科目	G	D X
自然科学 教育部	博士前期課程 理学専攻 数学コース	D	MM
	博士前期課程 理学専攻 物理科学コース	D	MP
	博士前期課程 理学専攻 化学コース	D	MC
	博士前期課程 理学専攻 地球環境科学コース	D	MQ
	博士前期課程 理学専攻 生物科学コース	D	MB
	博士前期課程 理学専攻 共通科目	D	MS
	博士前期課程 土木建築学専攻 社会基盤工学教育プログラム	D	ME
	博士前期課程 土木建築学専攻 地域デザイン教育プログラム	D	MR
	博士前期課程 土木建築学専攻 建築学教育プログラム	D	MA
	博士前期課程 機械システム工学専攻 機械工学教育プログラム	D	MH
	博士前期課程 機械システム工学専攻 機械システム教育プログラム	D	M I
	博士前期課程 電気電子工学専攻 電気工学教育プログラム	D	MD
	博士前期課程 電気電子工学専攻 電子工学教育プログラム	D	MN
	博士前期課程 材料・応用化学専攻 応用生命化学教育プログラム	D	ML
	博士前期課程 材料・応用化学専攻 応用物質化学教育プログラム	D	MK
	博士前期課程 材料・応用化学専攻 物質材料工学教育プログラム	D	MZ
	博士前期課程 半導体・情報数理工専攻 半導体システム教育プログラム	D	MG
	博士前期課程 半導体・情報数理工専攻 情報数理工教育プログラム	D	MU
	博士前期課程 工学系専攻 共通科目	D	MT
	博士前期課程 共通科目	D	MX
	博士後期課程 理学専攻 数学コース	D	DM
	博士後期課程 理学専攻 物理科学コース	D	D P
	博士後期課程 理学専攻 化学コース	D	D C
	博士後期課程 理学専攻 地球環境科学コース	D	D Q
	博士後期課程 理学専攻 生物科学コース	D	D B
	博士後期課程 理学専攻 共通科目	D	D S
	博士後期課程 工学専攻 広域環境保全工学教育プログラム	D	D E
	博士後期課程 工学専攻 社会環境マネジメント教育プログラム	D	D F
	博士後期課程 工学専攻 人間環境計画学教育プログラム	D	D A
	博士後期課程 工学専攻 循環建築工学教育プログラム	D	D R
	博士後期課程 工学専攻 先端機械システム教育プログラム	D	D H
	博士後期課程 工学専攻 機械知能システム教育プログラム	D	D I
博士後期課程 工学専攻 機能創成エネルギー教育プログラム	D	D D	
博士後期課程 工学専攻 人間環境情報教育プログラム	D	D N	

	博士後期課程 工学専攻 物質生命化学教育プログラム	D	DK
	博士後期課程 工学専攻 物質材料工学教育プログラム	D	DZ
	博士後期課程 工学専攻 共通科目	D	DT
	博士後期課程 半導体・情報数理専攻 先端半導体システム教育プログラム	D	DG
	博士後期課程 半導体・情報数理専攻 先端情報数理教育プログラム	D	DU
	博士後期課程 共通科目	D	DX
医学教育部	修士課程 医科学専攻	R	MM
	博士課程 医学専攻	R	DM
	共通科目	R	CM
保健学教育部	博士前期課程 保健学専攻	W	MH
	博士後期課程 保健学専攻	W	DH
薬学教育部	博士前期課程 創薬・生命薬科学専攻	Y	ML
	博士後期課程 創薬・生命薬科学専攻	Y	DL
	博士課程 医療薬学専攻	Y	DH
	共通科目	Y	CM
養護教諭特別別科		Z	YO
特別支援教育特別専攻科		V	SP

(3) 水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すための項目です。

コードの表記は、各科目のレベルに応じて0から7までの8段階により、1～4を学士課程、5～7を博士前期課程（修士課程）、博士後期課程（博士課程）、専門職学位課程のそれぞれのレベルに分類します。

ただし、学年と水準は必ずしも一致するものではありません。（3年次向けの科目であってもレベル2となる場合もあります。）

具体的な区分方法については、以下の「水準コード分類表」とおりです。当該分類表に基づき設定願います。

<水準コード分類表>

コード	定義	主な対象
0	卒業要件外の科目	・資格取得のための科目 ・卒業要件外の授業科目
1	入門的・導入的科目	・初年次での必修科目を含む、基礎的な教養教育科目・共通専門基礎科目 ・各学部等で、その専門領域を初めて学ぶ学生のための基礎的な専門科目 ・医学部医学科の専門基礎科目
2	中級レベルの科目	・発展的内容を扱う教養教育科目 ・発展・応用レベルの内容を扱う専門科目 ・医学部医学科の基礎医学科目
3	高度な内容を扱う科目	・より高度な内容を扱う教養教育科目 ・実践的・専門的に高度な内容を扱う専門科目 ・医学部医学科の臨床医学科目（系統講義）
4	学士課程卒業レベルの科目	・学士課程で学修する最終段階の水準の科目 ・卒論ゼミ、卒業演習、卒業論文、卒業研究等 ・医学部医学科の臨床実習（ポリ・クリ）・特別臨床実習（クリ・クラ）
5	大学院レベルの科目	・大学院学生を対象とする教養教育科目 ・実践的・専門的に極めて高度な内容を扱う大学院での授業科目 ・6年制学士課程、専門職学位課程において高度専門職に必要な極めて高度な実践的・専門的内容を扱う科目
6	大学院博士前期課程（修士課程）・専門職学位課程修了レベルの科目	・大学院博士前期課程（修士課程）・専門職学位課程で学修する最終段階の水準の科目 ・修士論文など
7	大学院博士後期課程（博士課程）	・大学院博士後期課程で学修する科目 ・博士論文など

(4) 識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。

コードの表記は、数字3ケタで表記し、各部局において任意に設定願います。

(5) 学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。

コードの表記は、数字2ケタとして、科研費「系・分野・分科細目表」の分科の区分を基本として分類します。

<学問分野コード分類表>

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
09	外国語	38	経済学	67	生物科学
10	情報学	39	経営学	68	病態学
11	計算基盤	40	社会学	69	総合医学
12	人間情報学	41	心理学	70	生産環境農学
13	情報学フロンティア	42	教育学	71	農芸化学
14	環境解析学	43	ナノ・マイクロ科学	72	森林圏科学
15	環境保全学・創成学	44	応用物理学	73	水圏応用科学
16	デザイン学	45	量子ビーム科学	74	社会経済農学
17	生活科学	46	計算科学	75	農業工学
18	科学教育・教育工学	47	数学	76	動物生命科学
19	科学社会学	48	天文学	77	境界農学
20	博物館学	49	物理学	78	薬学
21	地理学	50	地球惑星科学	79	基礎医学
22	社会安全システム科学	51	プラズマ科学	80	境界医学
23	人間医工学	52	基礎化学	81	社会医学
24	健康・スポーツ科学	53	複合化学	82	内科系臨床医学
25	生体分子科学	54	材料化学	83	外科系臨床医学
26	コミュニケーション学	55	機械工学	84	歯学
27	地域研究学	56	電子電気工学	85	看護学
28	ジェンダー・観光学	57	土木工学	86	内科学
29	哲学	58	建築学	87	外科学
30	芸術学	59	材料工学	88	成育医学
31	文学	60	プロセス・化学工学	89	感覚・運動科学
32	言語学	61	総合工学	90	脳・神経・精神科学
33	歴史学	62	臨床医学	91	検査医学
34	人文地理学	63	分子細胞生物学	92	放射線技術科学
35	文化人類学	64	生体構造学	93	放射線医学
36	法学	65	生体機能学	99	その他
37	政治学	66	感染免疫学		

(6) 言語コード

言語コードは、授業科目で使用する言語を示すための項目です。
コードの表記は、数字1ケタとして、以下のとおり区分します。

- 0：全て日本語で実施
- 1：全て英語で実施
- 2：日本語及び英語によるバイリンガルで実施
- 3：全て英語以外の外国語で実施
- 4：英語以外の外国語及び日本語によるバイリンガルで実施
- 5：その他の言語の組み合わせで実施

文学部人文科学科 社会人間学コース カリキュラムマップ

社会人間学コース		コース	倫理学	社会学	文化人類学	学修成果									
年次	科目名	必選区分	必選区分	必選区分	必選区分	単位数	1	2	3	4	5	6	7		
専門基礎科目	1 文章作成演習	必修	必修	必修	必修	2.0		◎	◎	◎		◎	◎		
	1 倫理学概論	選択 4単位	必須	必須	必須	2.0	○	◎	○						
	1 社会学概論		必須	必須	必須	2.0	○	◎					○		
	1 文化人類学概論		必須	必須	必須	2.0	◎	◎			◎				
	1 哲学概論Ⅰ		選択	選択	選択	2.0	◎	◎	◎	◎					
	1 心理学概論		選択	選択	選択	2.0	◎	◎							
	1 地域社会学概論Ⅰ		選択	選択	選択	2.0	◎	◎	◎					◎	
	1 民俗学概論Ⅰ		選択	選択	選択	2.0	◎	◎							
	1 地理学概論		選択	選択	選択	2.0	○	◎	○						
	1 史学概論		選択	選択	選択	2.0	○	◎	○						
	1 日本史概説Ⅰ		選択	選択	選択	2.0	◎	◎							
	1 考古学概説Ⅰ		選択	選択	選択	2.0	◎	◎							
	1 アジア史概説Ⅰ		選択	選択	選択	2.0	○	◎	○		○				
	1 西洋史概説Ⅰ	選択	選択	選択	2.0	○	◎	○	○	○			○		
	1 文化史概説Ⅰ	選択	選択	選択	2.0	◎	○	○							
	1 日本語日本文学入門	選択	選択	選択	2.0	○	◎								
	1 中国語圏文化論	選択	選択	選択	2.0	◎	◎								
	1 英語圏文化論	選択	選択	選択	2.0	◎	◎								
	1 ドイツ語圏・フランス語圏文化論	選択	選択	選択	2.0	◎	◎								
	1 比較文学・国際文化学入門	選択	選択	選択	2.0	○		◎		○			○		
	1 現代文化資源学入門	選択	選択	選択	2.0	◎	◎								
	2 ギリシア語A	選択	選択	選択	2.0	◎	◎	◎			◎				
	2 ギリシア語B	選択	選択	選択	2.0	◎	◎	◎			◎				
	2 キャリア支援	選択	選択	選択	2.0							◎			
	専門教育	2 社会調査法概説	必修	必修	必修	必修	2.0	○	◎		○				
2 社会人間学演習		必修	必修	必修	必修	2.0	○	◎	○				○		
2 社会人間学特殊講義A-I		選択 10単位	選択 10単位	選択 10単位	選択 10単位	2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A-II						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A-III						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A-IV						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A-V						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A-VI						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A-VII						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A-VIII						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A-IX						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義B-I						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義B-II						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義B-III						2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義B-IV		2.0	○	◎	◎										
2 社会人間学特殊講義B-V		2.0	○	◎	◎										
2 社会人間学特殊講義B-VI		2.0	○	◎	◎										
専門科目		3 社会調査実習Ⅰ	選択 6単位(※2)	選択 8単位 (※履修モデル メイン科目)	選択 6単位 (※2)	選択 6単位 (※2)	2.0	◎	◎	○					
		3 社会調査実習Ⅱ					2.0	◎	◎	○					
		3 倫理学演習A-I					2.0	◎	◎	◎				◎	
		3 倫理学演習A-II					2.0	◎	◎	◎				◎	
		3 倫理学演習B-I					2.0	◎	◎	◎				◎	
		3 倫理学演習B-II					2.0	◎	◎	◎				◎	
		3 倫理学応用演習A-I					2.0	◎	○		○				
		3 倫理学応用演習A-II					2.0	◎	○		○				
	3 倫理学応用演習B-I	2.0					◎	○		○					
	3 倫理学応用演習B-II	2.0					◎	○		○					
	3 社会学演習A-I	2.0					◎	◎	◎	○		○			
	3 社会学演習A-II	2.0					◎	◎	◎	○		○			
	4 社会学演習A-III	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	4 社会学演習A-IV	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	3 社会学演習B-I	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	3 社会学演習B-II	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	4 社会学演習B-III	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	4 社会学演習B-IV	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	3 社会学演習C-I	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	3 社会学演習C-II	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	4 社会学演習C-III	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	4 社会学演習C-IV	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	3 現代社会分析演習	2.0	◎	◎	◎	○		○							
	3 文化人類学演習Ⅰ	選択 6単位 (※2)	選択 6単位 (※2)	選択 8単位 (※履修モデル メイン科目)	選択 6単位 (※2)	2.0	◎	◎		◎	◎		○		
	3 文化人類学演習Ⅱ					2.0	◎	◎		◎	◎		○		
3 文化人類学演習Ⅲ	2.0					◎	◎		◎	◎		○			
3 文化人類学演習Ⅳ	2.0					◎	◎		◎	◎		○			
3 文化人類学応用演習Ⅰ	2.0					◎	◎		◎	◎		○			
3 文化人類学応用演習Ⅱ	2.0					◎	◎		◎	◎		○			
3 文化人類学応用演習Ⅲ	2.0					◎	◎		◎	◎		○			
3 文化人類学応用演習Ⅳ	2.0					◎	◎		◎	◎		○			
4 社会人間学応用演習A-I	2.0					◎	◎	○							
4 社会人間学応用演習A-II	2.0					◎	◎	○							
4 社会人間学応用演習B	2.0					◎	◎	○							
3 課題研究Ⅰ	必修					必修	必修	必修	2.0	◎	◎	◎			
3 課題研究Ⅱ	必修	必修	必修	必修	2.0	◎	◎	◎							
4 課題研究Ⅲ	必修	必修	必修	必修	2.0	◎	◎	◎							
4 卒業論文	必修	必修	必修	必修	8.0	◎	◎	◎							

文学部人文科学科 地域科学コース カリキュラムマップ

		地域科学コース				学修成果								
年次	科目名	コース	地域社会学	民俗学	地理学	単位数	1	2	3	4	5	6	7	
専門基礎科目	1 文章作成演習	必修	必修			2.0		◎	◎	◎		◎		
	1 地域社会学概論Ⅰ		必須	必修	必修	2.0	○	◎	○				○	
	1 民俗学概論Ⅰ			必須	必修	2.0	◎	◎						
	1 地理学概論				必修	2.0	○	◎	○		○	○		
	1 哲学概論Ⅰ				必修	2.0	◎	◎	◎	◎				
	1 心理学概論				必修	2.0	◎	◎						
	1 倫理学概論				必修	2.0	○	◎	○					
	1 社会学概論				必修	2.0	○	◎						
	1 文化人類学概論				必修	2.0	○	◎			○			
	1 史学概論				必修	2.0	○	◎	○					
	1 日本史概説Ⅰ				必修	2.0	◎	◎						
	1 考古学概説Ⅰ				必修	2.0	◎	◎						
	1 アジア史概説Ⅰ				必修	2.0	○	◎	○		○			
	1 西洋史概説Ⅰ				必修	2.0	○	◎	○	○	○		○	
	1 文化史概説Ⅰ				必修	2.0	○	◎	○					
	1 日本語日本文学入門				必修	2.0	○	◎						
	1 中国語圏文化論				必修	2.0	◎	◎						
	1 英語圏文化論				必修	2.0	◎	◎						
	1 ドイツ語圏・フランス語圏文化論				必修	2.0	◎	◎						
	1 比較文学・国際文化学入門				必修	2.0	○	◎			○		○	
	1 現代文化資源学入門				必修	2.0	◎	◎						
	2 キリシア語A				必修	2.0	◎	◎	◎		◎			
	2 キリシア語B				必修	2.0	◎	◎	◎		◎			
	2 キャリア支援				必修	2.0	◎						◎	
	専門教育	2 社会調査法概説		必修	必修	選択	2.0	○	◎		○			
		2 地域社会学概論Ⅱ		必須	必修	6単位	2.0	○	◎	○	○			○
		2 地域社会分析演習		必須		(※2)	2.0	◎	◎	○	○		◎	○
		2 地域調査法概説				必修	2.0	◎	◎	○				
		2 民俗学概論Ⅱ				必修	2.0	◎	◎					
		2 人文地理学				必修	2.0	◎	◎	○	○			○
		2 自然地理学Ⅰ				必修	2.0	○	◎					
		2 地誌学				選択	2.0		◎					
2 基層文化論演習					必修	2.0	◎	◎	◎					
2 地域文化論演習					必修	2.0	○	○	○	○	○	○	◎	
3 社会調査実習A 1		必修	必修			2.0	○	◎	○	○	◎	◎	○	
3 社会調査実習A 2		(※社会)	必修			2.0	○	◎	○	○	◎	◎	○	
3 社会調査実習B 1		調査実習		必修		2.0	○	○	○	○	○	◎	◎	
3 社会調査実習B 2		又は地理		必修		2.0	○	○	○	○	○	◎	◎	
3 地理調査実習1		調査実習			必修	2.0	◎	◎						
3 地理調査実習2		を			必修	2.0	◎	◎						
3 地域科学演習A 1			必修			4.0	○	◎	○	○			◎	
4 地域科学演習A 2			必修			4.0	○	◎	○				◎	
3 地域科学演習B 1				必修		4.0	○	○	○	○	○		◎	
4 地域科学演習B 2				必修		4.0	○	○	○	◎				
3 地域科学演習C 1				必修		4.0		◎	○	○				
3 地域科学演習C 2				必修		4.0		◎						
4 地域科学演習C 3				必修		4.0	◎	○	○					
4 地域科学演習C 4				必修		4.0	◎	○						
3 地域分析論演習						2.0		◎						
3 自然地理学Ⅱ						2.0	○	◎	○	○	○	○	○	
2/3 地域科学特殊講義A 1						2.0	○	◎	◎	◎	○	○	○	
2/3 地域科学特殊講義A 2						2.0	○	◎	◎	◎	○	○	○	
2/3 地域科学特殊講義B 1					選択	2.0	○	◎	◎	◎	○	○	○	
2/3 地域科学特殊講義B 2					2単位	2.0	○	◎	◎	◎	○	○	○	
2/3 地域科学特殊講義B 3						2.0	○	◎	◎	◎	○	○	◎	
2/3 地域科学特殊講義B 4						2.0	◎	◎	◎	◎	○	○	○	
2/3 地域科学特殊講義C 1					2.0	○	◎	◎	◎	○	○	○		
2/3 地域科学特殊講義C 2					2.0	○	◎	◎	◎	○	○	○		
4 地域科学応用演習					2.0	○	◎					○		
3 社会学演習A - I				選択	2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
3 社会学演習A - II				2単位	2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
4 社会学演習A - III					2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
4 社会学演習A - IV					2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
3 社会学演習B - I					2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
3 社会学演習B - II					2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
4 社会学演習B - III					2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
4 社会学演習B - IV					2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
3 社会学演習C - I					2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
3 社会学演習C - II					2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
4 社会学演習C - III					2.0	◎	◎	○	○	○	○	○		
4 社会学演習C - IV					2.0	◎	◎	◎		○	○	○		
2 社会人間学特殊講義A - I					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A - II					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A - III					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A - IV					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A - V					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A - VI					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A - VII					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A - VIII					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義A - IX					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義B - I					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義B - II					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義B - III					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義B - IV					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義B - V					2.0	○	◎	◎						
2 社会人間学特殊講義B - VI					2.0	○	◎	◎						
3 課題研究Ⅰ	必修	必修	必修	必修	2.0	○	◎	◎	○	○	○	○		
3 課題研究Ⅱ	必修	必修	必修	必修	2.0	○	◎	◎	○	○	○	○		
4 課題研究Ⅲ	必修	必修	必修	必修	2.0	○	◎	◎	○	○	○	○		
4 卒業論文	必修	必修	必修	必修	8.0	○	◎	◎	○	○	○	○		

文学部 人文科学科 歴史資料学コース カリキュラムマップ

		歴史資料学コース			学修成果										
年次	科目名	コース	日本史学	考古学	単位数	1	2	3	4	5	6	7			
専門基礎科目	1 文章作成演習	必修	必修	必修	2.0		◎					◎			
	1 史学概論	必修	必修	必修	2.0	○	◎	○							
	1 日本史概説Ⅰ	必修	必修	必修	2.0	◎	◎								
	1 考古学概説Ⅰ	必修	必修	必修	2.0	◎	◎								
	1 アジア史概説Ⅰ	選択 6単位	選択 6単位	選択 6単位	2.0	○	◎	○		○					
	1 西洋史概説Ⅰ				2.0	○	◎	○	○	○		○			
	1 文化史概説Ⅰ				2.0	◎	○	○							
	1 哲学概論Ⅰ				2.0	◎	◎	◎	◎						
	1 心理学概論				2.0	◎	◎								
	1 倫理学概論				2.0	○	◎	○							
	1 社会学概論				2.0	○	◎							○	
	1 文化人類学概論				2.0	◎	◎					◎			
	1 地域社会学概論Ⅰ				2.0	◎	◎	◎						◎	
	1 民俗学概論Ⅰ				2.0	◎	◎								
	1 地理学概論				2.0	○	◎	○							
	1 日本語日本文学入門				2.0	○	◎								
	1 中国語圏文化論				2.0	◎	◎								
	1 英語圏文化論				2.0	◎	◎								
	1 ドイツ語圏・フランス語圏文化論				2.0	◎	◎								
	1 比較文学・国際文化学入門				2.0	○	◎	◎					○	○	
	1 現代文化資源学入門				2.0	◎	◎								
	2 ギリシア語A				2.0	◎	◎	◎					◎		
	2 ギリシア語B				2.0	◎	◎	◎					◎		
	2 キャリア支援				2.0	◎								◎	
	専門教育	基盤科目	1 博物館概論	必修	必修	必修	2.0	◎	◎						
			2 博物館資料論	必修	必修	必修	2.0		◎	○					
			2 日本史概説Ⅱ	選択 8単位	選択8単位(※1)		2.0	○	◎						
			2 考古学概説Ⅱ		選択	2.0	○	◎							
			2 歴史資料学実習A-Ⅰ		選択	8単位(※1)	2.0	○	◎				○		
			2 歴史資料学実習A-Ⅱ		8単位	2.0	○	◎			○		○		
			2 歴史資料学実習B-Ⅰ		(※1)	2.0		◎			○				
			2 歴史資料学実習B-Ⅱ		8単位(※1)	2.0		◎			○				
		専門科目	展開科目		2 歴史資料学演習A-Ⅰ	選択 24単位	必須	2.0		◎					◎
					2 歴史資料学演習A-Ⅱ		必須	2.0		◎	○				
				3 歴史資料学演習A-Ⅲ	必須		2.0	○	◎						
				3 歴史資料学演習A-Ⅳ	必須		2.0		◎					◎	
				2/3 歴史資料学特殊講義A-Ⅰ	選択 4単位		2.0		◎						
				3 歴史資料学特殊講義A-Ⅱ			2.0	○	◎			○			
				3 歴史資料学特殊講義A-Ⅲ			2.0		◎						
3 歴史資料学特殊講義A-Ⅳ				2.0				◎							
3 歴史資料学特殊講義A-Ⅴ				2.0				◎							
3 歴史資料学特殊講義A-Ⅵ				2.0				◎							
3 歴史資料学野外実習A				必須			4.0		◎			○			
3 歴史資料学演習B-Ⅰ				必須			2.0		◎					◎	
3 歴史資料学演習B-Ⅱ			必須	2.0		◎	○								
2 歴史資料学演習B-Ⅲ			必須	2.0	○	◎									
2 歴史資料学演習B-Ⅳ			必須	2.0		◎					◎				
2/3 歴史資料学特殊講義B-Ⅰ			選択 4単位	2.0	○	◎						◎			
2/3 歴史資料学特殊講義B-Ⅱ				2.0	◎	◎			◎			◎			
2/3 歴史資料学特殊講義B-Ⅲ				2.0	○	◎									
3 歴史資料学特殊講義B-Ⅳ				2.0	◎	◎			◎			◎			
3 歴史資料学特殊講義B-Ⅴ				2.0	◎	◎				◎		◎			
3 歴史資料学特殊講義B-Ⅵ				2.0	○	◎									
3 歴史資料学特殊講義B-Ⅶ				2.0	◎	◎				◎		◎			
2 歴史資料学野外実習B-Ⅰ				必須	4.0	◎	◎	◎	◎			◎			
3 歴史資料学野外実習B-Ⅱ			必須	4.0	◎	◎	◎	◎			◎				
3 課題研究Ⅰ		必修	必修	必修	2.0		○	◎	○						
3 課題研究Ⅱ		必修	必修	必修	2.0		○	◎		○					
4 課題研究Ⅲ		必修	必修	必修	2.0		○	◎		○					
4 卒業論文		必修	必修	必修	8.0		○	◎		○					

文学部 人文科学科 超域歴史学コース カリキュラムマップ

		超域歴史学コース				アジア史学		西洋史学	文化史学	学修成果								
年次	科目名	コース	必須区分	必須区分	必須区分	必須区分	単位数	1	2	3	4	5	6	7				
専門基礎科目	1 文章作成演習	必修	必修	必修	必修	必修	2.0		◎					◎				
	1 史学概論	必修	必修	必修	必修	必修	2.0	○	◎	○								
	1 アジア史概説Ⅰ	必修	必修	必修	必修	必修	2.0	○	◎	○		○						
	1 西洋史概説Ⅰ	必修	必修	必修	必修	必修	2.0	○	◎	○	○	○		○				
	1 文化史概説Ⅰ	必修	必修	必修	必修	必修	2.0	◎	○	○								
	1 日本史概説Ⅰ	選択 4単位	選択 4単位	選択 4単位	選択 4単位	2.0	◎	◎										
	1 考古学概説Ⅰ					2.0	◎	◎										
	1 哲学概説Ⅰ					2.0	◎	◎	◎	◎								
	1 心理学概論					2.0	◎	◎										
	1 倫理学概論					2.0	○	◎	○									
	1 社会学概論					2.0	○	◎										○
	1 文化人類学概論					2.0	◎	◎									◎	
	1 地域社会学概論Ⅰ					2.0	◎	◎	◎									◎
	1 民俗学概論Ⅰ					2.0	◎	◎										
	1 地理学概論					2.0	○	◎	○									
	1 日本語日本文学入門					2.0	○	◎										
	1 中国語圏文化論					2.0	◎	◎										
	1 英語圏文化論					2.0	◎	◎										
	1 ドイツ語圏・フランス語圏文化論					2.0	◎	◎										
	1 比較文学・国際文化学入門					2.0	○	◎	◎								○	○
	1 現代文化資源学入門					2.0	◎	◎										
	2 ギリシア語A					2.0	◎	◎	◎								◎	
	2 ギリシア語B					2.0	◎	◎	◎								◎	
	2 キャリア支援					2.0	◎											◎
	専門教育					基礎科目	2 アジア史概説Ⅱ	必須	必須	選択 4単位	必須	2.0	○	◎	○		○	
		2 超域歴史学基礎演習C	必須	必須	選択 4単位		必須	2.0	◎	◎								
		2 超域歴史学講読C	必須	必須	選択 4単位		必須	2.0	◎						○			
		2 西洋史概説Ⅱ	選択 10単位	選択 4単位	必須		選択 4単位	2.0	○	◎	○	○	○		○			
		2 超域歴史学基礎演習D-I			選択		2.0	◎	◎		○	○						
		2 超域歴史学基礎演習D-II			2単位		2.0	○	◎	○	○			○				
		2 超域歴史学講読D-I			選択		2.0	◎	◎	○	○							
		2 超域歴史学講読D-II			2単位		2.0	◎	◎	○	○							
		2 文化史概説Ⅱ			必須		2.0	◎	◎				◎					
		2 超域歴史学基礎演習E-I			選択		2.0	◎	◎					○				
		2 超域歴史学基礎演習E-II			2単位		2.0	◎	◎					○				
		2 超域歴史学講読E-I			(※1)		2.0	◎	◎		○							
		2 超域歴史学講読E-II			2単位		2.0	◎	◎	○	○							
		専門科目	展開科目	3 超域歴史学演習C-I	選択 4単位		選択 10単位	(※2)	2.0	○	◎				○	○		
				3 超域歴史学演習C-II					2.0	◎	◎							
3 超域歴史学演習C-III				2.0		◎												
3 超域歴史学演習C-IV				2.0		◎												
3 超域歴史学特殊講義C-I				2.0		◎			◎									
3 超域歴史学特殊講義C-II				2.0		◎			◎									
2/3 超域歴史学特殊講義C-III				2.0	○	◎	○											
3 超域歴史学演習D-I				選択 4単位	選択 8単位	2.0	◎	◎			◎							
3 超域歴史学演習D-II						2.0	◎	◎	○	◎								
3 超域歴史学演習D-III						2.0	○	◎	◎	○	○		○					
3 超域歴史学演習D-IV						2.0	○	◎		○	○	○	○					
3 超域歴史学演習D-V						2.0	○	◎		○	○	○	○					
3 超域歴史学演習D-VI			2.0			○	◎		○	○	○	○						
3 超域歴史学演習D-VII			2.0	○	◎		○	○	○	○								
3 超域歴史学特殊講義D-I			選択 8単位	選択 2単位	2.0	◎	◎			◎								
2/3 超域歴史学特殊講義D-II					2.0		◎			◎								
2/3 超域歴史学特殊講義D-III					2.0	◎	◎			◎								
2/3 超域歴史学特殊講義D-IV					2.0	◎	◎			◎								
3 超域歴史学演習E-I					2.0	◎	◎											
3 超域歴史学演習E-II					2.0	◎	◎											
3 超域歴史学演習E-III			2.0	◎	◎				○									
3 超域歴史学演習E-IV			2.0	◎	◎				○									
3 超域歴史学特殊講義E-I			選択 10単位	(※2)	2.0	◎	◎											
2 超域歴史学特殊講義E-II					2.0	◎	◎											
3 超域歴史学特殊講義E-III		2.0			◎	◎				○								
2 超域歴史学特殊講義E-IV		2.0			◎	◎				○								
3 課題研究Ⅰ	必修	必修	必修	必修	必修	2.0		○	◎	○								
3 課題研究Ⅱ	必修	必修	必修	必修	必修	2.0		○	◎		○							
4 課題研究Ⅲ	必修	必修	必修	必修	必修	2.0		○	◎		○							
4 卒業論文	必修	必修	必修	必修	必修	8.0	○	○	◎		○							

文学部人文科学科 東アジア言語文化学コース カリキュラムマップ

		東アジア言語文化学コース			日本語日本文学		中国語中国文学		学修成果														
		年次	科目名	コース	必修区分	必修区分	必修区分	単位数	1	2	3	4	5	6	7								
専門基礎科目		1	文章作成演習	必修	必修	必修	2.0		◎	◎	◎			◎	◎								
		1	日本語日本文学入門	選択 12単位	選択 12単位	選択 12単位	2.0	○	◎														
		1	中国語圏文化論				2.0	◎	◎														
		1	英語圏文化論				2.0	◎	◎														
		1	ドイツ語圏・フランス語圏文化論				2.0	◎							◎								
		1	比較文学・国際文化学入門				2.0	○		◎				○				○					
		1	哲学概論Ⅰ				2.0	◎	◎	◎	◎												
		1	心理学概論				2.0	◎	◎														
		1	倫理学概論				2.0	○	◎	○													
		1	社会学概論				2.0	○	◎										○				
		1	文化人類学概論				2.0	◎	◎							◎							
		1	地域社会学概論Ⅰ				2.0	◎	◎	◎									◎				
		1	民俗学概論Ⅰ				2.0	◎	◎														
		1	地理学概論				2.0	○	◎	○													
		1	史学概論				2.0	○	◎	○													
		1	日本史概説Ⅰ				2.0	◎	◎														
		1	考古学概説Ⅰ				2.0	◎	◎														
		1	アジア史概説Ⅰ				2.0	○	◎	○						○							
		1	西洋史概説Ⅰ				2.0	○	◎	○	○	○							○				
		1	文化史概説Ⅰ				2.0	◎	○	○													
		1	現代文化資源学入門				2.0	◎	◎														
		2	ギリシア語A				2.0	◎	◎	◎					◎								
		2	ギリシア語B				2.0	◎	◎	◎					◎								
		2	キャリア支援				2.0	◎										◎					
		専門教育	基盤科目				2	中国文学史Ⅰ	必修	必修	必修	2.0	◎	◎									
							2	日本語学概論Ⅰ	選択 10単位	選択 8単位	選択 8単位	2.0	○	◎									
							2	日本語学概論Ⅱ				2.0	○	◎							○		
							2	日本文学概論Ⅰ				2.0	○	◎	○							○	
							2	日本文学概論Ⅱ				2.0	◎	○	○								
							2	中国文学史Ⅱ				2.0	○	◎									
							2	中国語学概論				2.0	◎	◎									
							2	中国語会話				2.0	○	◎		○	○	○	○				
							2	中国語作文				2.0	◎	◎				○					
							2	日本語学基礎演習Ⅰ				選択 20単位	選択 20単位	選択 20単位	2.0	◎	◎	○					
			2				日本語学基礎演習Ⅱ	2.0								◎	○						
			3				日本語学演習Ⅰ	2.0		◎	○												
			3				日本語学演習Ⅱ	2.0		◎	○												
			2/3				日本語学特殊講義Ⅰ	2.0	○	◎													
2/3	日本語学特殊講義Ⅱ		2.0					◎	○														
2/3	日本語学特殊講義Ⅲ		2.0		◎	◎											○						
2	日本文学基礎演習Ⅰ		2.0		◎	○											○						
2	日本文学基礎演習Ⅱ		2.0	○	◎	○																	
3	日本文学演習Ⅰ		2.0		◎	○											○						
3	日本文学演習Ⅱ		2.0	○	◎	○																	
3	日本文学演習Ⅲ		2.0	○	◎	○																	
2/3	日本文学特殊講義Ⅰ		2.0	○	◎	○											○						
2/3	日本文学特殊講義Ⅱ		2.0	○	◎	○																	
2/3	日本文学特殊講義Ⅲ		2.0	○	◎	○											○						
2/3	中国語中国文学演習A 1		選択 20単位	選択 20単位	選択 20単位	2.0	◎	◎															
2/3	中国語中国文学演習A 2					2.0	◎	◎															
2/3	中国語中国文学演習A 3					2.0	◎	◎															
2/3	中国語中国文学演習A 4					2.0	◎	◎															
2/3	中国語中国文学演習B 1					2.0	○	◎	○	○	○									○			
2/3	中国語中国文学演習B 2					2.0	○	◎	○	○	○	○					○						
2/3	中国語中国文学演習B 3					2.0	○	◎	○	○	○	○					○						
2/3	中国語中国文学演習B 4					2.0	○	◎	○	○	○	○					○						
2/3	中国語中国文学演習C 1					2.0	○	◎	○	◎	○												
2/3	中国語中国文学演習C 2					2.0	○	◎		◎	○												
2/3	中国語中国文学演習C 3					2.0	○	◎		◎	○												
2/3	中国語中国文学演習C 4					2.0	○	◎		◎	○												
2/3	中国語中国文学特殊講義Ⅰ					2.0	◎	◎															
2/3	中国語中国文学特殊講義Ⅱ					2.0	◎	◎															
2/3	中国語中国文学特殊講義Ⅲ					2.0	○	◎	○	○	○						○						
3	課題研究Ⅰ					必修	必修	必修	2.0		◎	○						○					
4	課題研究Ⅱ					必修	必修	必修	2.0		◎	◎											
4	課題研究Ⅲ					必修	必修	必修	2.0		◎	◎											
4	卒業論文	必修				必修	必修	8.0		◎	◎												

文学部 人文科学科 欧米言語文化学コース カリキュラムマップ

		欧米言語文化学コース				英語英米文学		独語独文学		仏語仏文学		学修成果							
年次	科目名	必選区分	必選区分	必選区分	必選区分	単位数	1	2	3	4	5	6	7						
専門基礎科目	1 文章作成演習	必修	必修	必修	必修	2.0		◎	◎	◎		◎	◎						
	1 日本語日本文学入門	選択 12単位	選択 12単位	選択 12単位	選択 12単位	2.0	○	◎											
	1 中国語圏文化論					2.0	◎	◎											
	1 英語圏文化論					2.0	◎	◎											
	1 ドイツ語圏・フランス語圏文化論					2.0	◎	◎											
	1 比較文学・国際文化学入門					2.0	○		◎		○						○		
	1 哲学概論Ⅰ					2.0	◎	◎	◎	◎									
	1 心理学概論					2.0	◎	◎											
	1 倫理学概論					2.0	○	◎	○										
	1 社会学概論					2.0	○	◎									○		
	1 文化人類学概論					2.0	◎	◎							◎				
	1 地域社会学概論Ⅰ					2.0	◎	◎	◎								◎		
	1 民俗学概論Ⅰ					2.0	◎	◎											
	1 地理学概論					2.0	○	◎	○										
	1 史学概論					2.0	○	◎	○										
	1 日本史概説Ⅰ					2.0	◎	◎											
	1 考古学概説Ⅰ					2.0	◎	◎											
	1 アジア史概説Ⅰ					2.0	○	◎	○		○								
	1 西洋史概説Ⅰ					2.0	○	◎	○	○							○		
	1 文化史概説Ⅰ					2.0	◎	○	○										
	1 現代文化資源学入門					2.0	◎	◎											
	2 ギリシア語A					2.0	◎	◎	◎						◎				
	2 ギリシア語B					2.0	◎	◎	◎						◎				
	2 キャリア支援					2.0	◎									◎			
	専門教育					基礎科目	2 英語学概論	選択 10単位	選択 8単位	選択2単位(※2)	2.0	○	◎						
							2 英文学史Ⅰ			選択2単位(※1)	2.0	◎	◎						
							3 英文学史Ⅱ			2.0	◎	◎							
							2 英会話			2.0	○	○	◎	○	◎	○	○		
							3 英作文			2.0	○	○	◎	○	◎	○	○		
							2 独語学概論			2.0	○	◎				○			
							2 独文学史			選択2単位(※1)	選択 8単位	選択2単位(※1)	2.0	◎	○		○	○	
							2 独語独文学基礎演習A 1			2.0	○	◎				◎		○	
							2 独語独文学基礎演習A 2			2.0	○	◎				◎		○	
2 仏文学史							選択2単位(※1)			選択2単位(※1)	選択 6単位	2.0	◎	○					
2 仏語仏文学基礎演習A 1		2.0	○	◎	○						◎								
2 仏語仏文学基礎演習A 2		2.0	○	◎	○						◎								
専門科目		展開科目	2 英語学演習A	選択 16単位	選択 16単位		選択 16単位			2.0	○		○		◎				
			3 英語学演習B							2.0	○		○		◎				
			2 英文学演習A							2.0	○	◎	○	○	○	○	○		
			3 英文学演習B			2.0		○	◎	○	○	○	○	○					
			2 米文学演習A			2.0		○	◎	○	○	○	○	○					
			3 米文学演習B			2.0		○	◎	○	○	○	○	○					
			3 英文学特殊講義			2.0		◎	◎	○	○	○	○	○					
			2 米文学特殊講義A			2.0		◎	◎	○	○	○	○	○					
			3 米文学特殊講義B			2.0		◎	◎	○	○	○	○	○					
		展開科目	2 独語独文学演習A 1	2.0	○	◎	○	○	○	○	○								
			3 独語独文学演習A 2	2.0	○	◎	○	○	○	○	○								
			3 独語独文学演習B 1	2.0	○	◎				◎		○							
			3 独語独文学演習B 2	2.0	○	◎				◎		○							
			2 独語独文学特殊講義A	2.0	○	○	○	○	◎		○								
			3 独語独文学特殊講義B	2.0	○	○	○	○	◎		○								
			2/3 独語独文学特殊講義C	2.0	◎	◎	○	○	○										
			2/3 ドイツ語圏文化論演習	2.0		○	◎		○	○									
			3 仏語仏文学演習A 1	2.0	◎	◎	○	○	○	○	○	○							
3 仏語仏文学演習A 2		2.0	◎	◎	○	○	○	○	○	○									
2/3 仏語仏文学演習B 1		2.0	◎	◎	○	○	○	○	○	○									
2/3 仏語仏文学演習B 2		2.0	◎	◎	○	○	○	○	○	○									
2/3 仏語仏文学演習B 3	2.0	◎	◎	○	○	○	○	○	○										
2/3 仏語仏文学演習B 4	2.0	◎	◎	○	○	○	○	○	○										
3 仏語仏文学演習C 1	2.0	○	◎	○			◎												
3 仏語仏文学演習C 2	2.0	○	◎	○			◎												
2/3 仏語仏文学特殊講義A	2.0	◎	◎	○	○	○	○	○	○										
2/3 仏語仏文学特殊講義B	2.0	◎	◎	○	○	○	○	○	○										
2 フランス語圏文化論演習	2.0						◎	◎											
3 課題研究Ⅰ	必修	必修	必修	必修	必修	2.0	◎	○	○	○	○								
4 課題研究Ⅱ	必修	必修	必修	必修	必修	2.0	◎	○	○	○	○								
4 課題研究Ⅲ	必修	必修	必修	必修	必修	2.0	◎	○	○	○	○								
4 卒業論文	必修	必修	必修	必修	必修	8.0	◎	◎		○	○	○							

文学部 人文科学科 多言語文化学コース カリキュラムマップ

		多言語文化学コース			国際文化学			学修成果									
年次	科目名	必修区分	比較文学 必修区分	国際文化学 必修区分	単位数	1	2	3	4	5	6	7					
専門基礎科目	1 文章作成演習	必修	必修	必修	2.0		◎	◎	◎		◎	◎					
	1 日本語日本文学入門	選択 12単位	選択 12単位	選択 12単位	2.0	○	◎										
	1 中国語圏文化論				2.0	◎	◎										
	1 英語圏文化論				2.0	◎	◎										
	1 ドイツ語圏・フランス語圏文化論				2	◎	◎										
	1 比較文学・国際文化学入門				2	○		◎		○							
	1 哲学概論Ⅰ				2.0	◎	◎	◎	◎								
	1 心理学概論				2.0	◎	◎										
	1 倫理学概論				2.0	○	◎	○									
	1 社会学概論				2.0	○	◎							○			
	1 文化人類学概論				2.0	◎	◎					◎					
	1 地域社会学概論Ⅰ				2.0	◎	◎	◎						◎			
	1 民俗学概論Ⅰ				2.0	◎	◎										
	1 地理学概論				2.0	○	◎	○									
	1 史学概論				2.0	○	◎	○									
	1 日本史概説Ⅰ				2.0	◎	◎										
	1 考古学概説Ⅰ				2.0	◎	◎										
	1 アジア史概説Ⅰ				2.0	○	◎	○					○				
	1 西洋史概説Ⅰ				2.0	○	◎	○	○	○				○			
	1 文化史概説Ⅰ				2.0	◎	◎	○									
	1 現代文化資源学入門				2.0	◎	◎										
	2 ギリシア語 A				2.0	◎	◎	◎					◎				
	2 ギリシア語 B				2.0	◎	◎	◎					◎				
	2 キャリア支援				2.0	◎								◎			
	専門教育				基盤科目	2 比較文学概論Ⅰ	必修	必修	必修	2.0	◎	○			○		
						2 比較文学概論Ⅱ	選択 6単位	選択 6単位	選択 6単位 (※1)	2.0	◎	○			○		
						2 比較文学基礎演習Ⅰ	選択 6単位 (※1)	選択 6単位	選択 6単位 (※1)	2.0	◎	◎	◎	◎	◎		◎
						2 比較文学基礎演習Ⅱ				2.0	◎	◎	◎	◎	◎		◎
						2 比較文学基礎演習Ⅲ				2.0	◎	○		○			
						2 国際文化学概論	必修	必修	必修	2.0	○	○			◎		
					2 国際文化学基礎演習Ⅰ	選択 6単位 (※1)		選択 6単位 (※1)	2.0				○	◎			
					2 国際文化学基礎演習Ⅱ				2.0				○	◎			
					専門科目	展開科目	2 世界文学論	選択 16単位 (※1)	選択 16単位 (※2)	2.0	◎		◎		◎		◎
							2/3 比較文学演習Ⅰ			2.0	◎	◎					
2/3 比較文学演習Ⅱ							2.0				◎				◎		
2 比較文学特殊講義Ⅰ		2.0		◎									○				
2 比較文学特殊講義Ⅱ		2.0	◎				○					○					
2/3 国際文化学演習Ⅰ		2.0		○						○	◎						
2/3 国際文化学演習Ⅱ		2.0		○						○	◎						
2/3 国際文化学演習Ⅲ		2.0		◎							◎						
2 外国語演習 A 1		2.0	○	◎						○	○	○	○				
2 外国語演習 A 2		2.0		◎							○						
2 外国語演習 B 1		2.0	○	◎							◎		○				
2 外国語演習 B 2		2.0	○	◎						○	◎		◎				
2 外国語演習 C 1		2.0	○	◎		○		◎									
2 外国語演習 C 2		2.0	○	◎		○		◎									
2/3 国際文化学特殊講義Ⅰ		選択 16単位 (※1)	選択 16単位 (※1)	2.0			○		◎								
2/3 国際文化学特殊講義Ⅱ				2.0			○		◎								
2/3 国際文化学特殊講義Ⅲ				2.0			○		◎								
2/3 日本文学特殊講義Ⅰ				2.0		○	◎	○				○					
2/3 日本文学特殊講義Ⅱ		2.0	○	◎		○					○						
2/3 日本文学特殊講義Ⅲ		2.0	○	◎		○					○						
2/3 中国語中国文学演習 C 2		選択 16単位 (※2)	選択 16単位 (※2)	2.0		○	◎		◎	○		○					
2 英語学演習 A		選択 16単位 (※1)	選択 16単位 (※2)	2.0		○	◎	○	○	○	○	○					
3 英文学特殊講義				2.0			◎			◎							
2 米文学特殊講義 A				2.0			◎			◎							
3 米文学特殊講義 B				2.0		◎	○		○		○	○					
3 独語独文学演習 B 1				2.0			◎	○		○		○					
3 独語独文学演習 B 2	2.0					◎	○		○		○						
2 独語独文学特殊講義 A	2.0			○		○	○	○	◎		○						
3 独語独文学特殊講義 B	2.0			○	○	○	○	◎		○							
2/3 独語独文学特殊講義 C	2.0			◎		○		○									
2/3 仏語仏文学演習 B 1	2.0			◎	◎	○	○	○	○	○							
2/3 仏語仏文学演習 B 2	2.0			◎	◎	○	○	○	○	○							
2/3 仏語仏文学演習 B 3	2.0			◎	◎	○	○	○	○	○							
2/3 仏語仏文学演習 B 4	2.0			◎	◎	○	○	○	○	○							
2/3 仏語仏文学特殊講義 A	2.0				◎	○		○		○							
2/3 仏語仏文学特殊講義 B	2.0				◎	○		○		○							
3 課題研究Ⅰ	必修			必修	必修	2.0	◎		◎	◎	◎	◎					
3 課題研究Ⅱ	必修	必修	必修	2.0	◎		◎	◎	◎	◎							
4 課題研究Ⅲ	必修	必修	必修	2.0	◎	◎	◎	◎	◎								
4 卒業論文	必修	必修	必修	8.0	◎	◎	◎	◎	◎								

現代文化資源学コース カリキュラムマップ

		現代文化資源学コース		学修成果								
年次	科目名	現代文化資源学	単位数	1	2	3	4	5	6	7		
専門基礎科目	1 文章作成演習	必修	2.0		◎	◎	◎		◎	◎		
	1 現代文化資源学入門	必修	2.0	◎	◎							
	1 哲学概論Ⅰ	選択 10単位	2.0	◎	◎	◎	◎					
	1 心理学概論		2.0	◎	◎							
	1 倫理学概論		2.0	○	◎	○						
	1 社会学概論		2.0	○	◎					○		
	1 文化人類学概論		2.0	◎	◎			◎				
	1 地域社会学概論Ⅰ		2.0	◎	◎	◎				◎		
	1 民俗学概論Ⅰ		2.0	◎	◎							
	1 地理学概論		2.0	○	◎	○						
	1 史学概論		2.0	○	◎	○						
	1 日本史概説Ⅰ		2.0	◎	◎							
	1 考古学概説Ⅰ		2.0	◎	◎							
	1 アジア史概説Ⅰ		2.0	○	◎	○		○				
	1 西洋史概説Ⅰ		2.0	○	◎	○	○	○		○		
	1 文化史概説Ⅰ		2.0	◎	○	○						
	1 日本語日本文学入門		2.0	○	◎							
	1 中国語圏文化論		2.0	◎	◎							
	1 英語圏文化論		2.0	◎	◎							
	1 ドイツ語圏・フランス語圏文化論		2.0	◎	◎							
	1 比較文学・国際文化学入門		2.0	○		◎		○		○		
	2 ギリシア語A		2.0	◎	◎	◎		◎				
	2 ギリシア語B	2.0	◎	◎	◎		◎					
	2 キャリア支援	2.0	◎						◎			
	専門教育	基盤科目	2 現代文化資源学基礎演習Ⅰ	必修	2.0	○	◎					
			2 現代文化資源学基礎演習Ⅱ	必修	2.0	○	◎					
			2 現代文化資源学概論Ⅰ	必修	2.0	◎	◎	◎				
			2 現代文化資源学概論Ⅱ	必修	2.0	◎	◎	◎				
			2 メディア論	選択 4単位	2.0		◎			○		
		2 現代文化資源学実習A	2.0			○	○	◎			◎	
		2 現代文化資源学実習B	2.0			○	○	◎			◎	
		3 キャリアデザイン実習	2.0			◎	○	○	◎			
		専門科目	展開科目	3 現代芸術文化論A-1	選択 16単位	2.0	○	◎	○			◎
				3 現代芸術文化論A-2		2.0	○	◎	○			◎
3 現代芸術文化論B-1				2.0		○	◎	○			◎	
3 現代芸術文化論B-2				2.0		○	◎	○			◎	
3 現代芸術文化論C-1				2.0		○	◎	○			◎	
3 現代芸術文化論C-2				2.0		○	◎	○			◎	
3 現代芸術文化論D-1				2.0		○	◎	○			◎	
3 現代芸術文化論D-2				2.0		○	◎	○			◎	
2/3 日本語学特殊講義Ⅰ				2.0		○	◎					
2/3 日本語学特殊講義Ⅱ				2.0			◎	○				
2/3 日本語学特殊講義Ⅲ			2.0		◎	◎				○		
2/3 日本文学特殊講義Ⅰ			2.0	○	◎	○				○		
2/3 日本文学特殊講義Ⅱ			2.0	○	◎	○						
2/3 日本文学特殊講義Ⅲ			2.0	○	◎	○				○		
2/3 中国語中国文学特殊講義Ⅰ			2.0	◎	◎							
2/3 中国語中国文学特殊講義Ⅱ			2.0	◎	◎							
2/3 中国語中国文学特殊講義Ⅲ			2.0	○	◎	○	○	○		○		
3 英文学特殊講義			2.0		◎	○	○	○		○		
2 米文学特殊講義A			2.0		◎	○	○	○		○		
3 米文学特殊講義B			2.0		◎	○	○	○		○		
2 独語独文学特殊講義A			2.0	○	○	○	○	◎		○		
3 独語独文学特殊講義B			2.0	○	○	○	○	◎		○		
2/3 独語独文学特殊講義C			2.0	◎		○	○					
2/3 仏語仏文学特殊講義A			2.0		◎	○	○	○		○		
2/3 仏語仏文学特殊講義B			2.0		◎	○	○	○		○		
2 世界文学論		2.0	◎		◎		◎		◎			
2 比較文学特殊講義Ⅰ		2.0		◎					○			
2 比較文学特殊講義Ⅱ		2.0	◎		○		○					
2/3 国際文化学特殊講義Ⅰ		2.0		○			◎					
2/3 国際文化学特殊講義Ⅱ		2.0		○			◎					
2/3 国際文化学特殊講義Ⅲ		2.0		○			◎					
卒業論文		3 課題研究Ⅰ	必修	2.0	◎	◎	◎	◎				
	3 課題研究Ⅱ	必修	2.0	◎	◎	◎		◎				
	4 課題研究Ⅲ	必修	2.0	◎	◎	◎		◎				
	4 卒業論文	必修	8.0	◎	◎	◎		◎				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LLX0-000-20-0	2025通年	文学部(98060)	1	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
博物館実習Ⅰ(見学実習)			新里 亮人		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養・・・20% 2.確かな専門性・・・10% 3.創造的な知性・・・20% 4.社会的な実践力・・・10% 5.グローバルな視野・・・10% 6.情報通信技術の活用力・・・20% 7.汎用的な知力・・・10%					
授業の形態	実習				
授業の方法	博物館実習Ⅰに係る事前・事後指導はオンデマンド型の遠隔授業とし、4月中旬頃に「事前・事後指導資料」をMoodleにアップします。配布資料にしたがって、各自で熊本県内13館の博物館を自由見学し、館園ごとの見学レポート及び総括レポートを提出してください。				
授業の目的	博物館実習Ⅰ(見学実習)は博物館実習Ⅱ(学内実務実習)及び博物館実習Ⅲ(館園実習)の前段階に実施し、様々な博物館(設置者別・法的区分別・館種別)の運営実態を学ぶことを目的としています。見学を通して施設及び設備の理解を深め、利用者の観点から施設整備の在り方を学習すると共に、学芸員課程を履修する上で必要な全般的知識の習得を図ります。また、館ごとの見学レポート及び終了後には総括レポートを提出してもらい、担当教員が添削をして受講生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を行います。				
学修目標	<p>【A水準】</p> <ol style="list-style-type: none"> さまざまな博物館(設置者別・法的区分別・館種別)の運営実態を理解したうえで、博物館の多様性を説明できる。 ふだん見ることのできないバックヤードのあり方を学び、資料の保存と公開に係る必要な施設・設備等を説明できる。 展示の工夫や総合メディアとしての展示を学び、展示を通じたコミュニケーションのあり方を理解できる。 学芸員の率直な意見から、博物館及び学芸員のおかれている現状を学び、これからの博物館のあり方を理解できる。 <p>【C水準】</p> <ol style="list-style-type: none"> さまざまな博物館(設置者別・法的区分別・館種別)の運営実態を学び、博物館の多様性を理解できる。 ふだん見ることのできないバックヤードのあり方を学び、資料の保存と公開に係る必要な施設・設備等を理解できる。 展示の工夫や総合メディアとしての展示を学び、展示を通じたコミュニケーションのあり方をおおよそ理解できる。 学芸員の率直な意見から、博物館及び学芸員のおかれている現状を学び、これからの博物館のあり方をおおよそ理解できる。 				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 多様な博物館の姿を観察する 常設展及び特別展の見学 バックヤードの見学 ミュージアムショップ等の付帯設備見学 ミュージアム・ワーカーの日常観察 				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		見学実習の事前指導	実習の概要説明及び見学に際しての注意事項等の伝達。		
2		総合博物館の運営実態を学ぶ(1)	館概要の学習、展覧会・プラネタリウム・野外展示の鑑賞、教育普及活動の実施状況、ボランティアスタッフの活用等を通して、観光地(城内)に立地する市立総合博物館の運営実態を学習します。あわせてミュージアムショップ等の付帯施設の運営を学びます。(熊本市立熊本博物館：登録博物館)		
3		総合博物館の運営実態を学ぶ(2)	館概要の学習、展覧会の鑑賞、野外施設利用、教育普及活動の実施状況、ボランティアスタッフの活用等を通して、郊外に立地する県立総合博物館(文化財収蔵庫型・ネットワーク型)の運営実態を学習します。(熊本県博物館ネットワークセンター)		
4		美術館の運営実態を学ぶ(1)	館概要の学習、展覧会鑑賞、教育普及活動の実施状況、ボランティアスタッフの活用等を通して、観光地(城内)に立地する美術館の運営実態を学習します。併せてミュージアムショップ及びレストラン等の付帯施設の運営を学びます。(熊本県立美術館：登録博物館)		
5		美術館の運営実態を学ぶ(2)	館概要の学習、展覧会鑑賞、教育普及活動の実施状況、ボランティアスタッフの活用、指定管理者制度による財団立運営等、商業地に立地する現代美術に特化した美術館の運営実態を学習します。併せてミュージアムショップ及びカフェテリア等の付帯施設の運営を学びます。(熊本市現代美術館)		
6		歴史博物館の運営実態を学ぶ(1)	館概要の学習、展覧会鑑賞、教育普及活動の実施状況等を通して10万人規模の自治体が設置した歴史博物館の運営実態を学習します。併せてミュージアムショップ及びカフェテリア等の付帯施設の運営を学びます。(八代市立博物館：登録博物館)		
7		歴史博物館の運営実態を学ぶ(2)	館概要の学習、展覧会鑑賞、野外施設の利用方法、教育普及活動の実施状況等を通して考古学に特化した歴史博物館(野外展示含む)の運営実態及び「風土記の丘構想」と博物館の関係を学びます。(熊本県立装飾古墳館：登録博物館)		
8		歴史博物館の運営実態を学ぶ(3)	館概要の学習、展覧会鑑賞、教育普及活動の実施状況及び平成の大合併で大規模自治体に吸収された旧小規模自治体立の歴史博物館の運営実態を学びます。(熊本市塚原歴史民俗資料館)		
9		自然史博物館の運営実態を学ぶ	館概要の学習、展覧会鑑賞、バックヤード見学(公開部分)、教育普及活動の実施状況等を通して、恐竜に特化した公立自然史系博物館の運営実態を学習します。(御船町恐竜博物館：登録博物館)		

10	動植物園の運営実態を学ぶ	園概要の学習、動植物の育成、動物資料館での屋内展示、教育普及活動の実施状況等を通して公立動植物園の運営実態を学習します。(熊本市動植物園：博物館相当施設)
11	複合文化施設の運営を学ぶ	館概要の学習、展覧会鑑賞、教育普及活動の実施状況等を通して、図書館と共存する複合文化施設の在り方及び文学・歴史に特化した特色ある博物館運営の在り方を学びます。(くまもと・文学歴史館)
12	企業立博物館の運営を学ぶ	館概要の学習、展覧会鑑賞、教育普及活動の実施状況等を通して、文化情報発信拠点として市内の中心部に位置する企業立博物館の在り方を学びます。(肥後の里山ギャラリー)
13	類縁館の運営を学ぶ	館概要の学習、展覧会鑑賞、教育普及活動の実施状況等を通して、地場産業館と博物館の中間的性格を持つ工芸館(類縁館)の運営実態を学習します。あわせて指定管理者制度による財団立運営、ミュージアムショップの運営等を学びます。(熊本県伝統工芸館)
14	参加・体験型観光文化施設の運営を学ぶ	参加・体験型の観光文化施設の運営、及び熊本県随一の観光拠点である熊本城との関係性を学びます。(熊本城ミュージアムわくわく座)
15	見学実習の事後指導	質疑応答及びレポート作成の注意事項等の伝達
授業外学修時間の目安	本科目は、1単位の実習科目であり、全体で45時間分の学修が必要な内容で構成されています。授業では2h×15コマ=30時間の学修を行うため、残り15時間の学修については、以下に応じて各自で学修を行ってください。【見学レポート：毎回1時間相当、最終レポート：2時間相当】	
テキスト	事前・事後指導で配布する資料をテキストとします。	
参考文献	見学博物館のリーフレット及びHP情報等	
履修条件	学芸員資格取得のための必修科目(法定科目：「博物館に関する科目」)の一つです。学芸員資格の取得に必要な科目は、各学部の「学生便覧」等に履修モデル(履修学年・学期)を明示しています。この履修モデルにしたがって、段階的な学習を行います。履修モデルに示した「履修学年」通りに受講することが望ましいのは言うまでもありませんが、履修モデルに示した学年以上であれば履修は可能です。	
評価方法・基準	評価方法・基準：各館ごとの見学レポート70%、13館見学終了後の総括レポート30%で評価します。評価の視点：博物館の理解度、発想の豊かさ、論理的分析力、文章力、コミュニケーション能力など。	
使用言語	「日本語」による授業	
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト	
実務経験を活かした授業	該当(地方公共団体の博物館学芸員としての実務経験を持つ教員が、学芸員資格取得に必要な「法定科目」を担当します。)	

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LLX0-000-20-0	2025後期	文学部(98071)	2	1	木曜5限
科目名(講義題目)			担当教員		
博物館実習II(学内実務実習)			新里 亮人		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養・・・10% 2.確かな専門性・・・10% 3.創造的な知性・・・20% 4.社会的な実践力・・・20% 5.グローバルな視野・・・10% 6.情報通信技術の活用力・・・10% 7.汎用的な知力・・・20%					
授業の形態	実習				
授業の方法	講義資料(テキスト)及び課題作成に係る参考資料等は、事前にMoodleへアップします。また、期間中の1日を用いて「文化財の取扱及び梱包実習」を行います。こちらは学内「くすのき会館和室」が教室です。				
授業の目的	資料調査、資料撮影、キャプション・解説文の作成、展覧会の開催にともなう一連業務、教育普及活動を展開する際の基礎的な実務能力、資料の取扱・梱包及び輸送に係る事柄等を身につけ、館園実習に備えることを目的とします。適宜提出を求める各課題、及び博物館実習II(学内実務実習)を体験しての反省・自己評価等を総括レポート(期末課題)としてまとめ、それらを実習担当教員が添削をして学生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を行います。				
学修目標	<p>【A水準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料調査及び資料撮影等の方法を学び、学芸業務の基本的な事柄を理解できる。 2. 資料を詳細に観察したうえで情報を抽出し、様々な情報を要領よくキャプションや解説文にまとめることができる。 3. 展覧会開催にともなう基礎知識を習得し、一連の業務を説明できる。 4. 教育普及活動の概要を理解し、その意義や効果等を説明できる。 5. 基本的な文化財の取扱・梱包技能の習得、及び輸送方法を理解し、それらを説明できる。 <p>【C水準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料調査及び資料撮影等の方法を学び、学芸業務の基本的な事柄をおおむね理解できる。 2. 資料を詳細に観察したうえで情報を抽出し、様々な情報をおおむねキャプションや解説文にまとめることができる。 3. 展覧会開催にともなう基礎知識を習得し、一連の業務をおおむね説明できる。 4. 教育普及活動の概要を理解し、その意義や効果をおおむね説明できる。 5. 基本的な文化財の取扱・梱包技能の習得、及び輸送方法を理解し、それらをおおむね説明できる。 				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学芸業務のあれこれ 2. 資料調査 3. 資料撮影 4. 資料調査からキャプション、解説文の作成 5. 展覧会開催にともなう基礎知識 6. 教育普及活動にともなう基礎知識 7. 文化財の取扱及び梱包並びに輸送 				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		博物館実習II ガイダンス	博物館実習II(学内実務実習)の進め方及び注意事項等のガイダンスおよび班分けを行い、本実習及び学芸員の日常の一端を理解します。		
2		学芸員の仕事(講義)	これまでの学芸員養成課程教育において学んできた「博物館の使命と学芸員の役割」「これからの博物館及び学芸員に求められること」「資料調査の必需品」「写真撮影時の便利グッズ」などを復習することから、博物館の理念及び学芸員に求められる知識やスキルをより深く理解します。		
3		学芸員の資料調査(講義)	学芸員が資料調査をする際の「事前準備」「資料の取り扱いに関すること」「資料調査の必需品」「写真撮影時の便利グッズ」などを取扱い、学芸員の資料調査を理解します。		
4		博物館の資料調査(1)(講義)	博物館が資料撮影する際の機材、カメラの構造及び写真撮影にともなうスキル等を理解します。あわせて写真フィルムの保存環境等についても理解します。		
5		博物館の資料調査(2)(講義)	博物館が資料撮影する際の機材、カメラの構造及び写真撮影にともなうスキル等を理解する。あわせて写真フィルムの保存環境等についても理解する。		
6		キャプション、解説文の作成(1)(講義)	学内の展示を題材とし、キャプション及び解説文の作成を学びます。そのことから、博物館利用者への情報提供のあり方を理解します。		
7		キャプション、解説文の作成(2)(講義)	印刷に関する基礎知識を習得し、博物館展示資料のキャプション、図録解説文の作成方法について学ぶ		
8		博物館資料(文化財)の見方と最低限覚えておきたい各部の名称(講義)	「卷子・掛幅・折本」「屏風・襖絵」「仏像」「甲冑」「刀剣」等各部の名称を覚え、調査・梱包・展示等において、必要不可欠な知識を獲得します。		
9		展覧会用のキャプション及び解説文の作成(実習)	五高記念館が所蔵する資料を用いて、展覧会用のキャプション及び解説文の作成を行います。		
10		図録用のキャプション及び解説文の作成(実習)	博物館の展示資料のなかには、キャプションはあっても解説文のないものがあります。そうした資料を提供し、各自で図録用の解説文を作成してもらいます。そのことから、展示用と図録用の情報提供のあり方を理解します。		
11		博物館におけるこれからの資料収集及び展観・教育普及活動への利用(実習)	現代(戦後から令和)の資料を50年後に伝える展覧会を開催すると仮定して、各自興味のある資料10点(これがないと生きてはいけない趣味の道具や機材、行事ごとやイベントなども可)に関する展覧会用の解説文を作成します。そのことから、博物館におけるこれからの資料収集及び展観・教育普及活動へ利用する方法を学びます。		
12		文化財の取扱及び梱包(1)(実習)	軸装資料・額装資料・屏風・茶器・埴輪・仏像・甲冑等を用いて、博物館資料(文化財)の取扱及び梱包における基		

12		文化財の取扱及び梱包（1）（実習）	礎的技能を理解します。
13		文化財の取扱及び梱包（2）（実習）	軸装資料・額装資料・屏風・茶器・埴輪・仏像・甲冑等を用いて、博物館資料（文化財）の取扱及び梱包における基礎的技能を理解します。
14		文化財の取扱及び梱包（3）（実習）	軸装資料・額装資料・屏風・茶器・埴輪・仏像・甲冑等を用いて、博物館資料（文化財）の取扱及び梱包における基礎的技能を理解します。
15		事後指導（講義）	博物館実習Ⅱ（学内実務実習）の総括及び質疑応答等を通して、学芸員に求められる知識及びスキルを確実なものとし、「学芸員の仕事」をより深く理解します。あわせて、次年度博物館実習Ⅲ（館園実習）の事前準備を行います。
授業外学修時間の目安		本科目は、1単位の实習科目であり、全体で45時間分の学修が必要な内容で構成されています。授業では2h×15コマ＝30時間の学修を行うため、残り15時間の学修については、以下に応じて各自で学修を行ってください。【課題：毎回1時間相当、最終レポート：2時間相当】	
テキスト		配布プリントをテキストとします。	
参考文献		『博物館実習ガイドライン』（文部科学省、2009年、インターネットからダウンロード可）、全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』（芙蓉書房）	
履修条件		学芸員資格取得のための必修科目（法定科目：「博物館に関する科目」）の一つです。学芸員資格の取得に必要な科目は、各学部の「学生便覧」等に履修モデル（履修学年・学期）を明示しています。この履修モデルにしたがって、段階的な学習を行います。履修モデルに示した「履修学年」通りに受講することが望ましいのは言うまでもありませんが、履修モデルに示した学年以上であれば履修は可能です。	
評価方法・基準		評価方法及び基準：各課題50%、総括レポート（期末課題）50%で評価します。 評価の視点：積極性、発想の豊かさ、調査・研究能力、文章力、コミュニケーション能力など。	
使用言語		「日本語」による授業	
教科書・資料の言語		「日本語」のテキスト	
実務経験を活かした授業		該当（地方公共団体の博物館学芸員としての実務経験を持つ教員が、学芸員資格取得に必要な「法定科目」を担当します。）	

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LLX0-000-20-0	2025通年	文学部(98080)	3	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
博物館実習Ⅲ(館園実習)			新里 亮人		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養・・・15% 2.確かな専門性・・・20% 3.創造的な知性・・・10% 4.社会的な実践力・・・20% 5.グローバルな視野・・・5% 6.情報通信技術の活用力・・・10% 7.汎用的な知力・・・20%					
授業の形態	実習				
授業の方法	アクティブラーニング。事前・事後指導は遠隔で行います（Moodleによるオンデマンド方式）。それ以外は各自が受講する館園の指示にしてください。				
授業の目的	これまでの博物館に関する科目で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念と設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると共に、博物館資料の取り扱いや教育普及活動、来館者対応等における実務の一端を担うことによって、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、博物館で働く心構えを涵養することを目的とします。また、館園実習を体験しての反省・自己評価等レポートを課し、担当教員が添削をして学生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を実施します。				
学修目標	<p>【A水準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 館園実習で学芸員の日常を学び、より実践的な能力が身につき、学芸業務全般について説明できる。 2. 館園実習で博物館全般の業務を学び、博物館活動について説明できる。 3. 館園実習で博物館全般の業務を学び、博物館の存在意義を客観的に説明できる。 <p>【C水準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 館園実習で学芸員の日常を学び、より実践的な能力が身につき、学芸業務全般についておおむね説明できる。 2. 館園実習で博物館全般の業務を学び、博物館活動についておおむね説明できる。 3. 館園実習で博物館全般の業務を学び、博物館の存在意義をおおむね説明できる。 				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理・運営に関する実習 2. 施設・設備に関する実習 3. 資料調査に関する実習 4. 資料の収集・保管に関する実習 5. 展示に関する実習 6. 教育普及活動に関する実習 				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		学内での事前指導	館園実習に臨む心構えや諸注意、学芸員の守秘義務等を伝達します。（遠隔指導）		
2		実習館園でのオリエンテーション	実習のねらい、日程説明、館の概要説明（使命、経営方針、機能、役割等）		
3		管理運営に関する実習	障害者、高齢者を含む利用者への対応、ミュージアム・ショップ、危機管理等の業務の体験・補助活動		
4		施設・設備に関する実習	施設・設備の見学と課題の検討（利用者動線、バックヤード、空調、セキュリティー、バリアフリー等）		
5		資料調査に関する実習	資料の現地調査等の補助、資料撮影等		
6		資料収集に関する実習	資料の収集、運搬等の補助		
7		資料整理・保管に関する実習	収蔵庫の配架方法、セキュリティー対策等の見学・学習		
8		資料保存に関する実習	素材ごとの収蔵方法、IPM対策を含む収蔵庫管理等		
9		資料の取扱いに関する実習	資料の取扱、資料点検と計測、調書作成、梱包と輸送、データ入力等		
10		資料の展示に関する実習	展示計画の作成、展示資料の選定、パネル・キャプション類の作成、ライティング等の実務、模擬展示		
11		展示教育・鑑賞教育に関する実習	展示手法の学習、展示解説の実務等		
12		教育普及活動に関する実習	幼時から小中学生の受入・創作活動、大人向けの造形講座等の業務の体験・補助		
13		広報活動に関する実習	ホームページ管理、クレームを含む問合せ対応、プレリリース作成、展覧会利用者の出口調査等の業務の体験・補助		
14		実習館園での反省会	学芸員等スタッフを交えた意見交換会を行いません。		
15		学内での事後指導	最終レポートの内容を精査したうえで、添付写真や図版等の権利関係保護を徹底指導します。最終レポートに記述してもらった質問や意見等に対してはメールで回答し、個別指導を行います。また必要に応じて、個人情報の保護を行ったうえで、それらをMoodleにアップし、情報の共有化を図ります。（遠隔指導）		
授業外学修時間の目安	本科目は、1単位の実習科目であり、全体で45時間分の学修が必要な内容で構成されています。授業では2h×15コマ＝30時間の学修を行うため、残り15時間の学修については、以下に応じて各自で学修を行ってください。【課題：各回1時間相当、最終レポート：5時間相当】				
テキスト	事前及び事後指導時の配布資料、並びに実習館園から配布される資料。				
参考文献	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』（芙蓉書房）				
履修条件	前年度に配布した「博物館実習Ⅲ 希望実習館調査書」の未提出者は、受講できない場合があります。また基本的には、生涯学習概論、博物館概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館実習Ⅰ及びⅡの単位を修得し、博物館教育論、博物館情報・メディア論を今年度履修中の者（既修得者を含む）とします。				
評価方法・基準	評価方法及び基準：実習ノート及び実習館園での評価50%、実習後の最終レポート50%として評価します。 評価基準：館園実習における実習態度、実務効果、課題学習				

教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト
実務経験を 活かした授業	該当(地方公共団体の博物館学芸員としての実務経験を持つ教員が、学芸員資格取得に必要な「法定科目」を担当します。)

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LIN3-012-99-0	2025前期	文学部(13000)	3	2	金曜3限
科目名(講義題目)			担当教員		
社会調査実習Ⅰ(社会調査の企画・実践(1))			多田 光宏		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養・・・10% 2.確かな専門性・・・20% 3.創造的な知性・・・15% 4.社会的な実践力・・・15% 5.グローバルな視野・・・10% 6.情報通信技術の活用力・・・10% 7.汎用的な知力・・・20%					
授業の形態	実習				
授業の方法	対面授業、グループ学習、フィールドワーク等				
授業の目的	調査の企画や実査、報告書作成に関する理論的な知識だけではなく実践知を習得すること。				
学修目標	<p>【A水準】 社会調査(調査の企画や実査、報告書作成など)を行うために必要な理論的・実践的な知識・技能を習得し、諸データの高度かつ応用的な分析を展開すること。</p> <p>【C水準】 社会調査(調査の企画や実査、報告書作成など)を行うために必要な理論的・実践的な知識・技能を習得し、諸データの十分な分析を展開すること。</p>				
授業の概要	2年次までに学習した社会調査についての知識をふまえ、実際に調査の企画や実査、報告書作成を経験し、これらに関する理論的な知識だけではなく実践知を習得します。本年度のテーマは、若年層の生活状況や各種意識に関連する調査研究を予定。インタビュー調査および／もしくはアンケート調査、またドキュメント分析などを通じて、その経験や実態などを探ります。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		ガイダンスと導入	ガイダンスと調査テーマの確定を行います。		
2		基礎知識の収集	調査対象について基礎知識を収集します。		
3		基礎知識の収集	調査対象について基礎知識を収集します。		
4		基礎知識の収集	調査対象について基礎知識を収集します。		
5		先行研究の検討	調査対象について基礎知識を収集します。		
6		先行研究の検討	調査対象について基礎知識を収集します。		
7		調査の企画・準備	調査を企画する。実査の準備をします。		
8		調査の企画・準備	調査を企画します。実査の準備をします。		
9		調査の企画・準備	調査を企画します。実査の準備をします。		
10		実査(インタビュー・アンケートなど)の実施	実査(インタビュー・アンケートなど)を実施します。		
11		実査(インタビュー・アンケートなど)の実施	実査(インタビュー・アンケートなど)を実施します。		
12		実査(インタビュー・アンケートなど)の実施	実査(インタビュー・アンケートなど)を実施します。		
13		実査(インタビュー・アンケートなど)の実施	実査(インタビュー・アンケートなど)を実施します。		
14		実査(インタビュー・アンケートなど)の実施	実査(インタビュー・アンケートなど)を実施します。		
15		実査(インタビュー・アンケートなど)の実施	実査(インタビュー・アンケートなど)を実施します。		
授業外学修時間の目安	本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されています。授業は30時間分(2h×15コマ)となるため、60時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となります。				
テキスト	授業時に適宜指示します。				
参考文献	授業時に適宜指示します。				
履修条件	この授業は「社会調査実習Ⅱ」(後期:多田担当)と一統きの授業ですので、どちらか一つだけを受講することはできません。また、本実習は社会人間学コースの科目(おもに3年生対象)ですが、他コース・他学科等の学生も若干名の受け入れが可能です。				
評価方法・基準	授業への取り組み(30%)、調査への貢献(40%)、調査報告(30%)に基づいて、上記知識・技能をどこまで習得できたのかを評価します。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LIN3-012-99-0	2025後期	文学部(13050)	3	2	金曜3限
科目名(講義題目)			担当教員		
社会調査実習Ⅱ(社会調査の企画・実践(2))			多田 光宏		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養・・・10% 2.確かな専門性・・・20% 3.創造的な知性・・・15% 4.社会的な実践力・・・15% 5.グローバルな視野・・・10% 6.情報通信技術の活用力・・・10% 7.汎用的な知力・・・20%					
授業の形態	実習				
授業の方法	対面授業、グループ学習、フィールドワーク				

授業の目的	調査の企画や実査、報告書作成に関する理論的な知識だけではなく実践知を習得すること。		
学修目標	<p>【A水準】 社会調査（調査の企画や実査、報告書作成など）を行うために必要な理論的・実践的な知識・技能を習得し、諸データの高度かつ応用的な分析を展開すること。</p> <p>【C水準】 社会調査（調査の企画や実査、報告書作成など）を行うために必要な理論的・実践的な知識・技能を習得し、諸データの十分な分析を展開すること。</p>		
授業の概要	2年次までに学習した社会調査についての知識をふまえ、実際に調査の企画や実査、報告書作成を経験し、これらに関する理論的な知識だけではなく実践知を習得します。本年度のテーマは、若年層の生活状況や各種意識に関連する調査研究を予定。インタビュー調査および／もしくはアンケート調査、またドキュメント分析などを通じて、その経験や実態などを探ります。		
各回の授業内容			
回	月日	授業テーマ	内容概略
1		データの整理	実査で得られた資料をデータ化します。
2		データの整理	実査で得られた資料をデータ化します。
3		データの整理	実査で得られた資料をデータ化します。
4		データの分析	データを分析し、その結果を検討します。
5		データの分析	データを分析し、その結果を検討します。
6		データの分析	データを分析し、その結果を検討します。
7		データの分析	データを分析し、その結果を検討します。
8		データの分析	データを分析し、その結果を検討します。
9		データの分析	データを分析し、その結果を検討します。
10		報告書の作成	分析結果に基づいて、報告書を作成します。
11		報告書の作成	分析結果に基づいて、報告書を作成します。
12		報告書の作成	分析結果に基づいて、報告書を作成します。
13		報告書の作成	分析結果に基づいて、報告書を作成します。
14		報告書の作成	分析結果に基づいて、報告書を作成します。
15		報告書の作成	分析結果に基づいて、報告書を作成します。
授業外学修時間の目安	本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されています。授業は30時間分（2h×15コマ）となるため、60時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、授業の理解を深めるために必要となります。		
テキスト	授業時に適宜指示します。		
参考文献	授業時に適宜指示します。		
履修条件	この授業は「社会調査実習Ⅱ」（後期：多田担当）と一続きの授業ですので、どちらか一つだけを受講することはできません。また、本実習は社会人間学コースの科目（おもに3年生対象）ですが、他コース・他学科等の学生も若干名の受け入れが可能です。		
評価方法・基準	授業への取り組み（30%）、調査への貢献（40%）、調査報告（30%）に基づいて、上記知識・技能をどこまで習得できたのかを評価します。		
使用言語	「日本語」による授業		
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト		
実務経験を活かした授業	非該当		

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LIN3-013-27-0	2025前期	文学部(14700)	3	2	月曜3限
科目名(講義題目)			担当教員		
社会調査実習A1(地域社会調査の実際Ⅰ)			牧野 厚史		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養・・・10% 2.確かな専門性・・・20% 3.創造的な知性・・・10% 4.社会的な実践力・・・10% 5.グローバルな視野・・・10% 6.情報通信技術の活用能力・・・30% 7.汎用的な知力・・・10%					
授業の形態	実習				
授業の方法	講義と実習、討論によって授業を進めます。例年は9月頃にフィールドでの調査をしています。				
授業の目的	地域社会調査の基本的手法や全体的な過程を実際の作業を通して学びます。また、社会調査データ処理のための基礎的な手法についても習得します。				
学修目標	<p>【A水準】 卒業論文作成や実務で必要となる調査を自分で設計し、データを自分で整理できる力を身につけるところまでを目標とします。</p> <p>【C水準】 現地調査への参加および、調査に必要な課題を提出することです。調査実習はグループ活動が重要なので現地調査への参加は必須です。</p>				
授業の概要	調査計画の立案から、フィールドワーク、データの整理・分析、報告書作成までの社会調査の一連のプロセスを学習します。現地での実習にはかならず参加するようにしてください。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		

1		イントロダクション	社会調査の概要説明（調査地、方法等）
2		社会調査の流れの概要（1）	社会調査の「はじまり」から「終り」までの全プロセスの解説
3		社会調査の流れの概要（2）	社会調査の「はじまり」から「終り」までの全プロセスの解説
4		文献調査の実施（1）	調査に必要な文献の解読と問題意識の明確化（1）
5		文献調査の実施（2）	調査に必要な文献の解読と問題意識の明確化（2）
6		既存統計の使い方	既存の統計資料の集め方・読み方
7		調査計画の立案（1）	既存の調査報告書の検討と改善点の洗い出し
8		調査計画にの立案（2）	調査手法（質的調査、量的調査等）の検討
9		調査の準備（1）	基本仮説の検討と設定（1）
10		調査の準備（2）	基本仮説の検討と設定（2）
11		調査の準備（3）	基本仮説の検討と設定（3）
12		調査票の作成（1）	フェースシートの作成
13		調査票の作成（2）	設問の検討とワーディング
14		調査票の作成（3）	プリテストとワーディングの修正
15		調査票の完成	調査票の最終チェックと印刷
授業外学修時間の目安		本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分（2h×15コマ）となるため、60時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、授業の理解を深めるために必要となる。	
テキスト		授業で指示します。	
参考文献		安田三郎『社会調査ハンドブック』（有斐閣）、大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、鳥越皓之・金子勇『現場から創る社会学理論』ミネルヴァ書房。	
履修条件		社会調査実習A1・A2は併せて受講すること。さらに、社会調査法概説等の社会調査関連科目を併せて受講することが望まれます。	
評価方法・基準		授業での課題への達成度によって評価します。調査の報告書の作成過程への貢献（50%）とその内容（50%）。	
使用言語		「日本語」による授業（日本語）	
教科書・資料の言語		「日本語」のテキスト（日本語）	
実務経験を活かした授業		非該当	

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LIN3-013-27-0	2025後期	文学部(14705)	3	2	月曜3限
科目名(講義題目)			担当教員		
社会調査実習A2(地域社会調査の実際Ⅱ)			牧野 厚史		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養・・・10% 2.確かな専門性・・・40% 3.創造的な知性・・・10% 4.社会的な実践力・・・10% 6.情報通信技術の活用能力・・・20% 7.汎用的な知力・・・10%					
授業の形態	実習				
授業の方法	実習と講義、討論によって授業を進めます。地域に出て、補足調査、又は、エクスカージョンを行うことがあります。				
授業の目的	地域社会調査の基本的手法や全体的な過程を実際の作業を通して学びます。また、社会調査データ処理のための基礎的な方法についても習得します。				
学修目標	【A水準】 卒業論文作成や実務で必要となる調査を自分で設計し、データを自分で整理できる力を身につけるところまでを目標とします。 【C水準】 現地調査への参加および、調査に必要な課題を提出することです。調査実習はグループ活動が重要なので調査報告書の提出は必須です。				
授業の概要	調査計画の立案や調査票の作成から、フィールドワーク、データの整理・分析、報告書作成までの社会調査の一連のプロセスを学習します。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		イントロダクション	調査データ整理から報告書作成までの流れの説明。		
2		集計の方法（1）	データ整理に必要な調査結果の集計の仕方。		
3		集計の方法（2）	コーディング等の方法の解説と作業着手。		
4		集計の方法（3）	調査データの入力を行います。併せて図、表のつくりかたを学びます。		
5		集計の方法（4）	調査データの入力を行います。併せて図、表のつくりかたを学びます。		
6		報告書の項目設定	報告書の項目を設定し、執筆分担を決めます。		
7		調査データの分析方法（1）	調査データの分析手法を学びます。		

8		調査データの分析方法（2）	調査データの分析手法を学びます。
9		調査データの分析方法（3）	調査データの分析手法を学びます。
10		調査データの分析（1）	執筆分担ごとに分析結果をもちより討論します。
11		調査データの分析（2）	執筆分担ごとに分析結果をもちより討論します。
12		報告書の執筆（1）	分析結果をそれぞれ報告書のかたちにしあげます。
13		報告書の執筆（2）	分析結果をそれぞれ報告書のかたちにしあげます。
14		報告書のまとめ	報告書全体の最終調整を行います。
15		調査結果の報告	調査結果を報告し、討論を行います。
授業外学修時間の目安		本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分（2h×15コマ）となるため、60時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、授業の理解を深めるために必要となる。	
テキスト		授業で指示します。	
参考文献		安田三郎『社会調査ハンドブック』（有斐閣）、大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、鳥越皓之・金子勇『現場から創る社会学理論』ミネルヴァ書房。	
履修条件		社会調査実習A1・A2は併せて受講すること。さらに、社会調査法概説等の社会調査関連科目を併せて受講することが望まれます。	
評価方法・基準		授業での課題への達成度によって評価します。調査の報告書の作成過程への貢献（50％）とその内容（50％）。	
使用言語		「日本語」による授業	
教科書・資料の言語		「日本語」のテキスト	
実務経験を活かした授業		非該当	

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LIN3-013-27-0	2025前期	文学部(14750)	3	2	水曜2限
科目名(講義題目)			担当教員		
社会調査実習B1(民俗学調査実習Ⅰ)			及川高, 山下裕作		
学修成果とその割合					
2.確かな専門性……50% 4.社会的な実践力……30% 7.汎用的な知力……20%					
授業の形態		演習			
授業の方法		対面形式で実施する			
授業の目的		現地調査実習の実施に向け、フィールドワークの意義・目的、事前準備、事前学習、心構えなどの習熟を目的とする。			
学修目標		【A水準】 民俗調査の手法を理解し、現地調査を開始する十分な準備ができている 【C水準】 民俗調査の意義が理解できている			
授業の概要		現地調査実習でおこなうフィールドワークのため、その基礎となる能力を身につける。フィールドワークの考え方、倫理、方法、技術、および現地の民俗誌の輪読などの事前学習を行う			
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		ガイダンス	この演習の目的、進め方、スケジュールについて解説する		
2		民俗調査とは何か／なぜ民俗調査が必要か	民俗調査の意義、目的、方法および社会実践との結びつきについて議論する。		
3		民俗調査の方法	民俗調査の方法について、具体的に実践する		
4		民俗調査の方法	民俗調査の方法について、具体的に実践する		
5		民俗調査の倫理	民俗調査に係る調査地被害の問題について理解を深める		
6		民俗誌を書いてみる	各自が執筆した民俗誌に基づき、議論を実施する		
7		民俗誌を書いてみる	各自が執筆した民俗誌に基づき、議論を実施する		
8		民俗誌を書いてみる	各自が執筆した民俗誌に基づき、議論を実施する		
9		民俗誌を書いてみる	各自が執筆した民俗誌に基づき、議論を実施する		
10		民俗誌を書いてみる	各自が執筆した民俗誌に基づき、議論を実施する		
11		調査項目の作成	実習に向けた調査項目の作成を行う。共有とブラッシュアップを実施する。		
12		調査項目の作成	実習に向けた調査項目の作成を行う。共有とブラッシュアップを実施する。		
13		調査項目の作成	実習に向けた調査項目の作成を行う。共有とブラッシュアップを実施する。		
14		調査項目の作成	実習に向けた調査項目の作成を行う。共有とブラッシュアップを実施する。		
15		実習ガイダンス	実習の実施に向けたガイダンスを実施する。		
授業外学修時間の目安		時間外に民俗誌の執筆と調査項目の作成を要求する。共に15時間程度のタスクを見込んでいる			

テキスト	特に指定しない
参考文献	特に指定しない
履修条件	民俗学履修モデルの学生に限る
評価方法・基準	演習への参加の積極性から評価する。また特に、自身での身近なフィールドでの調査経験を積むことを推奨する。
使用言語	「日本語」による授業
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト
実務経験を活かした授業	該当(自治体誌編纂やアウトリーチ活動など、現地調査を踏まえた社会实践の実務経験に基づいた演習を行う)

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LIN3-013-27-0	2025後期	文学部(14755)	3	2	水曜3限
科目名(講義題目)			担当教員		
社会調査実習B2(民俗学調査実習Ⅱ)			及川 高, 山下 裕作		
学修成果とその割合					
2.確かな専門性・・・50% 4.社会的な実践力・・・30% 7.汎用的な知力・・・20%					
授業の形態	演習				
授業の方法	対面形式で実施する				
授業の目的	現地調査実習の成果を踏まえ、民俗誌叙述による報告書の作成を行う。報告書の構成を検討したうえで、分担して執筆を行なう				
学修目標	【A水準】 民俗調査報告書として十分な内容の民俗誌を書きあげる 【C水準】 民俗誌に準じるものを提出する				
授業の概要	現地調査実習を経て、そこで得た情報を民俗誌としてまとめる演習を行う。具体的に原稿を執筆したうえで相互批評を行ない、記録性と社会实践を兼ね備えた民俗誌叙述を摸索する				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		実習の振り返り	実習のフィードバックを行ない、報告書の方向性について検討する		
2		報告書の構成と目次	民俗調査報告書の目次構成について議論する		
3		報告書の構成と目次	民俗調査報告書の目次構成について議論する		
4		報告書初稿報告	各自が執筆した民俗誌を共有し、相互批評を実施する		
5		報告書初稿報告	各自が執筆した民俗誌を共有し、相互批評を実施する		
6		報告書初稿報告	各自が執筆した民俗誌を共有し、相互批評を実施する		
7		報告書二稿報告	各自が執筆した民俗誌を共有し、相互批評を実施する		
8		報告書二稿報告	各自が執筆した民俗誌を共有し、相互批評を実施する		
9		報告書二稿報告	各自が執筆した民俗誌を共有し、相互批評を実施する		
10		報告書校正	報告書を完成校とし、それに基づいた現地報告会の方向性について議論する		
11		アウトリーチの考え方	現地報告会の方向性について議論する		
12		アウトリーチの考え方	現地報告会の方向性について議論する		
13		アウトリーチの考え方	現地報告会の方向性について議論する		
14		アウトリーチの考え方	現地報告会の方向性について議論する		
15		現地報告会ガイダンス	現地報告会の実施についてのガイダンスを行なう		
授業外学修時間の目安	時間外に民俗誌の執筆を要求する。30時間程度のタスクを見込んでいる				
テキスト	特に指定しない				
参考文献	特に指定しない				
履修条件	民俗学履修モデルの学生に限る				
評価方法・基準	演習への参加の積極性から評価する。また特に、自身での身近なフィールドでの調査経験を積むことを推奨する。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト				
実務経験を活かした授業	該当(自治体誌編纂やアウトリーチ活動など、現地調査を踏まえた社会实践の実務経験に基づいた演習を行う)				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LIN2-012-99-0	2025前期	文学部(12900)	2	2	木曜4限
科目名(講義題目)			担当教員		
社会調査法概説(社会調査の基礎)			シンジルト, 山下 裕作, 中川 輝彦, 牧野 厚史, 多田 光宏, 田中 朋弘		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養……15% 2.確かな専門性……60% 4.社会的な実践力……15% 7.汎用的な知力……10%					
授業の形態	講義				
授業の方法	対面形式の授業				
授業の目的	社会調査がなぜ、そしてどのように重要なかを理解し、社会調査の種類について基礎的な知識を得ること				
学修目標	<p>【A水準】 社会学や倫理学、人類学、民俗学などの学問分野において、社会調査がなぜ、そしてどのように重要なかを理解し、社会調査の種類について基礎的な知識を得ることを目標とします。</p> <p>【C水準】 社会学や倫理学、人類学、民俗学などの学問分野において、どのような調査手法があるかを把握することです。</p>				
授業の概要	社会調査がなぜ、そしてどのように重要なかを理解し、社会調査の種類について基礎的な知識を得ることを目標に、社会学・人類学・民俗学・倫理学などの学問分野の教員が、オムニバス形式で講義をおこないます。また、社会調査士資格の取得を目指す学生にとって必修の科目でもあります。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		イントロダクション：社会調査の目的と意義	イントロダクション：社会調査の目的と意義		
2		社会調査の歴史	これまでの社会調査の歴史		
3		調査の種類と実例：国勢調査と官庁統計・世論調査・市場調査・学術調査	調査の種類と実例：国勢調査と官庁統計・世論調査・市場調査・学術調査		
4		量的調査とはどのようなものか	量的調査とはどのようなものか		
5		質的調査とはどのようなものか	質的調査とはどのようなものか		
6		調査の倫理	調査の倫理とはどのようなものか		
7		社会学における統計的調査の実例	社会学における統計的調査の実例		
8		社会学における事例研究法の実例	社会学における事例研究法の実例		
9		倫理学における量的調査の実例	倫理学における量的調査の実例		
10		倫理学における質的調査の実例	倫理学における質的調査の実例		
11		人類学におけるフィールドワークの実例（1）	人類学におけるフィールドワークの実例（1）		
12		人類学におけるフィールドワークの実例（2）	人類学におけるフィールドワークの実例（2）		
13		民俗学におけるフィールドワークの実例（1）	民俗学におけるフィールドワークの実例（1）		
14		民俗学におけるフィールドワークの実例（2）	民俗学におけるフィールドワークの実例（2）		
15		まとめ（試験に関係する事柄ふくむ）	まとめ（試験に関係する事柄ふくむ）		
授業外学修時間の目安	本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分（2h×15コマ）となるため、60時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特に指定しません。				
参考文献	大谷信介ほか、2013、『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房、ほか。				
履修条件	特になし				
評価方法・基準	学期末のテスト（100%） 授業内容の理解度を中心に評価します。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト				
実務経験を 活かした授業	非該当				

病院実習に関する誓約書

令和 年 月 日

熊本大学病院長 殿

住所

大学（学院）長

氏名

熊本大学病院での臨床・臨地実習時に、下記について遵守し、また、学生への指導を行なうことを誓約いたします。

万が一、故意または過失により貴院へ損害をおよぼした場合は、当大学（学院）が一切の責任を負います。

記

1. 熊本大学病院の諸規定を遵守し、職員の指示に従います。
2. 熊本大学病院の理念、方針等を理解し、それに従い実習いたします。
3. 熊本大学病院の感染対策について理解し、遵守いたします。
4. 実習中は、患者・利用者に対する安全の義務を遵守いたします。また、事故等発生時は速やかに職員に報告し、指示に従います。
5. 実習中は、実習生の健康状態を適正に把握できるよう記録を行い、実習の実施が困難である、又は、熊本大学病院における医療安全上、危険を及ぼすような状態でないことを確認した上で、実習を行わせませす。
6. 個人情報の取扱いについては、以下の事項を遵守いたします。
 - (1) 臨床・臨地実習において症例レポート、経過記録、デイリーノート、実習ノート等に患者様の個人情報を記入することとなりますが、その記入方法につきましては、患者様が特定されないよう十分に配慮を行ないます。
 - (2) 症例レポート等は、当大学（学院）作成の「個人情報保護ガイドライン」をもとに作成しますが、熊本大学病院の方針を優先します。

- (3) 実習中に知り得た個人情報に関しましては、実習中はもちろんのこと、実習が終了しても情報を漏洩致しません。
- (4) 実習終了後に学内で症例研究報告会を実施する場合、患者様が特定されないように配慮し、症例研究報告会等の終了後に資料の処分を行ないます。
- (5) 実習で使用するソフトウェアについては、これを適正に使用し、違法コピー等の不正な行為はいたしません。
- (6) 私物PCを持ち込む場合、及び個人情報保存のためにUSBメモリ等の外部記録媒体を使用する場合は、貴施設所属長等の許可を得ます。また、外部記録媒体を使用する場合は、強制暗号化機能付の物を用いるか、あるいは、暗号化・匿名化致します。

実習中の行動記録シート

診療科：

氏名：

学校名：

携帯電話番号：

実習終了時に提出すること → 提出先：〇〇専門学校学務課 など

日付/曜日	() 外来	() 階病棟	その他
/	午前	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
	午後	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
/	午前	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
	午後	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
/	午前	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
	午後	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
/	午前	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
	午後	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
/	午前	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
	午後	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
/	午前	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室
	午後	<input type="checkbox"/> () 番診察室 <input type="checkbox"/> 処置室	<input type="checkbox"/> 病室 () 号室 <input type="checkbox"/> 処置室 <input type="checkbox"/> 医師室

※体調不良の場合、実習には参加しない。

感染が広がる時は「これくらいならいいか」と思って就業・登校する時です！ 自己管理、自己申告がとても大切なので、ルールを厳密に守った実習を心がけてください。

【常に実施するべき感染対策】

- 施設内では常に不織布マスクを着用する。(実習中の布マスク、ウレタンマスク禁止)
- 食事の際は、密にならない、対面で食事をしない、食後はすみやかにマスクを着用する、換気を行う。
- 手指衛生5つのタイミングでこまめな手指消毒の実施を徹底する。

- ①患者に触れる前
 - ②清潔/無菌操作の前
 - ③体液に曝露された可能性がある場合
 - ④患者に触れた後
 - ⑤患者周辺の環境に触れた後
- WHO 手指衛生ガイドライン より

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LLX0-000-41-0	2025通年	文学部(99220)	4	2	他
科目名(講義題目)			担当教員		
心理実習(心理実習)			寺本 渉, 西川 里織, 藤中 隆久, 高崎 文子, 高岸 幸弘, 本吉 大介, 安村 明, 黒山 竜太, 中武 章子		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養 ……5% 2.確かな専門性 ……35% 3.創造的な知性 ……10% 4.社会的な実践力 ……35% 6.情報通信技術の活用力 ……5% 7.汎用的な知力 ……10%					
授業の形態	実習				
授業の方法	医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野のうち複数の心理臨床現場に赴き実習を行う。現場実習の事前事後学習として対面による講義を行う。				
授業の目的	心理臨床現場の実際を知り、心理臨床の基本的姿勢と技法を習得し、心理臨床実践家として役立つことができるようにする。				
学修目標	【A水準】 心理支援を必要とする対象者の現状を理解し、多職種連携による支援の必要性を認識した上で、心理臨床現場で活動する力を身につけている。また、職業倫理、法令順守の意識を十分に備えている。 【C水準】 心理支援を必要とする対象者の現状を理解し、多職種連携による支援の必要性を認識した上で、心理臨床現場で活動する力を最低限度身につけている。また、職業倫理、法令順守の意識を十分に備えている。				
授業の概要	この科目は、公認心理師資格を取得するための必須である心理実習（80時間）を実施するものである。本実習では、心理学、特に臨床心理学、発達心理学が活用されている施設で行う実習を通して、心理職の業務内容と役割と義務等についての学びを深める。実習施設は、医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働領域から複数の現場での実習を予定している。受講生は実習前に行う事前学習と準備を4時間、施設実習合計72時間、事後学習と発表等を4時間を行うことで本授業「心理実習」時間計80時間となる。実習する施設、実習期間、実習内容は、受講生と施設の都合を考慮して蹴ってしていく。実習中は施設の指導者および担当教員の巡回指導を受けながら学ぶ。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の心理臨床現場での実習	医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野のうち複数の心理臨床現場に赴き実習を行う。事前事後学習では、各領域の業務内容、公認心理師の役割と義務について学ぶ。		
授業外学修時間の目安	本科目は、通年開講の2単位科目であるため、全体で180時間分の学修が必要な内容で構成されている。事前事後学習および実習以外の100時間は各自自修を行うこと。				
テキスト	テキストは使用しない。事前事後学習時には資料を配布する。				
参考文献	厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html を参照				
履修条件	公認心理師受験資格に必要な科目のうち、3年時までに関講されているものを全て単位取得済みである（または履修しており単位取得を目指している）こと。				
評価方法・基準	実習先施設からの評価60%、事前事後学習および巡回指導による評価40%の合計100%で評価する。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト				
実務経験を活かした授業	該当（実習先の心理臨床現場で、その職場で勤務している公認心理師が現場の実際や経験などを講義する。）				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LLX0-000-41-0	2025通年	文学部(99210)	4	2	金曜6限
科目名(講義題目)			担当教員		
心理演習(心理演習)			高岸 幸弘, 藤中 隆久, 黒山 竜太, 中武 章子		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養……5% 2.確かな専門性……40% 3.創造的な知性……10% 4.社会的な実践力……30% 6.情報通信技術の活用力……10% 7.汎用的な知力……5%					
授業の形態	演習				
授業の方法	本授業は論文講読、プレゼンテーション、ロールプレイング、事例検討といった方法で、主にグループ学習を通して支援者としての基本姿勢を身につける。				
授業の目的	本授業は、演習形式の授業を行い、心理学の知識及び技能の基本的な水準の習得を目的としている。				
学修目標	【A水準】 心理学に関する知識を活用し、公認心理師としての知識及び技法の基本的な水準を修得し、支援を要する者に対する基本姿勢が身につく 【C水準】 心理学に関する知識を活用し、公認心理師としての知識及び技法の基本的な水準を修得する				
授業の概要	今授業は公認心理師受験に必要な単位であり、通年開講の15コマの授業回を予定している。人の教員で分担し授業を行う。授業では提示されたテーマ等をもとに、受講生がプレゼンテーションを行い議論をしたり、事例検討を行ったりする。また、心理面接の技能を身につけるために、カウンセリングのロールプレイング等も行う。授業回によっては、授業内容の振り返りとしてリフレクションシートの提出を求めることもある。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		オリエンテーション	授業の構成の説明。支援者としての態度、公認心理師としての総合的な心理支援技量について概説する。		
2		職業倫理と法令順守	公認心理師として働くうえで直面する倫理、法令順守にかかる諸問題を、具体的な事例の議論を通して学ぶ		
3		心理面接とロールプレイング①	医療領域からの事例を通して、ロールプレイングを通して、医療領域で支援を要する者を理解し、さらなるアセスメントや支援計画の作成について学ぶ。		
4		心理面接とロールプレイング②	福祉領域からの事例を通して、ロールプレイングを通して、医療領域で支援を要する者を理解し、さらなるアセスメントや支援計画の作成について学ぶ。		
5		心理面接とロールプレイング③	教育領域からの事例を通して、ロールプレイングを通して、医療領域で支援を要する者を理解し、さらなるアセスメントや支援計画の作成について学ぶ。		
6		心理面接とロールプレイング④	司法・犯罪領域からの事例を通して、ロールプレイングを通して、医療領域で支援を要する者を理解し、さらなるアセスメントや支援計画の作成について学ぶ。		
7		心理面接とロールプレイング⑤	産業・労働領域からの事例を通して、ロールプレイングを通して、医療領域で支援を要する者を理解し、さらなるアセスメントや支援計画の作成について学ぶ。		
8		心理検査とロールプレイング①	知能検査（WAIS, WISC）を検査者役と被験者役に分かれロールプレイを行い、知能検査実施の実際を学び、所見の書き方を修得する。		
9		心理検査とロールプレイング②	ロールシャッハテストを検査者役と被験者役に分かれロールプレイを行い、知能検査実施の実際を学び、所見の書き方を修得する。		
10		事例検討①（プレゼンテーション）	医療領域からの事例に関する論文講読を通して、医療領域で支援を要する者を理解し、さらなるアセスメントや支援計画の作成について学ぶ。		
11		事例検討②（プレゼンテーション）	福祉領域からの事例に関する論文講読を通して、医療領域で支援を要する者を理解し、さらなるアセスメントや支援計画の作成について学ぶ。		
12		事例検討③（プレゼンテーション）	教育領域からの事例に関する論文講読を通して、医療領域で支援を要する者を理解し、さらなるアセスメントや支援計画の作成について学ぶ。		
13		事例検討④（プレゼンテーション）	司法・犯罪領域からの事例に関する論文講読を通して、医療領域で支援を要する者を理解し、さらなるアセスメントや支援計画の作成について学ぶ。		
14		事例検討⑤（プレゼンテーション）	産業・福祉領域からの事例に関する論文講読を通して、医療領域で支援を要する者を理解し、さらなるアセスメントや支援計画の作成について学ぶ。		
15		多職種連携と地域支援	支援を要する者に必要とされるチームアプローチの理解と多職種連携の理解を深めるために、事例を用いて議論する。		
授業外学修時間の目安	本科目は、通年開講の2単位科目であるため、全体で180時間分の学修が必要な内容で構成されている。授業では、2h×30コマ=60時間の学修を行うため、残り120時間の学修については、各自学修を行うこと。				
テキスト	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。				
参考文献	高岸幸弘・黒山竜太（編・著）（2022）支援のための心理学：エビデンスに基づく援助活動の実際 北樹出版				
履修条件	公認心理師受験資格に必要な科目のうち、3年時までに関講されているものを全て単位取得済みである（または履修しており単位取得を目指している）こと。				
評価方法・基準	授業内で課されるプレゼンテーションやロールプレイングのコミットメントや議論、発言内容、リフレクションシー				

評価方法・基準	トの内容を踏まえて評価する。
教科書・資料の言語	「日本語と英語を併用した」テキスト
実務経験を 活かした授業	該当 (児童福祉現場で経験のある教員が、その経験を活かして、特許制度の基本的な知識と手法、特許を用いた研究成果の保護・活用の考え方について講義する。)

○国立大学法人熊本大学職員就業規則

(平成 16 年 4 月 1 日規則第 24 号)

改正 平成 17 年 1 月 14 日規則第 8 号	平成 17 年 3 月 24 日規則第 64 号	平成 17 年 11 月 24 日規則第 127 号
平成 18 年 3 月 23 日規則第 75 号	平成 19 年 3 月 26 日規則第 85 号	平成 20 年 3 月 6 日規則第 52 号
平成 20 年 3 月 28 日規則第 103 号	平成 20 年 9 月 29 日規則第 241 号	平成 20 年 12 月 3 日規則第 264 号
平成 21 年 1 月 28 日規則第 3 号	平成 21 年 3 月 27 日規則第 128 号	平成 22 年 3 月 30 日規則第 46 号
平成 23 年 3 月 24 日規則第 41 号	平成 26 年 3 月 27 日規則第 25 号	平成 27 年 9 月 24 日規則第 266 号
平成 28 年 4 月 28 日規則第 302 号	平成 28 年 12 月 22 日規則第 455 号	平成 29 年 6 月 22 日規則第 195 号
平成 29 年 9 月 28 日規則第 220 号	平成 29 年 10 月 26 日規則第 229 号	平成 30 年 3 月 22 日規則第 55 号
平成 31 年 3 月 28 日規則第 63 号	令和元年 12 月 26 日規則第 404 号	令和 3 年 3 月 24 日規則第 55 号
令和 4 年 3 月 24 日規則第 36 号	令和 5 年 3 月 23 日規則第 101 号	令和 6 年 3 月 28 日規則第 162 号
令和 7 年 3 月 27 日規則第 51 号		

目次

第 1 章 総則(第 1 条—第 6 条)

第 2 章 人事

第 1 節 採用(第 7 条—第 9 条)

第 2 節 昇任及び降任(第 10 条—第 11 条の 7)

第 3 節 配置換等(第 12 条・第 13 条)

第 4 節 休職(第 14 条—第 18 条)

第 5 節 退職及び解雇等(第 19 条—第 27 条)

第 3 章 給与(第 28 条)

第 4 章 退職手当(第 29 条)

第 5 章 服務(第 30 条—第 37 条)

第 6 章 勤務時間、休日及び休暇、育児休業等

第 1 節 勤務時間等(第 38 条—第 44 条)

第 2 節 休日及び休暇(第 45 条—第 49 条)

第 3 節 育児休業等(第 50 条—第 52 条の 2)

第 7 章 研修(第 53 条)

第 8 章 人事評価(第 53 条の 2)

第 9 章 表彰及び懲戒

第 1 節 表彰(第 54 条)

第 2 節 懲戒等(第 55 条—第 58 条)

第 10 章 安全衛生(第 59 条・第 60 条)

第 11 章 出張及び旅費(第 61 条)

第 12 章 共済(第 62 条)

第 13 章 保険及び災害補償(第 63 条・第 64 条)

- 第 14 章 知的財産権(第 65 条)
- 第 15 章 苦情処理(第 66 条)
- 第 16 章 その他(第 67 条・第 68 条)
- 附則

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規則は、労働基準法(昭和 22 年法律第 49 号。以下「労基法」という。)第 89 条の規定に基づき、国立大学法人熊本大学(以下「本学」という。)に勤務する職員の就業に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(職員の区分及び職種等)

第 2 条 本学の職員の区分は、次に掲げるものとし、その職種又は職名は、当該各号に掲げるとおりとする。

(1) 教育職員

教授、准教授、講師、助教、助手、校長、園長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭

(2) 一般職員

事務職員、技術職員、図書職員、研究支援職員、教務職員、技能職員、労務職員

(3) 医療職員

病院長、医療技術職員、看護職員

(4) 有期雇用職員

事務補佐員、技術補佐員、技能補佐員、非常勤支援員、臨時用務員、非常勤教員、非常勤研究員、ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタント、医員、医員(研修医)、学校医、学校歯科医、学校薬剤師

(5) 無期転換職員

事務補佐員、技術補佐員、技能補佐員、非常勤支援員、臨時用務員、非常勤教員、非常勤研究員、ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタント、医員、医員(研修医)、学校医、学校歯科医、学校薬剤師

(6) 再雇用職員

一般再雇用職員、定年前再雇用短時間勤務職員、有期再雇用職員

(7) 個別契約職員

寄附講座教員、その他の個別契約職員

(適用範囲)

第 3 条 この規則は、前条第 1 号から第 3 号までの職員に適用する。

2 前条第 4 号及び第 5 号の職員並びに前条第 6 号の有期再雇用職員の就業等に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学有期雇用職員就業規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

3 前条第 6 号の一般再雇用職員及び定年前再雇用短時間勤務職員の就業等に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学再雇用職員就業規則(平成 19 年 4 月 1 日制定)による。

4 前条第 7 号の職員へのこの規則の適用条項の範囲については、個別の契約書によって定める。
(権限の委任)

第 4 条 国立大学法人熊本大学の長(以下「学長」という。)は、この規則に規定する権限の一部を学長が指定する者に委任することができる。

(法令との関係)

第 5 条 この規則に定めのない事項については、労基法その他の関係法令の定めるところによる。

(遵守遂行)

第 6 条 本学及び職員(第 2 条第 1 号から第 3 号までの職員をいう。以下同じ。)は、それぞれの立場でこの規則を誠実に遵守し、その遂行に努めなければならない。

第 2 章 人事

第 1 節 採用

(採用)

第 7 条 職員の採用は、選考による。

2 職員の採用の際の選考に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学職員雇用規則(平成 16 年 4 月 1 日制定。以下「職員雇用規則」という。)による。

(無期労働契約への転換)

第 7 条の 2 職員雇用規則第 7 条及び第 8 条の規定により任期を定めて採用された職員のうち、平成 25 年 4 月 1 日以後に締結された 2 以上の有期労働契約(契約期間の始期の到来前のものを除く。以下同じ。)の契約期間を通算した期間(労働契約法(平成 19 年法律第 128 号)第 18 条第 2 項、科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律(平成 20 年法律第 63 号)第 15 条の 2 第 2 項及び大学の教員等の任期に関する法律(平成 9 年法律第 82 号)第 7 条第 2 項の規定により労働契約法第 18 条第 1 項に規定する通算契約期間に算入しないこととされている期間を除く。)が 5 年(教授、准教授、講師、助教及び助手にあつては 10 年)を超えるものが、現に締結している有期労働契約期間の満了する日の 30 日前までに、当該満了する日の翌日から期間の定めのない労働契約(以下「無期労働契約」という。)の締結の申込みをした場合は、現に締結している有期労働契約期間の満了する日の翌日から無期労働契約に転換する。

2 前項の場合において、無期労働契約の内容である労働条件は、現に締結している有期労働契約の内容である労働条件(契約期間を除く。)と同一の労働条件(当該労働条件(契約期間を除く。))について別段の定めがある部分を除く。)とする。

(労働条件の明示)

第 8 条 学長は、職員の採用に際し、次に掲げる事項を記載した文書を交付するものとする。

- (1) 労働契約の期間に関する事項
- (2) 期間の定めのある労働契約を更新する場合の基準に関する事項
- (3) 就業の場所及び従事すべき職務に関する事項

- (4) 給与の決定、計算及び支払いの方法、給与の締切り及び支払いの時期並びに昇給に関する事項
 - (5) 始業及び終業の時刻、勤務時間を超える勤務の有無、休憩時間、休日並びに休暇に関する事項
 - (6) 職員を2組以上に分けて交替に就業させる場合の就業時転換に関する事項
 - (7) 退職及び解雇に関する事項
 - (8) その他必要な事項
- (試用期間)

第9条 職員として採用された者には、採用の日から6か月の試の使用期間(以下「試用期間」という。)を設ける。ただし、学長が必要と認めるときは、試用期間を変更し、又は設けないことができる。

- 2 学長は、試用期間中に職員として必要な適格性を欠くと認めた場合には、試用期間満了時まで解雇することができる。
- 3 試用期間は、勤続年数に通算する。
- 4 職員の試用期間に関し必要な事項は、別に定める職員雇用規則による。

第2節 昇任及び降任

(昇任)

第10条 職員の昇任は、選考による。

- 2 職員の昇任に関し必要な事項は、別に定める職員雇用規則による。

(意に反する降任)

第11条 学長は、職員が次の各号のいずれかに該当する場合は、その意に反して、これを降任させることができる。

- (1) 勤務実績がよくない場合
- (2) 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
- (3) その他職務の遂行に必要な適格性を欠く場合

- 2 前項の降任に関し必要な事項は、別に定める職員雇用規則による。

(管理監督職等勤務上限年齢による降任)

第11条の2 学長は、管理監督職及び管理監督職に準ずる職(以下「管理監督職等」という。)を占める職員でその占める管理監督職等に係る管理監督職等勤務上限年齢(以下「役職定年」という。)に達している職員について、当該役職定年に達した日の翌日以後における最初の4月1日に、管理監督職を占める職員にあっては管理監督職以外の職へ、管理監督職に準ずる職を占める職員にあっては管理監督職に準ずる職以外の職への降任をするものとする。

- 2 管理監督職等の職員区分、職種及び職名は、別表のとおりとする。
- 3 第1項の役職定年は、年齢60年とする。
- 4 第1項の規定による降任については、人事計画その他の事情を考慮した上で、できる限り上位の職制上の段階の職に任命するものとする。

(管理監督職等への雇用の制限)

第 11 条の 3 学長は、採用又は昇任しようとする管理監督職等に係る役職定年に達している者を、その者が当該管理監督職等を占めているものとした場合における役職定年に達した日の翌日以後における最初の 4 月 1 日の翌日(前条の規定により降任をされた職員にあっては、当該降任をされた日)以後、当該管理監督職等に採用又は昇任することができない。

(適用除外)

第 11 条の 4 前 2 条の規定は、国立大学法人熊本大学職員の任期に関する規則(平成 17 年 1 月 14 日制定。以下「職員任期規則」という。)により任期を定めて採用される職員には適用しない。

(役職定年による降任及び管理監督職等への雇用の制限の特例)

第 11 条の 5 学長は、第 11 条の 2 の規定により、管理監督職以外の職への降任をすべき特定管理監督職群(職務の内容が相互に類似する複数の管理監督職であって、これらの欠員を容易に補充することができない年齢構成その他の特別の事情がある管理監督職として別に定める管理監督職をいう。以下この項において同じ。)に属する管理監督職を占める職員について、当該職員の他の管理監督職以外の職への降任により、当該特定管理監督職群に属する管理監督職の欠員の補充が困難となることにより職務の運営に著しい支障が生ずると認められる事由として別に定める事由があると認めるときは、当該職員が占める管理監督職に係る役職定年に達した日の翌日以後における最初の 4 月 1 日から起算して 1 年を超えない期間内で管理監督職としての期間を延長し、引き続き当該管理監督職を占めている職員に当該管理監督職を占めたまま勤務をさせ、又は当該職員を当該管理監督職が属する特定管理監督職群の他の管理監督職に採用し、降任し、又は配置換すること(以下「特例雇用」という。)ができる。

2 学長は、前項又はこの項の規定により特例雇用の期間(前項又はこの項の規定により延長された期間を含む。)が延長された管理監督職を占める職員について前項に規定する事由が引き続きあると認めるときは、延長された当該特例雇用の期間の末日の翌日から起算して 1 年を超えない当該年度の期間内で延長された当該特例雇用の期間を更に延長することができる。ただし、第 21 条第 2 項に規定する定年による退職の日を超えて更に延長することはできない。(特例雇用に係る職員の同意)

第 11 条の 6 学長は、前条の規定により特例雇用をする場合は、あらかじめ職員の同意を得なければならない。

(特例雇用事由が消滅した場合の措置)

第 11 条の 7 学長は、第 11 条の 5 の規定により特例雇用をした場合において、当該特例雇用の期間の末日の到来前に当該特例雇用の事由が消滅したときは、管理監督職以外の職に降任をするものとする。

第 3 節 配置換等

(配置換等)

第 12 条 職員は、組織又は業務上の必要により、配置換(職種換を含む。)、出向又は併任(以下「配置換等」という。)を命ぜられることがある。

2 配置換等を命ぜられた職員は、正当な理由がない限りこれを拒むことができない。

- 3 職員の出向に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学職員出向規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)及び国立大学法人熊本大学クロスアポイントメント制度に関する規則(平成 30 年 3 月 22 日制定)による。

(赴任)

第 13 条 赴任の命令を受けた職員は、その命令を受けた日から、次に掲げる期間内に赴任しなければならない。ただし、当該期間内に赴任できないときは、その理由を付して学長の承認を得なければならない。

- (1) 住居移転を伴わない場合 即日
- (2) 住居移転を伴う場合 7 日以内

第 4 節 休職

(休職)

第 14 条 学長は、職員が次の各号のいずれかに該当すると認める場合は、休職とすることができる。

- (1) 心身の故障のため、長期の休養を要する場合
- (2) 刑事事件に関し起訴され、職務の正常な遂行に支障をきたす場合
- (3) 学校、研究所等の公共的施設において、その職員の職務に関連があると認められる学術に関する事項の調査、研究等に従事する場合
- (4) 水難、火災その他の災害により、生死不明又は所在不明となった場合
- (5) 我が国が加盟している国際機関、外国政府の機関等からの要請に基づき、職員を派遣する場合
- (6) 営利企業を営むことを目的とする会社その他の団体であって、本学教育職員の研究成果を活用する事業を実施する企業の役員(監査役を除く。)、顧問又は評議員(以下「役員等」という。)の職を兼ねる場合において、主として当該役員等の職務に従事する必要があり、本学の職務に従事することができないと認められる場合
- (7) 労働組合の業務に専従する場合
- (8) その他特別の事由により休職とすることが適当と認められる場合

2 試用期間中の職員については、前項の規定を適用しない。

(休職期間)

第 15 条 前条第 1 項第 1 号及び第 3 号から第 8 号までに掲げる事由による休職の期間は、3 年を超えない範囲内において、職員雇用規則により定める。この場合において、休職の期間が 3 年に満たないときは、初めに休職した日から引き続き 3 年を超えない範囲内において、これを更新することができる。

2 前条第 1 項第 2 号に掲げる事由による休職の期間は、職務の正常な遂行に支障をきたすと判断される期間とする。

(休職中の身分等)

第 16 条 休職者は、職員としての身分を保有するが、職務に従事しない。

- 2 休職者は、その休職の期間中、原則として給与を受けることができない。ただし、別に定める国立大学法人熊本大学職員給与規則(平成16年4月1日制定。以下「職員給与規則」という。)、国立大学法人熊本大学年俸制適用職員給与規則(平成27年9月24日制定。以下「年俸制給与規則」という。)及び国立大学法人熊本大学2号年俸制適用職員給与規則(令和元年12月26日制定。以下「2号年俸制給与規則」という。)において別段の定めがある場合は、この限りでない。

(復職)

第17条 学長は、休職期間が満了するまでに休職事由が消滅したと認めた場合には、復職を命ずる。

- 2 休職の期間が満了したときは、休職にされていた職員は、当然復職するものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、第14条第1項第1号の規定による休職にあつては、医師(学長が必要と認めるときは、学長が指定した医師)の診断書又は証明書に基づき、本学の産業医又は学長が指定した医師に意見を求め、休職事由が消滅し、職務の遂行に支障がないと学長が認めた場合に限り、復職を命じ、又は復職するものとする。
- 4 職員を復職させる場合には、原則として休職前の職務に復帰させる。ただし、心身の状態その他の事情を考慮して、他の職務に就かせることがある。

(休職の取扱い)

第18条 第14条から前条までに定めるもののほか、職員の休職に関し必要な事項は、別に定める職員雇用規則による。

第5節 退職及び解雇等

(退職)

第19条 職員は、次の各号のいずれかに該当する場合は、退職とし、職員としての身分を失う。

- (1) 退職を願い出て、学長が承認した場合、又は退職を願い出て、14日が経過した場合
- (2) 第21条に定める定年に達した場合
- (3) 期間を定めて雇用された職員の雇用期間が満了した場合
- (4) 第15条に定める休職期間が満了し、休職事由がなお消滅しない場合
- (5) 本学の役員に就任した場合
- (6) 死亡した場合
- (7) その他の退職事由が発生した場合

2 職種の任期を雇用の任期とする職に就任した職員(当該職に就任する直前の職種(以下「前職種」という。)の併任を命じられている者に限る。)が、当該職に再任されなかった場合で引き続き職員として勤務を希望するときは、前職種と同一の労働条件で勤務することができる。(自己都合による退職手続等)

第20条 職員は、自己の都合により退職しようとするときは、退職を予定する日の30日前までに、学長に文書をもって願い出なければならない。ただし、やむを得ない事由により30日前までに願い出を提出できない場合は、14日前までに提出しなければならない。

2 職員は、退職を願い出た後も、退職するまでは従前の職務に従事しなければならない。

(定年)

第 21 条 職員の定年は、年齢 65 年とする。

2 定年による退職の日は、定年に達した日以後における最初の 3 月 31 日とする。

3 病院長については、前 2 項の規定は適用しない。

第 22 条 削除

(解雇)

第 23 条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合は、その意に反して、これを解雇することができる。

(1) 勤務実績が著しくよくない場合

(2) 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合

(3) その他職員として必要な適格性を欠く場合

(4) 職種の任期を雇用の任期とする職に就任した職員のうち、第 7 条の 2 の規定により無期労働契約の申込みをしたもの又は無期労働契約を締結したもので、当該職に再任されなかった場合

(5) 組織の改廃等により、職員の減員が必要となった場合

(6) 天災事変その他やむを得ない事由により、本学の事業継続が不可能となり、所轄労働基準監督署長の認定を受けた場合

2 職員が禁錮以上の刑(執行猶予が付された場合を除く。)に処せられた場合は、これを解雇する。

3 職員の解雇に関し必要な事項は、別に定める職員雇用規則による。

(解雇制限)

第 24 条 前条の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する期間及びその後 30 日間は解雇しない。ただし、第 1 号に定める業務上の傷病において、療養開始後 3 年を経過しても負傷又は疾病が治癒せず、労基法第 81 条の規定により打切補償を支払う場合は、この限りでない。

(1) 業務上負傷し、又は疾病にかかり、療養のため休業する期間

(2) 産前産後の女性職員が別に定める国立大学法人熊本大学職員の勤務時間、休暇等に関する規則(平成 16 年 4 月 1 日制定。以下「職員勤務時間等規則」という。)第 15 条の規定により特別有給休暇を取得する期間

(解雇の予告)

第 25 条 第 23 条第 1 項第 1 号から第 4 号まで及び前条ただし書の規定により職員を解雇しようとする場合は、少なくとも 30 日前に本人に予告をする。30 日前に予告をしない場合は、労基法第 12 条第 1 項に規定する平均賃金の 30 日分以上に相当する解雇予告手当を支払う。

2 前項の予告の日数は、1 日について平均賃金を支払った場合においては、その日数を短縮することができる。

3 前 2 項の規定は、次の各号のいずれかに該当する場合は、これを適用しない。

(1) 試用期間中の職員を 14 日以内に解雇する場合

(2) 第 23 条第 1 項第 5 号の規定により解雇する場合

(3) 所轄労働基準監督署長の認定を受けて第 56 条第 1 項第 5 号に定める懲戒解雇をする場合

(退職者等の守秘義務)

第 26 条 退職者又は解雇された者は、在職中に知り得た秘密及び職務上知り得た個人情報に漏らしてはならない。

(退職時の証明)

第 27 条 学長は、退職者、解雇された者又は解雇予告をされた者から労基法第 22 条第 1 項に定める証明書の交付の請求があった場合は、遅滞なくこれを交付する。

2 前項の証明書に記載する事項は、次のとおりとする。

(1) 雇用期間

(2) 業務の種類

(3) 当該業務における地位

(4) 給与

(5) 退職の事由(退職の事由が解雇の場合にあっては、その理由を含む。)

3 第 1 項の証明書には、前項各号に掲げる事項のうち退職者、解雇された者又は解雇予告をされた者が請求したものに限り記載するものとする。

第 3 章 給与

(給与)

第 28 条 職員の給与に関し必要な事項は、別に定める職員給与規則による。ただし、次の各号に掲げる者の給与については、当該各号に定める規則による。

(1) 第 2 条第 1 号の教育職員のうち令和元年 12 月 31 日以前から年俸制の適用を受ける教授、准教授、講師及び助教(年俸制の移行に関し学長に同意書を提出した者を除く。次号において「年俸制適用職員」という。) 年俸制給与規則

(2) 第 2 条第 1 号の教育職員のうち令和 2 年 1 月 1 日以後に年俸制の適用を受ける教授、准教授、講師及び助教(年俸制適用職員を除く。) 2 号年俸制給与規則

第 4 章 退職手当

(退職手当)

第 29 条 職員の退職手当に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学職員退職手当規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

第 5 章 服務

(誠実義務)

第 30 条 職員は、本学の使命と業務の公共性を自覚し、上司の職務上の指示命令に従い、職場の秩序を保持し、互いに協力して誠実かつ公正に職務を遂行しなければならない。

(職務に専念する義務)

第 31 条 職員は、この規則又は関係法令の定める場合を除いては、その勤務時間中、職務に専念しなければならない。

(職務専念義務の免除)

第 32 条 職員は、次の各号のいずれかに該当する場合は、前条の規定にかかわらず、その承認された期間について職務専念義務を免除される。

- (1) 国際的規模又は全国的規模の競技会、展覧会、公演会等に国又は県の要請により出場、出展又は出演等する場合
- (2) 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律(昭和 47 年法律第 113 号。以下「男女雇用機会均等法」という。)第 12 条の規定に基づき、勤務時間内に健康診査を受ける場合
- (3) 男女雇用機会均等法第 13 条の規定に基づき、通勤緩和により勤務しない場合
- (4) 男女雇用機会均等法第 13 条の規定に基づき、休憩に関する措置により勤務しない場合
- (5) 勤務時間内に総合的な健康診査を受ける場合
- (6) 勤務時間内に国立大学法人熊本大学職員安全衛生管理規則(平成 16 年 4 月 1 日制定。以下「職員安全衛生規則」という。)第 19 条第 1 項第 1 号、第 2 号及び第 4 号に定める健康診断その他学長が定める健康診断並びに同規則第 29 条の 2 第 1 項に規定するストレスチェックを受ける場合

2 職員の職務専念義務免除に関し必要な事項は、別に定める職員勤務時間等規則による。

(遵守事項)

第 33 条 職員は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 正当な理由なく欠勤するなど勤務を怠らないこと。
- (2) 熊本大学の名誉及び信用を失墜させるような行為を行わないこと。
- (3) 職務上知り得た秘密及び職務上知り得た個人情報等を他に漏らさないこと。
- (4) 職務上の地位を私的利用のために用いないこと。
- (5) 熊本大学の敷地及び施設内において、良好な教育研究環境の維持に努め、喧騒その他秩序・風紀を乱さないこと。
- (6) 熊本大学の敷地及び施設内において、選挙運動その他の政治活動を行わないこと。
- (7) 学長の許可なく、熊本大学の敷地及び施設内において、営利を目的とする金品の貸借及び物品の売買を行わないこと。

(職員の倫理)

第 34 条 職員の倫理に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学倫理規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

(ハラスメントの防止等)

第 35 条 職員は、いかなるハラスメント及び人権侵害も行ってはならず、常にこれらの防止に努めなければならない。

2 ハラスメント(セクシュアル・ハラスメント等を除く。)の防止等に関し必要な事項は、別に定める熊本大学ハラスメントの防止等に関する規則(平成 18 年 3 月 23 日制定)による。

3 セクシュアル・ハラスメント等の防止等に関し必要な事項は、別に定める熊本大学セクシュアル・ハラスメント等の防止等に関する規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

(兼業の制限)

第 36 条 職員は、学長の承認を受けた場合でなければ、職務以外の他の業務に従事し、又は自ら事業を営んではならない。

2 職員の兼業に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学職員兼業規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

(公職の候補者への立候補等)

第 37 条 職員は、国会議員、地方公共団体の長、地方公共団体の議会の議員その他の公職に立候補するとき、及び当選の告知後は、速やかにその旨を、学長に届け出なければならない。

第 6 章 勤務時間、休日及び休暇、育児休業等

第 1 節 勤務時間等

(勤務時間等)

第 38 条 職員の 1 週間当たりの勤務時間は 38 時間 45 分とし、1 週間の起算日は土曜日とする。

2 1 日の勤務時間は 7 時間 45 分とし、始業及び終業の時刻並びに休憩時間は、次のとおりとする。

(1) 始業 午前 8 時 30 分

(2) 終業 午後 5 時 15 分

(3) 休憩時間 正午から午後 1 時まで

3 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、あらかじめ日時を指定して始業及び終業の時刻並びに休憩時間を繰り上げ、又は繰り下げることがある。

(1) 業務の都合により必要がある場合

(2) 中学校就学の始期に達するまでの子を養育する職員から申出があった場合で、業務の運営に支障が生じないと認められるとき

(3) 負傷、疾病又は身体上若しくは精神上の障害により、2 週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする状態(以下「要介護状態」という。)にある家族を介護する職員から申出があった場合で、業務の運営に支障が生じないと認められるとき

4 学長は、業務上の都合により特別の勤務形態によって勤務する必要のある職員について、第 2 項及び第 45 条の規定にかかわらず、第 1 項の勤務時間の範囲内で、勤務時間、休憩時間及び休日を変更して割り振ることができる。

5 職員の勤務時間等に関し必要な事項は、別に定める職員勤務時間等規則による。

(事業場外の勤務)

第 39 条 職員が出張その他本学の業務を帯びて本学外で勤務する場合であって、勤務時間を算定し難いときは、前条第 2 項に規定する勤務時間を勤務したものとみなす。ただし、当該業務を遂行するために勤務時間を超えて勤務することが必要となる場合においては、当該業務に関しては、当該業務の遂行に通常必要とされる時間を勤務したものとみなす。

(在宅勤務)

第 39 条の 2 学長は、業務上支障がないと認められる場合又は災害時等における本学の事業継続のために必要と認める場合は、職員に在宅勤務を命ずることができる。

2 職員の在宅勤務に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学における在宅勤務に関する規則(令和6年3月28日制定)による。

(時間外勤務等)

第40条 学長は、業務上必要があると認める場合は、第38条又は第45条の規定にかかわらず、時間外勤務(所定勤務時間を超える勤務をいう。)、深夜勤務(午後10時から午前5時までの間の勤務をいう。))又は休日勤務(所定休日の勤務をいう。)) (以下「時間外勤務等」という。)を命ずることができる。

2 学長は、前項の規定に基づき、時間外勤務等を命ずる場合には、職員の健康を害しないように配慮するものとする。

(災害時の勤務)

第41条 学長は、災害その他避けることのできない事由によって、臨時の必要がある場合においては、職員に時間外勤務等を命ずることができる。ただし、労基法第33条第1項又は同法第36条第1項の手続を必要とするものについては、その手続を行わなければならない。

(宿日直勤務)

第42条 学長は、業務上必要があると認める場合は、勤務時間外又は休日に、職員に宿日直勤務を命ずることができる。

2 職員の宿日直に関し必要な事項は、別に定める熊本大学病院宿日直規則(平成16年4月1日制定)による。

(出勤)

第43条 職員は、始業時刻までに出勤し、出勤後直ちに出勤簿に押印しなければならない。ただし、出勤簿への押印については、職員の勤務状況が確認できるものとして学長が認めた方法をもって代えることができる。

(欠勤)

第44条 職員が、休日、休暇による場合その他勤務しないことについて特に承認のあった場合を除き、病気その他やむを得ない事由により欠勤するときは、あらかじめその事由及び予定日数・時間数を記入した欠勤届を提出しなければならない。ただし、やむを得ない事由により、あらかじめ提出できないときは、事後速やかにその理由を付して提出しなければならない。

2 前項の提出を怠ったときは、無断欠勤として取り扱うものとする。

第2節 休日及び休暇

(休日及び休日の振替)

第45条 職員の休日は、次のとおりとする。

- (1) 土曜日及び日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日
- (3) 12月29日から1月3日までの日(前号に定める休日を除く。)
- (4) その他学長が指定した日

2 学長は、前項に規定する休日について特に勤務することを命じた場合には、原則として土曜日を起算日とした1週間後の日までの期間にある勤務日を休日に変更して、その勤務することを命じた日に振り替えることができる。ただし、業務の都合上、土曜日を起算日とした1週間後の日までの期間に振り替えることができない場合には、他の勤務日と休日を振り替えることができる。

3 職員の休日及び休日の振替に関し必要な事項は、別に定める職員勤務時間等規則による。
(有給休暇)

第46条 職員の有給休暇は、年次有給休暇、病気有給休暇及び特別有給休暇とする。
(年次有給休暇)

第47条 年次有給休暇は、一の年度につき20日とする。ただし、新たに採用された職員は、20日を限度として当該年度の在職期間に応じた日数とする。

2 年次有給休暇(本項の規定により繰り越されたものを除く。)は、20日を超えない範囲内の残日数・時間数を限度として、当該年度の翌年度に繰り越すことができる。

3 職員の年次有給休暇に関し必要な事項は、別に定める職員勤務時間等規則による。
(病気有給休暇)

第48条 病気有給休暇は、職員が負傷又は疾病による療養のため勤務しないことがやむを得ないと認められる場合に取得することができる。

2 生理日における勤務が著しく困難であると請求があった場合には、病気有給休暇として取り扱うものとする。

3 職員の病気有給休暇に関し必要な事項は、別に定める職員勤務時間等規則による。
(特別有給休暇)

第49条 特別有給休暇は、職員が結婚、出産、親族の死亡その他の特別の事由により勤務しないことが相当と認められる場合に取得することができる。

2 職員の特別有給休暇に関し必要な事項は、別に定める職員勤務時間等規則による。

第3節 育児休業等

(育児休業、育児短時間勤務又は育児時間)

第50条 職員は、3歳(職員任期規則第2条第1号から第3号までに規定する職員については、2歳)に満たない子を養育するために必要があるときは、学長に申し出て育児休業をすることができる。

2 職員は、中学校就学の始期に達するまでの子を養育するために必要があるときは、学長に申し出て1週間当たりの勤務時間を19時間30分から25時間までの範囲内で勤務すること(以下「育児短時間勤務」という。)又は所定の勤務時間の一部について勤務しないこと(以下「育児時間」という。)ができる。

3 職員の育児休業、育児短時間勤務又は育児時間に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学職員育児休業等に関する規則(平成16年4月1日制定)による。
(介護休業、介護短時間勤務又は介護時間)

第 51 条 職員は、要介護状態にある家族を介護するために必要があるときは、学長に申し出て介護休業又は 1 週間当たりの勤務時間を 19 時間 30 分から 25 時間までの範囲内で勤務すること(以下「介護短時間勤務」という。)若しくは所定の勤務時間の一部について勤務しないこと(以下「介護時間」という。)ができる。

2 職員の介護休業、介護短時間勤務又は介護時間に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学職員介護休業等に関する規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

(大学院修学休業)

第 52 条 主幹教諭、教諭、養護教諭及び栄養教諭で、教育職員免許法(昭和 24 年法律第 147 号)に規定する専修免許状の取得を目的とする者は、学長の許可を受けて、3 年を超えない範囲内で年を単位として定める期間、大学(短期大学を除く。)の大学院の課程若しくは専攻科の課程又はこれらの課程に相当する外国の大学の課程に在学してその課程を履修するための休業(以下「大学院修学休業」という。)をすることができる。

2 職員の大学院修学休業に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学大学院修学休業に関する規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

(自己啓発等休業)

第 52 条の 2 職員は、自発的な大学等における修学又は国際貢献活動のための休業(以下「自己啓発等休業」という。)をすることができる。

2 職員の自己啓発等休業に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学職員自己啓発等休業に関する規則(令和 6 年 3 月 28 日制定)による。

第 7 章 研修

(研修)

第 53 条 学長は、業務上必要があると認める場合は、職員の研修の機会提供に努めるものとする。

2 職員の研修に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学職員研修規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

第 8 章 人事評価

(人事評価)

第 53 条の 2 学長は、職員に対して職務遂行能力及び業績の評価(以下「人事評価」という。)を実施する。

2 職員の人事評価に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学職員人事評価規則(平成 19 年 3 月 26 日制定)による。

第 9 章 表彰及び懲戒

第 1 節 表彰

(表彰)

第 54 条 学長は、職員が次の各号のいずれかに該当する場合は、これを表彰する。

- (1) 永年勤続し、その勤務実績が優秀である場合
- (2) 特に他の職員の模範として推奨すべき実績があると認めた場合

2 前項に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学表彰規則(平成16年4月1日制定)による。

第2節 懲戒等

(懲戒の事由)

第55条 学長は、職員が次の各号のいずれかに該当する場合は、所定の手続を経た上で、懲戒処分を行うことができる。

- (1) 第30条、第31条及び第33条から第36条までに規定する服務事項に違反した場合
- (2) 故意又は重大な過失により、本学に損害を与えた場合
- (3) 窃盗、横領、傷害等の刑法犯に該当する行為があった場合
- (4) 重大な経歴詐称をした場合
- (5) その他この規則及び附属する諸規則に違反した行為があった場合

(懲戒の種類)

第56条 懲戒の種類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 戒告 責任を確認させ、将来を戒める。
- (2) 減給 給与の一部を減額する。ただし、その額は1回の事案につき平均賃金の1日分の半額を超えないものとし、また、一賃金支払い期において複数の事案がある場合においても、当該賃金支払い期における賃金総額の10分の1を超えないものとする。
- (3) 停職 12月を限度として出勤を停止し、職務に従事させず、その間の給与を支給しない。
- (4) 諭旨解雇 退職願の提出を勧告し、これに応じない場合には、30日前に予告して、若しくは30日以上平均賃金を支払って解雇し、又は予告期間を設けずに即時に解雇する。
- (5) 懲戒解雇 即時に解雇し、退職手当は支給しない。この場合において、所轄労働基準監督署長の認定を受けたときは、労基法第20条に規定する解雇予告手当を支給しない。

2 職員の懲戒に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学懲戒規則(平成16年4月1日制定。以下「懲戒規則」という。)による。

(訓告等)

第57条 学長は、服務を厳正にし、規律を保持する必要がある場合には、職員に対して懲戒処分によらず、文書等により訓告又は厳重注意(以下「訓告等」という。)を行うことができる。

2 学長は、職務遂行上の行為又はこれに関連する行為に係る訓告等を行うに当たり、特に必要と認めるときは、公表することができる。

3 訓告等の公表については、懲戒規則第6条第2項の規定を準用する。この場合において、「懲戒処分の量定」とあるのは「訓告等の種類」と、「被処分者」とあるのは「訓告等を受ける者」と読み替えるものとする。

(損害賠償)

第58条 学長は、職員が故意又は過失により本学に損害を与えた場合は、その全部又は一部を賠償させることができる。

第10章 安全衛生

(安全衛生)

第 59 条 職員の安全衛生及び健康診断に関し必要な事項は、別に定める職員安全衛生規則による。

(妊産婦職員の保護)

第 60 条 学長は、妊娠中又は出産後 1 年を経過しない職員(以下「妊産婦職員」という。)が請求した場合は、時間外勤務等をさせてはならない。

2 妊産婦職員の勤務制限に関し必要な事項は、別に定める職員勤務時間等規則による。

第 11 章 出張及び旅費

(出張)

第 61 条 学長は、業務上必要があると認める場合は、職員に出張を命ずることができる。

2 出張を命じられた職員が出張を終えたときは、速やかに報告書を提出しなければならない。

3 職員が出張及び赴任を命ぜられた場合の旅費については、別に定める国立大学法人熊本大学旅費規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

第 12 章 共済

(共済)

第 62 条 職員の共済は、国家公務員共済組合法(昭和 33 年法律第 128 号)の定めるところによる。

第 13 章 保険及び災害補償

(労働保険)

第 63 条 学長は、職員が雇用保険法(昭和 49 年法律第 116 号)及び労働者災害補償保険法(昭和 22 年法律第 50 号)(以下「労災法」という。)の基準により、被保険者に該当するときは、直ちに必要な手続を行わなければならない。

(災害補償)

第 64 条 職員が業務上又は通勤途上において、災害(負傷、疾病、障害又は死亡をいう。)を受けた場合の災害補償、被災職員の社会復帰の促進並びに被災職員及びその遺族の援護を図るために必要な福祉事業に関しては、労基法及び労災法の定めるところによるもののほか、別に定める国立大学法人熊本大学職員災害補償規則(平成 17 年 1 月 14 日制定)による。

第 14 章 知的財産権

(知的財産権)

第 65 条 知的財産権に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学職務発明等規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

第 15 章 苦情処理

(苦情処理)

第 66 条 この規則及び附属する諸規則の解釈並びに適用に関する疑義又は勤務時間、給与等労働条件に関する職員の苦情を公正かつ適切に処理するため、本学に苦情処理制度を設ける。

2 苦情処理等に関し必要な事項は、別に定める国立大学法人熊本大学苦情相談及び苦情処理に関する規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

第 16 章 その他

(宿舎の利用)

第 67 条 職員の宿舎の利用については、別に定める国立大学法人熊本大学職員宿舎規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)による。

(保育園の利用)

第 68 条 職員は、別に定める国立大学法人熊本大学こぼと保育園利用規則(平成 21 年 3 月 27 日制定)により、本学が設置する保育園を利用することができる。

附 則

(施行日)

1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

(承認等の承継)

2 この規則の施行日前に国家公務員法、人事院規則及びその他関係法令により発令及び承認を受けていた職員が、国立大学法人法(平成 15 年法律第 112 号)附則第 4 条の適用を受ける職員となった場合の発令及び承認事項については、その効力を承継する。

3 令和 5 年 4 月 1 日から令和 13 年 3 月 31 日までの間における職員(教授、准教授、講師、助教、助手及び労務職員を除く。)に対する第 21 条第 1 項の規定の適用については、次の表の左欄に掲げる期間の区分に応じ、同項中「65 年」とあるのはそれぞれ同表の右欄に掲げる字句とする。

令和 5 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで	61 年
令和 7 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで	62 年
令和 9 年 4 月 1 日から令和 11 年 3 月 31 日まで	63 年
令和 11 年 4 月 1 日から令和 13 年 3 月 31 日まで	64 年

4 令和 5 年 4 月 1 日から令和 13 年 3 月 31 日までの間における労務職員に対する第 21 条第 1 項の規定の適用については、次の表の左欄に掲げる期間の区分に応じ、同項中「65 年」とあるのはそれぞれ同表の右欄に掲げる字句とする。

令和 5 年 4 月 1 日から令和 11 年 3 月 31 日まで	63 年
令和 11 年 4 月 1 日から令和 13 年 3 月 31 日まで	64 年

附 則(平成 17 年 1 月 14 日規則第 8 号)

この規則は、平成 17 年 1 月 14 日から施行し、平成 16 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 17 年 3 月 24 日規則第 64 号)

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 11 月 24 日規則第 127 号)

この規則は、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。

附 則(平成 18 年 3 月 23 日規則第 75 号)

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 19 年 3 月 26 日規則第 85 号)
この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 6 日規則第 52 号)
この規則は、平成 20 年 3 月 6 日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 28 日規則第 103 号)
この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 9 月 29 日規則第 241 号)
この規則は、平成 20 年 9 月 29 日から施行する。

附 則(平成 20 年 12 月 3 日規則第 264 号)
この規則は、平成 20 年 12 月 3 日から施行する。

附 則(平成 21 年 1 月 28 日規則第 3 号)
この規則は、平成 21 年 2 月 1 日から施行する。

附 則(平成 21 年 3 月 27 日規則第 128 号)
この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 22 年 3 月 30 日規則第 46 号)
この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 3 月 24 日規則第 41 号)
この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

- 附 則(平成 26 年 3 月 27 日規則第 25 号)
- 1 この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
 - 2 この規則施行の際現に国立大学法人熊本大学職員雇用規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)第 7 条及び第 8 条の規定により任期を定めて採用されている教授、准教授、講師、助教及び助手(以下「任期付教員」という。)のうち、この規則施行の日前に労働契約法(平成 19 年法律第 128 号)第 18 条第 1 項に規定する通算契約期間が 5 年を超えることとなったものに係る同項に規定する期間の定めのない労働契約の申込みについては、その効力を有する。
 - 3 この規則の施行の日前に任期付教員として在職していた者のうち、平成 25 年 4 月 1 日以後に労働契約が締結され、当該労働契約の任期中の業績審査により再採用可となったものについては、学長が教育研究上特に必要と認めるときは、改正後の第 7 条の 2 第 1 項の規定を満たしているものとみなすことができる。

附 則(平成 27 年 9 月 24 日規則第 266 号)

この規則は、平成 27 年 10 月 1 日から施行する。

附 則(平成 28 年 4 月 28 日規則第 302 号)
この規則は、平成 28 年 5 月 1 日から施行する。

附 則(平成 28 年 12 月 22 日規則第 455 号)
この規則は、平成 29 年 1 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 6 月 22 日規則第 195 号)
この規則は、平成 29 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 9 月 28 日規則第 220 号)
この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 10 月 26 日規則第 229 号)
この規則は、平成 29 年 10 月 26 日から施行し、改正後の第 50 条第 1 項の規定は、平成 29 年 10 月 1 日から適用する。

附 則(平成 30 年 3 月 22 日規則第 55 号)
1 この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
2 この規則施行の際現に第 14 条第 1 項第 1 号の事由による休職(以下「病気休職」という。)中である者の改正後の第 17 条の適用については、当該病気休職から復職後の新たな病気休職からとする。

附 則(平成 31 年 3 月 28 日規則第 63 号)
この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和元年 12 月 26 日規則第 404 号)
この規則は、令和 2 年 1 月 1 日から施行する。

附 則(令和 3 年 3 月 24 日規則第 55 号)
この規則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 4 年 3 月 24 日規則第 36 号)
この規則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 5 年 3 月 23 日規則第 101 号)
この規則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 6 年 3 月 28 日規則第 162 号)
この規則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和7年3月27日規則第51号)

- 1 この規則は、令和7年4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の第47条第2項の規定にかかわらず、令和6年1月1日から令和6年12月31日までに付与された年次有給休暇にあっては令和8年3月31日まで、令和7年1月1日から令和7年3月31日までに付与された年次有給休暇にあっては令和9年3月31日まで繰り越すことができるものとする。

別表(第11条の2関係)

管理監督職等の職員区分、職種及び職名

区分	職員区分	職種	職名	
管理監督職	教育職員	校長、園長、教諭(特別支援学校の小学部、中学部及び高等部の主事に限る。)、教頭		
	一般職員	事務職員	本部長、部長、課長、監査室長、高度専門員	
		技術職員	施設系技術職員	本部長、部長、課長
		教育研究系技術職員	技術専門員(研究開発戦略本部技術部門長に限る。)	
	図書職員	課長		
医療職員	看護職員	看護部長、副看護部長		
管理監督職に準ずる職	一般職員	事務職員	副課長、副監査室長、室長、主幹、専門員	
		技術職員	施設系技術職員	副課長、室長
		図書職員	副課長、室長	
	医療職員	医療技術職員	薬剤師	副薬剤部長、室長
			診療放射線技師	診療放射線技師長、副診療放射線技師長
			臨床検査技師	臨床検査技師長、副臨床検査技師長
			栄養士	栄養管理室長

○国立大学法人熊本大学教育職員選考規則

(平成16年4月1日規則第32号)

改正	平成19年3月26日規則第104号	平成20年3月28日規則第109号
	平成20年9月29日規則第244号	平成20年12月26日規則第286号
	平成21年3月27日規則第153号	平成21年12月24日規則第269号
	平成25年3月28日規則第42号	平成27年2月27日規則第25号
	平成27年3月26日規則第126号	平成29年3月23日規則第68号
	平成31年3月28日規則第77号	令和元年6月27日規則第351号
	令和3年3月24日規則第71号	令和5年3月23日規則第122号
	令和6年3月28日規則第166号	

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人熊本大学職員雇用規則(平成16年4月1日制定)第5条の規定に基づき、国立大学法人熊本大学の教育職員の選考に関し必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規則において、「部局」とは、国立大学法人熊本大学学内規則取扱要項(平成16年4月1日制定)第2条第1項に規定する部局(各学部、情報融合学環、大学院各教育部、先進軽金属材料国際研究機構、キャンパスミュージアム推進機構、各研究機構及び附属図書館を除く。)をいう。

(選考の開始)

第3条 部局の長は、当該部局の教授、准教授、講師、助教及び助手(以下「教授等」という。)の採用又は昇任のための選考を開始しようとするときは、国立大学法人熊本大学の長(以下「学長」という。)の許可を得なければならない。

2 前項の規定は、配置換について準用する。

(採用及び昇任の方法)

第4条 教授等の採用又は昇任のための選考は、国立大学法人熊本大学教員選考基準(平成16年4月1日制定)に定める当該職種の資格を有すると認められる者のうちから、教授会(熊本大学教授会規則(平成16年4月1日制定)第3条第1項に定める運営委員会及び同規則第4条第1項に定める学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会を含む。以下同じ。)の意見を聴き、学長が行う。

2 校長、園長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭及び栄養教諭の採用又は昇任のための選考は、教育学部教授会の意見を聴き、学長が行う。

(選考委員会)

第5条 教授会は、教授等の選考を行うため、選考委員会を置くものとする。

2 前項の委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 部局の長(熊本大学教授会規則第4条第1項に定める学内共同教育研究施設等に関する委員会にあっては、学長が指名する副学長。以下同じ。)

(2) 教授会が定める選出方法により選出された教授4人以上

(3) その他部局の長が必要と認めた者

3 委員会に、委員長を置き、部局の長をもって充てる。

4 委員長は、選考に際し、採用し、又は昇任させようとする職の教育研究分野と関連する分野の教授等の参加及び学外の専門家による評価並びに推薦を求め参考にするなどの方法により、外部の意見を聴取する機会を設けることができる。

(選考方法)

第6条 教授の選考は、次に掲げる方法により行うものとする。

(1) 選考に当たっては、原則として公募制を採用する。

- (2) 部局が作成した選考の基準について、公募要領の公開前に、国立大学法人熊本大学教員人事委員会(以下「教員人事委員会」という。)の評価を受ける。
 - (3) 公募制を採用しない場合にあっては選考前に、公募しない理由も含めた選考の基準について、教員人事委員会の評価を受ける。
 - (4) 教授会における最終選考は、教授による投票により行う。
 - (5) 選考終了後、遅滞なく選考結果を公表するものとする。
- 2 前項の規定は、准教授、講師及び助教の選考について準用する。ただし、前項第4号の投票については、部局の事情に応じて決定するものとする。
 - 3 前条及び前2項の規定にかかわらず、助手の選考については、部局の事情に応じて決定するものとする。
 - 4 教授等の選考を行うに当たっては、産前産後の休暇又は育児若しくは介護(以下「育児等」という。)のための休業を取得した者及び育児等のための短時間勤務を行った者が当該選考において不利にならないよう、その事情を考慮しなければならない。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し必要な事項は、教育研究評議会の議を経て、学長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の日前に、教育公務員特例法(昭和24年法律第1号)の規定により選考された者については、この規則の規定により選考されたものとみなす。

附 則(平成19年3月26日規則第104号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月28日規則第109号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成20年9月29日規則第244号)

この規則は、平成20年9月29日から施行する。

附 則(平成20年12月26日規則第286号)

この規則は、平成21年1月1日から施行する。

附 則(平成21年3月27日規則第153号)

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成21年12月24日規則第269号)

この規則は、平成22年1月1日から施行する。

附 則(平成25年3月28日規則第42号)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成27年2月27日規則第25号)

この規則は、平成27年3月1日から施行する。

附 則(平成27年3月26日規則第126号)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月23日規則第68号)
この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月28日規則第77号)
この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和元年6月27日規則第351号)
この規則は、令和元年7月1日から施行する。

附 則(令和3年3月24日規則第71号)
この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月23日規則第122号)
この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和6年3月28日規則第166号)
この規則は、令和6年4月1日から施行する。

○国立大学法人熊本大学教員選考基準

(平成16年4月1日基準第1号)

改正	平成19年3月26日基準第2号	平成21年3月27日基準第4号
	平成21年12月24日基準第5号	平成25年3月28日基準第1号
	平成27年3月26日基準第1号	平成29年3月23日基準第3号
	平成31年3月28日基準第2号	令和元年6月27日基準第7号
	令和6年3月28日基準第3号	令和6年6月27日基準第5号

(趣旨)

第1条 国立大学法人熊本大学教育職員選考規則(平成16年4月1日制定)第4条第1項の規定に基づき、熊本大学における教員(教授、准教授、講師、助教及び助手をいう。以下同じ。)の選考は、この基準により行う。

(教授の選考)

第2条 教授の選考は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者について行う。

- (1) 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有し、研究上の業績を有する者
- (2) 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者
- (3) 学位規則(昭和28年文部省令第9号)第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する実務上の業績を有する者
- (4) 大学において教授、准教授又は大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第8条第1項に規定する基幹教員としての講師の経歴(外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。)のある者
- (5) 芸術、体育等については、特殊な技能に秀でていと認められる者
- (6) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

(准教授の選考)

第3条 准教授の選考は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者について行う。

- (1) 前条各号のいずれかに該当する者
- (2) 大学において助教又はこれに準ずる職員としての経歴(外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。)のある者
- (3) 修士の学位又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
- (4) 研究所、試験所、調査所等に在職し、研究上の業績を有する者
- (5) 専攻分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者

(講師の選考)

第4条 講師の選考は、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

- (1) 第2条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者
- (2) その他特殊な専攻分野について、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

(助教の選考)

第5条 助教の選考は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者について行う。

- (1) 第2条各号又は第3条各号のいずれかに該当する者
- (2) 修士の学位(医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医

学を履修する課程を修了した者については、学士の学位)又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。)を有する者

(3) 専攻分野について、知識及び経験を有すると認められる者
(助手の選考)

第6条 助手の選考は、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

(1) 学士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者

(2) 前号の者に準ずる能力を有すると認められる者
(雑則)

第7条 国立大学法人熊本大学学内規則取扱要項(平成16年4月1日制定)第2条第1項に規定する部局(各学部、情報融合学環、大学院各教育部、先進軽金属材料国際研究機構、キャンパスミュージアム推進機構、各研究機構及び附属図書館を除く。)において必要がある場合は、学長の承認を得て、この基準に関する内規を定めることができる。

附 則

- 1 この基準は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この基準の施行の日前に、廃止前の熊本大学教員選考基準(昭和28年4月26日制定)により選考された者については、この基準により選考されたものとみなす。

附 則(平成19年3月26日基準第2号)

この基準は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成21年3月27日基準第4号)

この基準は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成21年12月24日基準第5号)

この基準は、平成22年1月1日から施行する。

附 則(平成25年3月28日基準第1号)

この基準は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月26日基準第1号)

この基準は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月23日基準第3号)

この基準は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月28日基準第2号)

この基準は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和元年6月27日基準第7号)

この基準は、令和元年7月1日から施行する。

附 則(令和6年3月28日基準第3号)

この基準は、令和6年4月1日から施行する。

附 則(令和6年6月27日基準第5号)

- 1 この基準は、令和6年7月1日から施行する。
- 2 この基準による改正後の第2条第4号の規定の適用については、この基準の施行前における専任の講師の経歴及び大学設置基準等の一部を改正する省令(令和4年文部科学省令第34号)附則第4条第1項の規定によりなお従前の例によることとされる場合における専任の講師の経歴は、基幹教員としての講師の経歴とみなす。

○熊本大学大学院人文社会科学研究部教員選考内規

(平成29年3月22日内規第17号)

(趣旨)

第1条 熊本大学大学院人文社会科学研究部(以下「人文社会科学研究部」という。)の教授、准教授、講師及び助教(以下「教授等」という。)の採用及び昇任の選考(以下「選考」という。)については、国立大学法人熊本大学教育職員選考規則(平成16年4月1日制定)に基づくほか、この内規によるものとする。

(教授等の選考)

第2条 教授等の選考は、原則として公募によるものとする。公募によることが困難な場合は、教授会の議を経て、他の方法により選考することができる。

(委員会)

第3条 教授会は、教授等の選考の必要がある場合には、速やかに選考委員会を設ける。

2 教授会は、選考委員会の設置に係わる審議を運営会議に委ねることができる。

3 運営会議は、前項の審議結果を教授会に報告するものとする。

(構成)

第4条 選考委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 人文社会科学研究部長(以下「研究部長」という。)

(2) 人文社会科学研究部研究部長補佐

(3) 人文社会科学研究部から選出された教授 4人以上

2 退職予定の教授は、後任教授の選考の選考委員会に加わらないものとする。

(委員長)

第5条 選考委員会に、委員長を置き、研究部長をもって充てる。

2 委員長は、選考委員会を招集し、その議長となる。

(候補者の選考)

第6条 選考委員会は、候補者について業績、学歴、職歴その他必要な調査を行い、教員候補者を選定し、研究部会議に報告する。

2 選考委員会は、前項の報告に当たって順位を付けることができる。

3 選考委員会は、選考委員会に委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(教員の選考に関する投票)

第7条 教員の選考に関する投票は、当該研究部会議で行う。

2 教員の選考の審議結果は、教授会又は運営会議に報告するものとする。

附 則

1 この内規は、平成29年4月1日から施行する。

2 附則第1項の規定にかかわらず、この内規の施行の際現に廃止前の次に掲げる細則又は内規により設置された選考委員会に係る教員の選考で、この内規施行の際現に選考中のものは、なお従前の例による。

(1) 熊本大学文学部教員選考細則(平成16年4月1日制定)

(2) 熊本大学法学部教育職員選考内規(平成16年11月17日制定)

(3) 熊本大学大学院法曹養成研究科教育職員選考内規(平成16年6月9日制定)

(4) 大学院社会文化科学研究科所属教員の人事に関する内規(平成20年9月24日制定)

○熊本大学教授会規則

(平成16年4月1日規則第164号)

改正	平成20年3月27日規則第87号	平成21年3月26日規則第59号
	平成21年12月24日規則第246号	平成23年11月24日規則第157号
	平成25年3月29日規則第108号	平成26年4月30日規則第52号
	平成27年1月22日規則第3号	平成28年3月31日規則第234号
	平成28年5月31日規則第380号	平成29年3月31日規則第170号
	平成30年3月22日規則第69号	平成31年3月28日規則第46号
	令和3年2月24日規則第13号	令和5年2月22日規則第14号
	令和6年1月25日規則第9号	

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人熊本大学法人基本規則(平成16年4月1日制定。以下「規則」という。)第50条第4項の規定に基づき、教授会に関し必要な事項を定める。

(教授会)

第2条 各学部、情報融合学環、大学院教育学研究科、大学院各研究部、大学院各教育部及び病院(以下「学部等」という。)に、教授会を置く。

2 教授会は、学長が次に掲げる事項(大学院各研究部及び病院の教授会にあつては第3号に限る。)について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

3 教授会は、前項に規定するもののほか、学部等の長がつかさどる教育に関する事項について審議し、並びに学長及び学部等の長の求めに応じ、意見を述べることができる。

第3条 各研究所、熊本創生推進機構、半導体・デジタル研究教育機構、学内共同教育研究施設で次に掲げるもの及びヒトレトロウイルス学共同研究センターに、教授会として運営委員会(半導体・デジタル研究教育機構及びヒトレトロウイルス学共同研究センターにあつては、運営会議。以下同じ。)を置く。

くまもと水循環・減災研究教育センター
先進マグネシウム国際研究センター
生命資源研究・支援センター

2 前項の運営委員会は、教育又は研究に関する重要な事項で、当該運営委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

第4条 大学院先導機構、大学教育統括管理運営機構、学内共同教育研究施設で前条第1項に掲げる組織以外の組織及び保健センターにあつては、熊本大学に、教授会として学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会を置く。

2 前項の委員会は、同項に規定する組織の教育又は研究に関する重要な事項で、当該委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

第5条 前条第1項の組織の専任の教授は、学部等のいずれかの教授会に所属するものとする。

第6条 教授会(第3条第1項の運営委員会及び第4条第1項の委員会を含む。以下同じ。)を置く組織の長(学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会にあつては、学長。以下同じ。)は、教員の採用及び昇任のための選考について教授会が

審議する場合において、本学の教員人事の方針を踏まえ、その選考に関し、意見を述べることができる。

第7条 教授会に、議長を置き、当該教授会を置く組織の長をもって充てる。

2 議長は、教授会を主宰する。

第8条 教授会は、その定めるところにより、教授会に属する職員のうちの一部の者をもって構成される代議員会、専門委員会等(以下「代議員会等」という。)を置くことができる。

2 教授会は、その定めるところにより、代議員会等の議決をもって、教授会の議決とすることができる。

第9条 教授会は、構成員の3分の2以上が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

2 教授会の議事は、出席した構成員の半数以上であって、教授会が別に定める割合以上の多数をもって決する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、教授会及び代議員会等の組織運営等に関し必要な事項は、当該組織の長が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月27日規則第87号)

1 この規則は、平成20年4月1日から施行する。

2 大学院文学研究科及び大学院法学研究科の研究科委員会については、改正後の第10条の規定にかかわらず、平成20年3月31日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則(平成21年3月26日規則第59号)

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成21年12月24日規則第246号)

この規則は、平成22年1月1日から施行する。

附 則(平成23年11月24日規則第157号)

この規則は、平成23年12月1日から施行する。

附 則(平成25年3月29日規則第108号)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成26年4月30日規則第52号)

この規則は、平成26年5月1日から施行する。

附 則(平成27年1月22日規則第3号)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成28年3月31日規則第234号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年5月31日規則第380号)

この規則は、平成28年6月1日から施行する。

附 則(平成29年3月31日規則第170号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成30年3月22日規則第69号)

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 大学院自然科学研究科の教授会については、第2条第1項の規定にかかわらず、平成30年3月31日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則(平成31年3月28日規則第46号)

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和3年2月24日規則第13号)

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和5年2月22日規則第14号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和6年1月25日規則第9号)

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

○熊本大学文学部教授会規則

(平成 16 年 4 月 1 日規則第 166 号)

改正 平成 19 年 1 月 17 日規則第 2 号 平成 19 年 3 月 20 日規則第 44 号
 平成 20 年 12 月 17 日規則第 272 号 平成 22 年 9 月 15 日規則第 264 号
 平成 23 年 9 月 21 日規則第 133 号 平成 27 年 2 月 18 日規則第 219 号
 平成 27 年 10 月 21 日規則第 279 号 平成 28 年 4 月 1 日規則第 272 号
 平成 28 年 5 月 18 日規則第 330 号 平成 29 年 3 月 21 日規則第 90 号
 平成 30 年 2 月 21 日規則第 96 号 平成 30 年 6 月 20 日規則第 266 号
 平成 31 年 3 月 20 日規則第 95 号 令和 2 年 3 月 25 日規則第 203 号
 令和 6 年 2 月 29 日規則第 26 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、熊本大学教授会規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)第 10 条の規定に基づき、熊本大学文学部教授会(以下「教授会」という。)に関し必要な事項を定める。

(構成)

第 2 条 教授会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 大学院人文社会科学研究部の専任の教授、准教授、講師及び助教で文学部の教育を担当するもの(兼担を除く。)
- (2) 大学教育統括管理運営機構、永青文庫研究センター及び埋蔵文化財調査センターの専任の教授、准教授、講師又は助教のうち、別に定めるところにより教授会が必要と認めた者(審議事項)

第 3 条 教授会は、学長が熊本大学教授会規則第 2 条第 2 項に定める事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学部長がつかさどる教育研究に関する次の事項について審議し、並びに学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。

- (1) 学生の除籍及び懲戒に関する事項
- (2) その他学部の教育研究に関する重要事項

(会議)

第 4 条 教授会は、定例教授会又は臨時教授会とする。

- 2 学部長が職務を遂行できないときは、あらかじめ学部長が指名する者がその職務を代行する。
- 3 公務による海外渡航中の者、その他やむを得ない事由があると教授会が認めた者については、構成員の数に算入しないものとする。

(議事)

第 5 条 教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務)

第 6 条 教授会の事務は、教育研究支援部人社・教育系事務課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、学部長が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成19年1月17日規則第2号)

この規則は、平成19年1月17日から施行する。

附 則(平成19年3月20日規則第44号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年12月17日規則第272号)

この規則は、平成21年1月1日から施行する。

附 則(平成22年9月15日規則第264号)

この規則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則(平成23年9月21日規則第133号)

この規則は、平成23年10月1日から施行する。

附 則(平成27年2月18日規則第219号)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、この規則による改正後の第2条第3号の規定は、平成27年3月1日から施行する。

附 則(平成27年10月21日規則第279号)

この規則は、平成27年10月21日から施行する。

附 則(平成28年4月1日規則第272号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年5月18日規則第330号)

この規則は、平成28年6月1日から施行する。

附 則(平成29年3月21日規則第90号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成30年2月21日規則第96号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成 30 年 6 月 20 日規則第 266 号)

この規則は、平成 30 年 6 月 20 日から施行し、改正後の第 2 条第 1 号の規定は、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 31 年 3 月 20 日規則第 95 号)

この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 2 年 3 月 25 日規則第 203 号)

この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 6 年 2 月 29 日規則第 26 号)

この規則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

文学部各種委員会

	委員会等名	任期
1	学部運営会議 (学士課程教育検討委員会) (図書室運営委員会)	2
2	学部企画会議	2
3	組織戦略委員会	2
4	男女共同参画推進委員会	2
5	自己評価委員会 (学部・大学院教育部教育)	2
6	広報・情報化推進委員会	2
7	入試委員会 (学部)	1
8	教務委員会	1
9	教養教育部会長・副部長	
10	学部コース主任	
11	教職課程委員会	2
12	学芸員課程委員会	1
13	日本語教育課程に係る文学部担当者	1
14	社会調査士連絡責任者	1
15	学生支援委員会	2
16	国際交流委員会	1
17	ファカルティディベロップメント委員会	2
18	大学院紀要編集委員会	1
19	文学会理事	1
20	漱石・八雲教育研究センター兼務教員	2
21	国際マンガ学教育研究センター兼務教員	2
22	心理実習施設連絡委員	1

○国立大学法人熊本大学自己点検・評価に関する規則

(令和3年3月24日規則第80号)

改正 令和4年3月14日規則第28号 令和5年3月20日規則第72号

令和6年3月27日規則第144号 令和7年3月27日規則第120号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人熊本大学法人基本規則(平成16年4月1日制定)第10条第4項の規定に基づき、国立大学法人熊本大学(以下「本学」という。)が教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価(以下「自己点検・評価」という。)に関し必要な事項を定める。

(自己点検・評価の領域)

第2条 自己点検・評価の対象とする領域(以下「自己点検・評価領域」という。)は、別表の左欄に掲げるとおりとする。

(統括責任者)

第3条 本学に、自己点検・評価統括責任者(以下「統括責任者」という。)を置き、学長をもって充てる。

2 統括責任者は、自己点検・評価に係る業務を統括する。

(推進責任者)

第4条 本学に、自己点検・評価推進責任者(以下「推進責任者」という。)を置き、別表の左欄に掲げる自己点検・評価領域に応じ、別表の中欄に掲げる者をもって充てる。

2 推進責任者は、自己点検・評価に関する業務を掌理する。

(推進責任者による自己点検・評価等)

第5条 推進責任者は、別表の右欄に掲げる会議又は委員会(以下「所掌会議等」という。)の議を経て、評価項目を定めるものとする。

2 推進責任者は、事業年度ごとに、前項の評価項目について、自己点検・評価を実施する。

3 推進責任者は、前項の自己点検・評価を実施するに当たって、必要に応じて、学生、卒業生若しくは修了生又は卒業生若しくは修了生の主な雇用者その他の関係者から意見を聴取するものとする。

4 推進責任者は、第2項の自己点検・評価の結果を国立大学法人熊本大学大学評価会議(以下「大学評価会議」という。)に報告するものとする。

5 推進責任者は、前項の自己点検・評価の結果に改善が必要な事項があると認めるときは、所掌会議等の議を経て、改善計画を定め、大学評価会議に報告するとともに、改善を実施するものとする。

6 推進責任者は、前項の改善の実施状況を、事業年度ごとに、大学評価会議に報告するものとする。

(大学評価会議による自己点検・評価等)

第6条 大学評価会議は、前条第4項の自己点検・評価の結果、同条第5項の改善計画及び同条第6項の改善の実施状況(以下「推進責任者による自己点検・評価の結果等」という。)に基づき、原則として6事業年度ごとに、前条第1項の評価項目について、自己点検・評価を実施する。

2 大学評価会議は、前項の自己点検・評価の結果を統括責任者に報告するものとする。

(統括責任者による改善指示)

第7条 統括責任者は、前条第2項の自己点検・評価の結果に改善が必要な事項があると認めるときは、推進責任者に改善計画の策定を指示するものとする。

2 推進責任者は、前項の指示を受けた場合は、所掌会議等の議を経て、改善計画を定め、統括責任者に報告するものとする。

3 統括責任者は、前項の改善計画に基づき、推進責任者に改善を指示するものとする。

4 推進責任者は、前項の指示に基づき、改善を実施するものとする。

(外部評価の実施)

第8条 統括責任者は、自己点検・評価の結果について、必要に応じて、本学の職員以外の者による評価を受けるものとする。

(公表)

第9条 大学評価会議は、自己点検・評価の結果を、本学のホームページ等で公表するものとする。

(事務)

第10条 自己点検・評価に関する事務は、経営企画本部において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、自己点検・評価に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和4年3月14日規則第28号)

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月20日規則第72号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和6年3月27日規則第144号)

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

附 則(令和7年3月27日規則第120号)

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

別表(第2条、第4条、第5条関係)

評価領域	推進責任者	所掌会議等
教育	教育・学生支援担当の理事	国立大学法人熊本大学教育会議カリキュラム評価委員会
施設管理	総務・財務・施設担当の理事	国立大学法人熊本大学施設・環境委員会
設備(ICT)	情報ガバナンスを所掌する副学長	国立大学法人熊本大学 ICT 戦略会議
設備(図書)	附属図書館長	熊本大学附属図書館運営委員会
学生支援	教育・学生支援担当の理事	熊本大学学生委員会
入学者受入	入試・高大連携担当の副学長	熊本大学入学試験委員会
研究	研究・グローバル戦略担当の理事	国立大学法人熊本大学研究推進会議
社会貢献	研究開発戦略本部長	熊本大学研究開発戦略本部運営委員会
国際	グローバル推進機構長	熊本大学グローバル推進機構会議

○国立大学法人熊本大学大学評価会議規則

(平成 19 年 3 月 22 日規則第 52 号)

改正 平成 20 年 3 月 27 日規則第 80 号 平成 21 年 3 月 26 日規則第 61 号
 平成 21 年 12 月 24 日規則第 252 号 平成 22 年 9 月 30 日規則第 134 号
 平成 23 年 3 月 24 日規則第 27 号 平成 25 年 4 月 1 日規則第 63 号
 平成 28 年 3 月 31 日規則第 155 号 平成 29 年 3 月 31 日規則第 113 号
 平成 30 年 3 月 22 日規則第 104 号 平成 31 年 3 月 29 日規則第 40 号
 令和 3 年 3 月 31 日規則第 105 号 令和 3 年 12 月 28 日規則第 230 号
 令和 6 年 3 月 27 日規則第 56 号

(設置)

第 1 条 国立大学法人熊本大学法人基本規則(平成 16 年 4 月 1 日制定。以下「規則」という。)

第 29 条第 1 項の規定に基づき、国立大学法人熊本大学に、国立大学法人熊本大学大学評価会議(以下「大学評価会議」という。)を置く。

(組織)

第 2 条 大学評価会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学改革・評価担当の理事
- (2) 学長が指名する理事 2 人
- (3) 国立大学法人熊本大学自己点検・評価に関する規則(令和 3 年 3 月 24 日制定)第 4 条に規定する自己点検・評価推進責任者
- (4) 文学部、法学部、大学院人文社会科学部及び大学院社会文化科学教育部の副部局長のうちから選出された者 3 人
- (5) 教育学部及び大学院教育学研究科の副部局長のうちから選出された者 1 人
- (6) 理学部、工学部、情報融合学環、大学院先端科学研究部及び大学院自然科学教育部の副部局長のうちから選出された者 3 人
- (7) 医学部、薬学部、大学院生命科学研究部、大学院医学教育部、大学院保健学教育部及び大学院薬学教育部の副部局長のうちから選出された者 4 人
- (8) 病院の副部局長
- (9) 経営企画本部長
- (10) その他学長が必要と認めた者

2 前項第 10 号の委員は、学長が委嘱する。

3 第 1 項第 10 号の委員の任期は学長が委嘱の都度定めるものとし、再任を妨げない。

(任務)

第 3 条 大学評価会議は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 自己点検・評価の基本方針及び具体的施策の策定に関すること。
- (2) 自己点検・評価の実施及び結果の公表に関すること。
- (3) 自己点検・評価の結果に基づく改善に関すること。

- (4) 第三者評価への対応に関すること。
- (5) その他大学評価に関し議長が必要と認めた事項
(議長)

第4条 大学評価会議に、議長を置き、大学改革・評価担当の理事をもって充てる。

- 2 議長は、大学評価会議を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。
(議事)

第5条 大学評価会議は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 大学評価会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
(意見の聴取)

第6条 議長は、必要があるときは、委員以外の者を大学評価会議に出席させ、意見を聴くことができる。
(委員会等)

第7条 大学評価会議に、委員会及びワーキンググループを置くことができる。

- 2 委員会及びワーキンググループに関し必要な事項は、別に定める。
(事務)

第8条 大学評価会議の事務は、経営企画本部において処理する。
(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、大学評価会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人熊本大学大学評価会議規則(平成16年4月1日制定)及び国立大学法人熊本大学大学評価本部規則(平成16年4月1日制定)は、廃止する。

附 則(平成20年3月27日規則第80号)
この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年3月26日規則第61号)
この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成21年12月24日規則第252号)
この規則は、平成22年1月1日から施行する。

附 則(平成22年9月30日規則第134号)

この規則は、平成 22 年 10 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 3 月 24 日規則第 27 号)
この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 25 年 4 月 1 日規則第 63 号)
この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 28 年 3 月 31 日規則第 155 号)
この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 3 月 31 日規則第 113 号)
この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 30 年 3 月 22 日規則第 104 号)
この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 3 月 29 日規則第 40 号)
この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 3 年 3 月 31 日規則第 105 号)
この規則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 3 年 12 月 28 日規則第 230 号)
この規則は、令和 4 年 1 月 1 日から施行する。

附 則(令和 6 年 3 月 27 日規則第 56 号)
この規則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
LLX1-000-99-0	2025前期	文学部(06100)	2	2	月曜5限
科目名(講義題目)			担当教員		
キャリア支援(これからの社会におけるキャリア形成の在り方について)			濱本 伸司, BAUER Tobias		
学修成果とその割合					
1.豊かな教養・・・20% 2.確かな専門性・・・10% 3.創造的な知性・・・20% 4.社会的な実践力・・・30% 7.汎用的な知力・・・20%					
授業の形態	講義				
授業の方法	対面授業による講義形式				
授業の目的	学生が多様なキャリア形成の在り方を学ぶ中で、これから自分自身が生きていく社会や求められる能力などを知り、自分自身のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアについて自分自身で設計できるようになることを目指している。				
学修目標	<p>【A水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容をほぼ100%理解している ・多様なキャリア形成を比較し検討する中で、自分自身の今後のキャリアについて論理立てて他人へ説明できるようになる ・自分自身の今後のキャリアを論理立てて設計し、行動計画に落とすことができる <p>【C水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を概ね理解している 				
授業の概要	多様な現場で働いている社会人ゲストをお招きし、話をお聞きする中でキャリア形成の在り方や、これから自分自身が生きていく社会や求められる能力などを考える。また、自身のキャリアについて自分自身で設計してみる機会を持つ。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		オリエンテーション/仕事とは？はたらくとは？私たちの未来は？	これからの社会情勢や仕事のあり方を考えながら、自分にとっての「はたらく」とはどのようなことを考える。		
2		私のこれからの考える ～濱本の人生を参考に～	フミダス濱本が歩んできた人生を参考に、自分の人生をどのように歩みたいのか、過去や現在を見つめながら、これからの私を考える。		
3		これからの就活と私を考える	就職活動のやり方やスケジュール、企業の在り方も大きく変化する中で、これから自分自身はどのような軸で就活をしていくのかを考える。		
4		ベンチャー企業と私を考える	ベンチャー企業の方をお招きし、話をお聞きしながら自分にとっての「はたらく」を考える。		
5		NPOと私を考える	NPO法人の方をお招きし、話をお聞きしながら自分にとっての「はたらく」を考える。		
6		外資系企業と私を考える	外資系企業の方をお招きし、話をお聞きしながら自分にとっての「はたらく」を考える。		
7		起業と私を考える	起業された方をお招きし、話をお聞きしながら自分にとっての「はたらく」を考える。		
8		半導体と私を考える	半導体企業の方をお招きし、話をお聞きしながら自分にとっての「はたらく」を考える。		
9		地域企業と大学生のホンネカフェ①	熊本の地域企業の方々をお招きし、合同説明会や面接ではない場だからこそ聞けるお互いのホンネを聴き、自分にとっての「はたらく」を考える。		
10		地域企業と大学生のホンネカフェ②	熊本の地域企業の方々をお招きし、合同説明会や面接ではない場だからこそ聞けるお互いのホンネを聴き、自分にとっての「はたらく」を考える。		
11		地域企業と大学生のホンネカフェ③	熊本の地域企業の方々をお招きし、合同説明会や面接ではない場だからこそ聞けるお互いのホンネを聴き、自分にとっての「はたらく」を考える。		
12		地域企業と大学生のホンネカフェ④	熊本の地域企業の方々をお招きし、合同説明会や面接ではない場だからこそ聞けるお互いのホンネを聴き、自分にとっての「はたらく」を考える。		
13		地域企業と大学生のホンネカフェ⑤	熊本の地域企業の方々をお招きし、合同説明会や面接ではない場だからこそ聞けるお互いのホンネを聴き、自分にとっての「はたらく」を考える。		
14		自分のキャリアを設計すること①	これから歩む自分自身のキャリアについて考える		
15		自分のキャリアを設計すること②	これから歩む自分自身のキャリアについて考える		
授業外学修時間の目安	講義科目(2単位) {授業時間2時間(90分) + 授業外学修(予習・復習など)4時間} × 15週 = 90時間				
テキスト	使用しない				
参考文献	特になし				
履修条件	特になし				
評価方法・基準	毎回の授業後提出のレポート90%、キャリア設計シート提出10%				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト				
実務経験を活かした授業	該当(認定キャリア教育コーディネーターの資格を持ち、熊本県立大学や北九州市立大学などでの実践教育プログラムの開発やコーディネート、熊本県や熊本市などとのイノベーター育成などを実施している経験を活かし、これから社会で求められる能力やキャリア形成の在り方について考える機会を提供する。)				



Kumamoto University

Get a job by
KUMA★NAVI!

つかめ!!就活の星

熊大生の就職活動を総合的に支援する、KUMA★NAVI!!
キミもいますぐ登録して、就職の星を掴もう!!



熊大就活ナビ

熊本大学 学生専用キャリア支援サイト

KUMA★NAVI

熊大生の就活の
強い味方!

KUMA★NAVI 3つのPOINT

POINT 1

熊大に寄せられた、企業・求人情報が
どこからでも
検索・閲覧可能!
(登録制)

POINT 2

学内のガイダンス・セミナー等の
申込みや予約も
カンタン!
(学部個別の行事を除く)

POINT 3

パソコンでもスマホでも
各種機能が使えて
とっても便利!

さあ、今すぐ
アクセス!!

いつでもどこでも求人の閲覧やエントリー、就職情報をチェックできる!

<https://uc-student.jp/kumamoto-u/>

(2018年1月~)

QRでカンタン
アクセス!



お問合せ

熊本大学学生支援部就職支援課 TEL: 342-2117 E-mail: gas-syuki@jimu.kumamoto-u.ac.jp

詳しい使い方は
裏面を CHECK!

step1

スマートフォンでQRコードを読み込む または 次の手順で、KUMA★NAVI ホームページへアクセス

熊本大学ホームページトップページ

キャリアサポート

KUMA★NAVI



QRコード→

step2

熊本大学 ID、パスワードを入れてログイン

熊本大学IDとパスワードを入力してください(熊本大学ID確認/パスワード変更)

Service Provider: キャリタスUC

熊本大学ID:

パスワード:

表示言語(Display language): 日本語

ユーザ情報送信の同意を解除する

ログイン

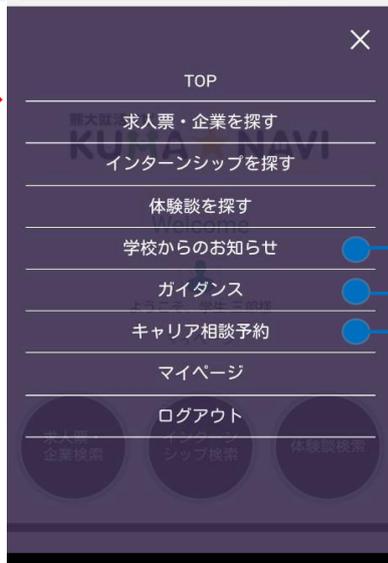
熊本大学ID/パスワードを入力

1. 「Service Provider」が「キャリタスUC」と表示されます。
2. 情報送信の確認画面が表示されます。(安心して次に進んで下さい。)
3. 初回ログインのみ、「学生基本情報登録」にて、基本情報の登録が必要になります。

step3

KUMA★NAVI を活用しよう!

学内企業説明会などの就活支援イベント情報が得られる【ガイダンス申し込み】や50分枠でじっくり相談ができる【キャリア相談予約】を活用して学内でしっかり就活の準備ができます。



学校からのお知らせ

大学からの就職支援に関する最新情報等が表示されます。

ガイダンス

学内で開催される就活関連イベントの詳細を確認し、予約をすることができます。

キャリア相談予約

キャリア支援課の就職相談員が、進路に関する相談やエントリーシートの添削、面接練習等をしてくれます。1コマ50分枠で、2週間先までの予約が可能です。(相談員2名、午後4コマで実施)

各カテゴリー

トップ画面を下にスクロールすると、各種検索ボタン、大学からのお知らせや求人に関する情報が表示されます。

重要

キャリア支援サイト (ポータルサイト)

OB・OGキャリアメッセージ (キャリア支援サイト)

就職や進学など、進路が決定したら

進路決定報告システム で報告を!

熊本ポータルにある「進路決定報告システム」から報告をお願いします。

※学内 LAN 内のパソコン (図書館、キャリア支援課、各研究室) を使用の上、熊大 ID でログインした場合のみ、入力可能です。

就職 (企業就職、教職、公務員) のみならず、進学など卒業後の進路を **全員が必ず登録** することになっています。最終的な進路が決定したら速やかに登録して下さい。

【各種問合せや相談は・・・】

学生支援部就職支援課

黒髪北地区 全学教育棟 C 棟1階

電話 096-342-2117・2120

